清代山西の貨幣と経済

――寺廟への寄付事例より

村　上　　衛

はじめに …… 1
Ⅰ　清代の山西省経済と寺廟の碑刻 …… 3
Ⅱ　寄付される貨幣・現物 …… 8
Ⅲ　寄付者の分布 …… 15
Ⅳ　寄付する人々 …… 22
おわりに …… 42

はじめに

アヘン戦争前のアヘン貿易による「銀の流出」とその政治・経済的影響が着目されたことから、19世紀前半の貨幣史は中国経済史の焦点の一つであった。21世紀に入ると、林満紅は「銀の流出」に関してアヘン貿易以外の原因を指摘しつつ、清朝経済への銀の供給要因を重視する議論を展開した(1)。これに対してアレハンドラ・イリゴインが独立したラテン・アメリカ諸国の銀貨への需要を重視する議論を(2)、リチャード・フォン・グランが対外貿易の影響が小さいとみなす議論を展開、いずれも中国国内の需要を重視する立場をとった(3)。一方、岸本美緒は刑科題本や土地契約文書を利用して各地域の貨幣使用状況を明らかにし、イリゴイン、フォン・グランに反論するとともに、中国の市場構造の重要性を指摘した(4)。

また、貨幣論を展開してきた黒田明伸は、18世紀後半の乾隆期に制銭を現地の穀物備蓄と結びつけながら大量供給したことによって日常的売買が銀両建てから銅銭建てに転換し、現地通貨（銅銭）と地域間決済通貨（銀両）が分離したとしている(5)。19世紀中葉の銀流出に関しては、アヘン貿易による銀銭比価の変動が遠距離貿易と納税者に困難をあたえたとする一方で、銅銭建ての物価は安定しており、銀不足の農民への影響は小さかっ

たとみなしている[6]。これについては、銀を利用する上層市場から銅銭を利用する下層市場が独立的であるという黒田の想定の是非も重要となる[7]。

いずれにしても、貨幣の使用状況と銀の流入・流出の影響についての事例研究は十分ではなく、先行研究でカヴァーされていない地域も多い。そこで、碑刻史料を利用して、貨幣利用に関する事例研究を拡大することを考えた。

もちろん、碑刻史料を使用することの問題点は存在する。碑刻の性格は多様であり、代表性に問題がある。碑刻の摩滅・破壊により、データが不完全なこともある。碑刻を大量に収録した資料集は便利であるが、紙幅の都合による寄付者の省略、誤記などの問題もある。さらに、共同で寄付していたことによって、個々の寄付額が不明の場合もあり、金額の記載のないことも多い。さらには、小額の寄付が記録されない可能性すらある[8]。

寄付額が記されていたとしても、寄付額は日常の取引より高額になりがちで、低質の銅銭である小銭や銭票で支払ったと記載されることはないから、日常的に使用していない貨幣を記載する可能性がある。「銀〇〇両」と記載されていても、どの種類の「両」なのか不明なことも多い。そして、実際にどの通貨で寄付したのかも不明である。寄付時期と建碑の時期にずれがあり、正確な寄付時期は分からないことも多い。そして。現物の寄付の場合はその価値を評価することは難しい。

しかしながら、碑刻史料を使用することのメリットは大きい。まず、多数の碑刻のデータを統合すれば寄付者の大量のデータを得ることができる。これは、断片的な記述史料よりもはるかに有意であり、信頼性も高い[9]。大量のデータを揃えることによって代表性やデータの不完全性の問題はかなり克服できる。また、寺廟などの建物の建造・修復を行う際には、寄附金は器物や木材・石材をはじめとする建材などの購入費や工事に携わる職人・労働者の賃金に充当されるから[10]、その地域で流通し、兌換可能な貨幣を記載している可能性が高い。さらに貨幣以外の要素の分析、特に官僚・士大夫の残した記述史料に残らない多様な階層が対象となり、より社会の広い階層を視野に入れた分析が可能である。

そこで、これまで蘇州・上海・北京・泉州・広州について碑刻を用いた分析を行ってきた。対象としたのは蘇州・上海・北京については同郷・同業団体の設立した会館・公所、福建南部泉州府の泉州府城・晋江県および同安県（廈門周辺）と広州府属については寺廟に残された碑刻である[11]。これらの碑刻のデータから得られた貨幣の使用状況は、岸本の刑科題本・土地契約文書から得られた結論と大きく異ならない。これは、碑刻データを利用した分析の有効性を示している[12]。

また寄付者の分布をみるなかで、都市部を中心とした官僚・士大夫層の寄付額が大きいこと、広州周辺の農村部における農民の寄付額がほぼ均等であることが分かった。全体的

にみると、収入の格差は大きいが、中間層が薄く裾野が非常に広い傾向をみてとることができた。ここから、急速な上昇と没落がみられる、上層にいたとしても安心できない「不安な格差社会」であると考えた[13]。

もっとも、これまでに取り上げた地域は首都北京と経済的に豊かな華中・華南沿海部に限られてきた。そこで本論では、これまで碑刻データが十分に利用されてこなかった山西省の碑刻の事例を取り上げる[14]。山西省はこれまでの検討対象地域とは異なり華北内陸部に位置するだけでなく、明代に勃興した山西商人の活動と19世紀における山西票号の全国的展開によって、明清時代の中国経済において重要な役割を果たす人々を輩出した省である。本論では、まず清代の山西省経済を概観したうえで、寄付事例から貨幣の使用状況と寄付者集団について分析を進めるとともに、これまでに検討してきた事例と比較することによって、山西省を中国全体の中で位置づけてみたい。そのうえで、全国的な貨幣の流れと格差の問題について考察することとする。

Ⅰ　清代の山西省経済と寺廟の碑刻

1　清代の山西省

(1) 山西の人口

山西省は地理的に60％前後が黄土におおわれた高原であり、山地と丘陵がそれぞれ面積の約40％を占め、大半の地域で海抜は1,000 ～ 2,000 m に達する。山西省は西側と南側を黄河、東側を太行山脈、北側を長城に囲まれ、中央部では南北方向に大同・忻定・太原・臨汾・運城という5つの河谷盆地が連なり、そこに人口が集中している[15]。本論でとりあげる碑刻の大半が立地しているのもこの河谷盆地である。

山西省は、標高が高く周囲が山に囲まれていることもあり、気温はやや低く、乾燥している。省内の地域的な差は大きいが、年間の平均気温は13.8℃、平均降水量が535 mm である[16]。こうした気候の制約や黄土高原という地形も影響し、本論で取り上げる山西省の中南部はバックの区分では冬小麦 – ミレット地帯に相当し、冬小麦・粟・綿花・コーリャンを栽培し、大半が年一作で、生産性は低い[17]。

山西省の清代から中華人民共和国が成立する20世紀中葉までの人口推計は表1のとおりである。19世紀半ばまでは増加し、その後は大幅に減少して回復するのは20世紀半ばになってからである。人口増加期における年平均増加率は1749 ～ 1776年は9.5‰、1776 ～ 1820年は3.6‰と推計されている。中国本土全体の年平均増加率は1749 ～ 1776年は平均20.5‰、1776 ～ 1820年に平均4.6‰に達していたから、他の多くの地域と比較すると増加

表1　山西省の人口推計（人口は万単位、人口密度は1 km^{2}あたりの人口）

府・州	面積（km^2）	1776年	人口密度	1820年	人口密度	1851年	人口密度	1880年	人口密度	1910年	人口密度	1953年	人口密度
解州	4,417	65.1	147.4	80.0	181.1	83.0	187.9	30.0	67.9	39.0	88.3	56.7	128.4
絳州	5,322	75.3	141.5	101.7	191.1	115.1	216.3	44.5	83.6	55.2	103.7	75.3	141.5
蒲州府	3,784	88.8	234.7	110.9	293.1	125.5	331.7	34.7	91.7	41.5	109.7	62.8	166.0
平陽府	13,880	124.8	89.9	139.8	100.7	151.6	109.2	56.6	40.8	72.4	52.2	122.1	88.0
隰州	5,842	11.5	19.7	13.4	22.9	14.9	25.5	5.3	9.1	8.1	13.9	14.6	25.0
霍州	2,696	30.1	111.6	35.1	130.2	39.1	145.0	14.5	53.8	23.5	87.2	31.4	116.5
澤州府	9,309	75.5	81.1	90.0	96.7	101.8	109.4	78.7	84.5	90.6	97.3	111.0	119.2
潞安府	8,478	78.9	93.1	94.1	111.0	106.5	125.6	82.3	97.1	97.7	115.2	125.3	147.8
沁州	5,454	22.4	41.1	26.7	49.0	30.2	55.4	23.4	42.9	27.3	50.1	34.1	62.5
遼州	6,219	17.8	28.6	21.3	34.2	24.1	38.8	8.0	12.9	12.4	19.9	25.1	40.4
汾州府	14,920	156.7	105.0	180.7	121.1	200.1	134.1	86.9	58.2	105.1	70.4	138.1	92.6
太原府	17,690	183.0	103.4	208.7	118.0	232.9	131.7	110.4	62.4	138.8	78.5	192.8	109.0
平定州	8,542	56.1	65.7	64.0	74.9	70.2	82.2	60.6	70.9	72.0	84.3	92.4	108.2
忻州	6,247	32.0	51.2	36.6	58.6	40.1	64.2	30.2	48.3	36.8	58.9	48.7	78.0
保德州	2,786	12.4	44.5	14.1	50.6	15.5	55.6	8.3	29.8	10.3	37.0	13.7	49.2
代州	9,623	45.0	46.8	51.3	53.3	56.3	58.5	58.0	60.3	64.4	66.9	74.8	77.7
寧武府	5,896	21.0	35.6	23.9	40.5	26.2	44.4	14.7	24.9	18.2	30.9	24.5	41.6
大同府	29,260	70.2	24.0	76.5	26.1	81.4	27.8	73.2	25.0	106.9	36.5	201.4	68.8
朔平府	15,070	48.5	32.2	53.0	35.2	56.4	37.4	50.8	33.7	67.3	44.7	75.5	50.1
帰綏六庁	21,540	11.1	5.2	12.1	5.6	12.9	6.0	11.6	5.4	99.2	46.1	101.1	46.9
合計	196,975	1,226.2	62.3	1,433.9	72.8	1,583.8	80.4	882.7	44.8	1,186.7	60.2	1,621.4	82.3

出典：曹樹基『中国人口史　第五巻　清時期』復旦大学出版社、2001年、699–700頁

率は低い[18]。1776年以降の人口増加率の低下は、すでに山西省の人口が飽和状態に近かったことが原因と思われ、これは全国的な傾向とも一致する[19]。

19世紀半ばにおける中国の人口減少は太平天国をはじめとする反乱の影響が大きい。だが、山西省は、19世紀中葉の反乱の主体となった太平天国・捻軍・陝甘の回民といった勢力の主な活動範囲外にあった。太平天国は北京をめざす北伐軍が1853年9月に河南から山西南部を経由して直隷に入ったのみで、山西省内に展開したのは25日程度、攻略された府城・県城は10箇所であった。捻軍（西捻軍）も1867年12月～1868年1月に南部を通過したのみで、山西省内への展開は20日程度、占領した県城は3箇所であった[20]。したがって、当該期の反乱による被害は中国の他の地域と比較すれば圧倒的に少ない。ただし、本論で取り上げる碑刻の所在する県は一部被害に遭っており[21]、【184】「重修馬王廟

碑記（1870）」のように、捻軍の被害を受けた廟宇の再建を記した碑刻もある[22]。

19世紀の山西省に大きな影響を与えたのは「丁戊奇荒」とよばれる光緒年間の華北大飢饉（1876 ～ 1880年）である。この飢饉は干魃が原因で、1877年が最も深刻であった。山西・河南・直隷・山東・陝西の人口損失は2,290万人、そのうち山西は818.3万人、人口の47.2％に及び、特に降水量が著しく少なかった平陽府・絳州を含む山西省の西南地区の人口損失は67.6％に達したと推計されている[23]。表1において19世紀半ばの人口が1880年に大幅に減少して20世紀初頭に半ばまで回復していないのはこの飢饉が原因である。

（2）山西の商業・金融業

清代の山西経済を特徴付けているのは商業・金融業である。山西商人勃興の背景には、明朝がモンゴル対策として北方に大量の軍隊を駐屯させたことがある。洪武3年（1370）に始まる開中法によって、北方の軍隊駐屯地に食糧・物資を納入した商人に対して、それと引き換えに専売制であった塩の販売権を与えたことから、北方のモンゴルとの境界地帯に隣接する山西の商人が勃興した。16世紀後半から17世紀前半にかけて、銀の支払いにより塩の販売権を入手することが可能になったため、山西の塩商が揚州に移動するなど、山西商人の活動は華北を中心としつつ、長江流域などに拡大した[24]。清代になると山西商人は西北地域や東北地域にも進出、全国各地に会館を設置、また山西の茶商人はロシアとのキャフタ貿易においても中心的な役割を果たした[25]。

山西は商業だけではなく、金融業でも大きな役割を果たしてきた。清代の山西では典當業が発展し、乾隆期には全国で数値が判明している2万2,781家中4,695家を占めるなど、雍正2年（1724）から嘉慶17年（1812）に至るまで全国で最も典當が多い省であった。この山西の典當は山西省内のみならず北京・天津をはじめとして北方の各地で支配的な地位を占めていた[26]。このほか、小規模な貸借を行う印局、預金・貸付業務を行う賑局・銭荘も発達していた[27]。

19世紀になると、1823年に平遥の顔料商西裕成の経理であった雷履泰が日昇昌を設立したことよって山西票号が誕生した。平遥・祁県・太谷県などでは日昇昌に続いて票号が次々と設立され、これらの票号は北京や全国の主要な商業拠点に支店を設けて為替送金や交易決済を行った。その後、19世紀中葉の動乱期に一時衰退するが、1860年代以降は開港場貿易の発展と、清朝の為替業務を請け負って成長し、20世紀初頭に清朝が滅亡するまで金融業で全国的に大きな役割を果たしていく[28]。

（3）明清時代山西の銅銭流通

明代の15世紀半ば以降の貨幣使用状況については、足立啓二が、銀財政に移行した後でも、銅銭は北京・南京や沿海諸省で使用されたのに対し、その他の地域ではそもそも銅

銭を使用する慣習がなく、低品位の銀や、米や布、塩や毛皮、子安貝といった「現物貨幣」が流通しており、山西でも低品位の銀が使用されていたとする[29]。これに対し、明末の山西省の貨幣状況については、隆慶4年（1570）に提出された、山西巡撫・靳学顔の上奏文「講求財用疏」がしばしば引用され、そこでは銀不足とともに、正徳（1506～1521年）・嘉靖（1522～1566年）以前には銅銭が盛んに使用されたが、現在は廃れてしまって銀ばかりが流通していたとされており、銅銭が16世紀前半には受容されていたという見方もある[30]。

清代になると、先述したように、中国本土全体では乾隆期に銀遣いから銅銭遣いへの変化が生まれてきた。しかし、銅資源の不足から省政府の鋳造する低質の小銭が拡大、それにともなって私鋳銭や銭票の使用も増大し、制銭の画一的流通が崩壊した[31]。

山西省の銅銭鋳造についてみると、清代初期から行われていたが、断続的であり、本格的に拡大するのは乾隆年間である。鋳造額は定額では乾隆13年（1748）に4,232.4万文、乾隆18年（1753）に2,620.8万文、乾隆21年（1756）に4,804.8万文であり、乾隆37年（1772）以降に2,620.8万文に減少した[32]。

全国的にみると山西省の銅銭供給は極めて少なかった、清朝の制銭供給には偏りがあり、その鋳銭は北京（京師）と銅を産出する西南三省（雲南・四川・貴州）に集中していた。乾隆年間の制銭鋳造量は北京が全体の46％を占め、そのほか、雲南省が16％、四川省が8％、貴州省5％を占めていて、山西省は1％にすぎない。これを人口1人あたりの鋳造額でみると、雲南省が5,630文で突出しており、北京を含む直隷省が2,419文、四川省が1,148文、貴州省が1,008文であるのに対して山西省は89文で、これより少ないのは67文の広東省と、そもそも鋳造を行っていない甘粛・河南・山東・安徽の4省のみである[33]。

山西省では銅銭供給が少ないため、小銭や銭票の流通が増大したとされている[34]。事実、北京と華北の5省（直隷・河南・山東・山西・陝西）における銭票の使用が多かったとされるが[35]、直隷省を除けばいずれも銅銭供給量が少なかった地域である。銭票は乾隆年間に使用が始まったとされ、山西省には現存する乾隆・嘉慶年間といった早期の銭票と銭票帖版が最も多く残されているように、銭票が早くから広く普及し[36]、高額の取引には現銭ではなく銭票が広く利用されていた[37]。また、その使用レベルも村レベルから、鎮、県、府州レベルにおよび[38]、上層市場から下層市場に至るまで広く使用されていた。

19世紀後半も、咸豊6年（1856）から光緒25年（1899）まで山西省の銅銭鋳造はほとんど停止し、その後も銅元も鋳造しなかった。そのため山西省では小額貨幣の不足が深刻化し、短陌慣行が広がり、小銭・銭票の使用が拡大した[39]。

表2　建碑・寄付時期

	蘇州	上海	北京	山西	泉州	同安	広州
16世紀	0	0	0	5	3	0	0
17世紀	0	2	0	23	3	2	6
18世紀前半	2	1	3	25	1	4	8
18世紀後半	7	4	9	49	9	13	16
19世紀：開港前	8	8	15	52	9	24	13
開港後（1843 ～ 1911）	33	42	20	64	32	57	28
不明	0	2	1	0	0	0	0
合計	50	59	48	218	57	100	71

出典：村上2021

2　使用史料と碑刻の概要

本論では姚春敏主編『明清山西碑刻題名輯要』全2冊（商務印書館、2021年）を用いる。当該書は山西師範大学戯劇与影視学院教授の姚春敏と山西師範大学戯曲文物研究所の所蔵する碑刻集のうち、寄付者の大量の名前を掲載し、拓本が存在する碑刻、1450 ～ 1939年の305通を収録している。画像が不鮮明な部分はあるが、拓本が収録され、また寄付者名の省略がなく全文が記載されていることから本論で取り上げることとした[40]。

本論では寄付データが得られた、明代後期の1526年から清末の1908年までの碑刻218通を取り上げる。その全体像については附表1に示した。時期を清末までにとどめたのは19世紀末以降、特に中華民国期になると、他省で鋳造された銅元を使用しながら銅銭建ての表記が続くなど[41]、貨幣の表記と実際の使用状況との乖離が進むからである。各碑刻別のデータについては附表1に整理した。

建碑時期をまとめたのが表2である。17世紀・19世紀をより細かく見ると、17世紀の23通のうち、前半12通、17世紀後半11通でほぼ同じである。19世紀は前半が61通、後半が48通となり、19世紀前半が最多となる。このうち、明清交替期の1631 ～ 1651年の碑刻は収録されていない。

19世紀については、1801 ～ 1810年13通、1811 ～ 1820年16通、1821 ～ 1830年13通、1831 ～ 1840年9通、1841 ～ 1850年10通、1851 ～ 1860年11通[42]、1861 ～ 1870年10通、1871 ～ 1880年8通、1881 ～ 1890年8通、1891 ～ 1900年11通となり、動乱時期も対象となる。大飢饉の時期の1876 ～ 1880年は5通あり、その影響をみてとることはできない。

月別では、旧暦で正月4通、二月19通、三月12通、四月18通、閏四月1通、五月9通、六月8通、七月27通、八月22通、閏八月1通、九月19通、十月23通、十一月23通、十二

月16通となり、正月と五、六月が少ない。先述したようにバックのいう冬小麦－ミレット地帯は大半が一年一作で、農繁期は新暦の3月～9月である[43]。旧暦の五・六月が少ないのは端境期であることが影響している可能性はある。

碑刻の立地をみると、124箇所になる。立地している地域は表3のとおりであり、澤州府が124箇所のうち44箇所と三分の一以上を占め、碑刻の数も同様に三分の一以上を占める。そのほか平陽府・汾州府・太原府・潞安府・平定州・絳州が中心となる（地図参照）。これらの地域はいずれも山西省の中南部で、表1が示すように、平定州を除けば1851年の1 km^2あたりの推定人口が100人を超えるような省内では人口密度が高い地域である。介休県・太谷県・楡次県といった商業活動が活発な地域を多く含む一方[44]、山西票号の活動の中心となった平遥県や祁県の事例はなく、太谷県も2通にすぎないから[45]、金融活動の中心ではない。また、解池があり塩業の中心であった解州の事例は少ない[46]。立地場所は府城・県城といった都市を離れた周辺の農村部であり、大半が鎮などの人口集中地以外の場所に立地している。下層市場に近い事例といえるが、村落レベルの廟ではないので最下層の末端に立地しているとはいえない。

本論で利用する碑刻の多くは道教寺院を中心とする寺廟に関係している。そのうち、関帝廟が15通（13箇所）[47]、三教堂（三教廟）が14通（8箇所）[48]、東岳廟（岱岳廟）が11通（6箇所）[49]、玉皇廟が11通（7箇所）[50]、黒龍廟が6通（3箇所）[51]となる。関羽の出身地であるために関帝廟が多いほか、澤州府では儒仏道の三教信仰が盛んであったことから三教合祀堂も多い[52]。

以上をふまえ、以下では、貨幣の使用状況と寄付される現物について確認したうえで、寄付者の特徴・分布を考察する。その際には、これまで検討してきた地域のデータと比較することで、山西の碑刻のデータを位置づけていきたい。

Ⅱ　寄付される貨幣・現物

1　データの抽出方法

本論では、個別の寄付額が不明で、総額しか分からない碑刻もあるが、基本的には寄付金額が判明した事例のデータを扱うことにする。

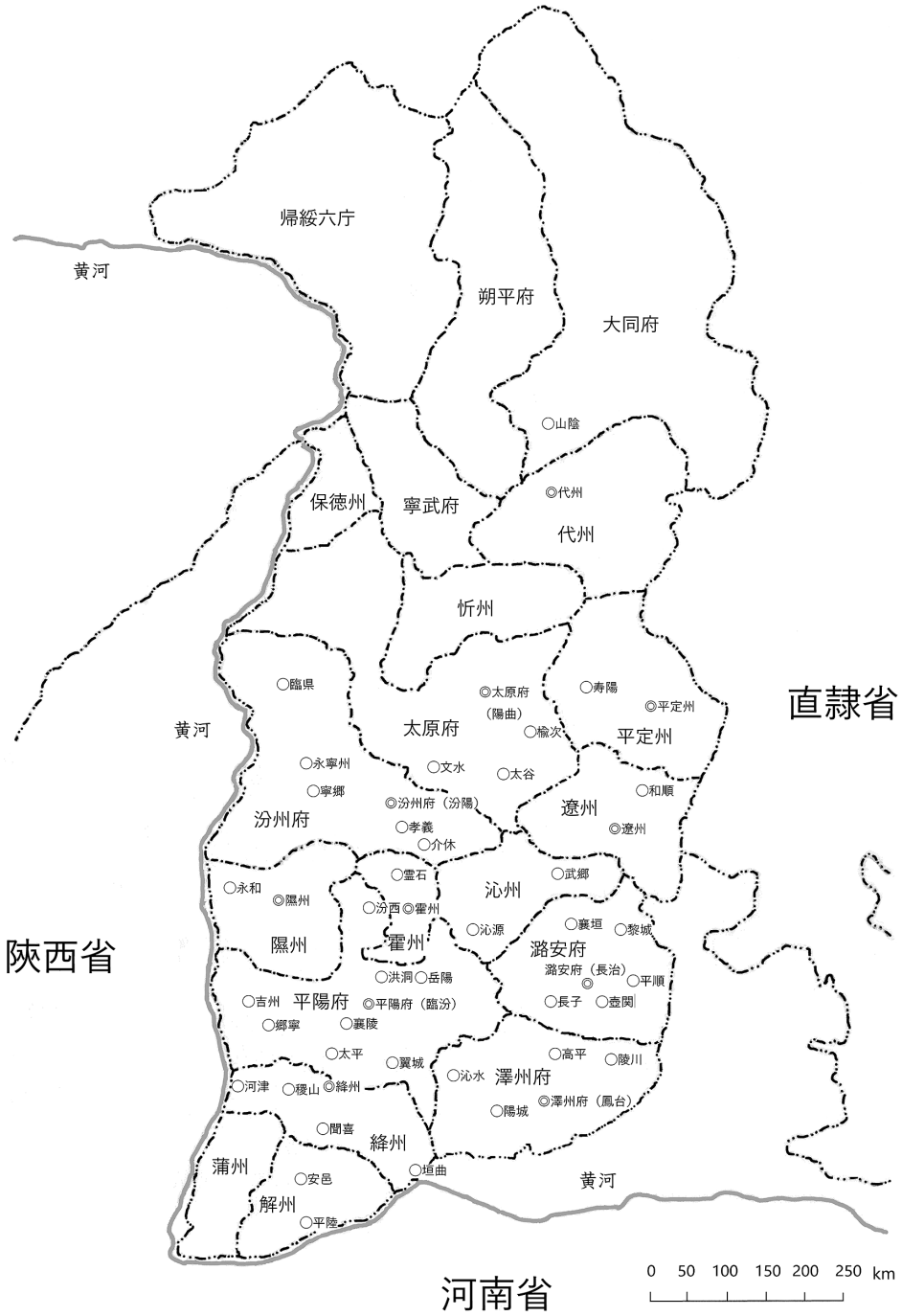
碑刻名は基本的に史料集の碑刻名に従ったが、碑刻名が簡略な場合で、寄付対象の名称が明確な場合は「（則天聖母廟）重修碑記」という形で（）で補足した。

碑刻の欠損などで正確なデータが不明の場合は、推定できる最小の金額を入力した。【186】「重修玉皇廟碑文（1874）」には「串文」の記載がみられた。「千文」と記載された

表3　碑刻の立地

府州			州県		
	立地	通		立地	通
澤州府	44	77	鳳台	22	41
			陽城	12	19
			高平	6	11
			陵川	3	5
			沁水	1	1
平陽府	14	26	翼城	4	6
			汾西	2	5
			鄉寧	2	3
			臨汾	1	6
			吉州	1	2
			岳陽	1	1
			洪洞	1	1
			襄陵	1	1
			太平	1	1
汾州府	11	20	永寧州	3	5
			介休	2	6
			寧鄉	2	3
			汾陽	2	2
			孝義	1	3
			臨県	1	1
太原府	11	17	陽曲	5	8
			文水	3	5
			楡次	2	2
			太谷	1	2
潞安府	9	17	壺関	2	9
			平順	2	3
			長子	2	2
			襄垣	1	1
			長治	1	1
			黎城	1	1
平定州	7	10	平定州	4	4
			寿陽	3	6
絳州	6	16	垣曲	2	5
			稷山	2	4
			河津	1	5
			聞喜	1	2
隰州	5	9	隰県	4	8
			永和	1	1
遼州	5	7	和順	3	5
			遼州	2	2
霍州	3	9	霍州	2	8
			霊石	1	1
解州	3	4	安邑	2	2
			平陸	1	2
沁州	2	2	武鄉	1	1
			沁源	1	1
代州	2	2	代州	2	2
大同府	2	2	山陰	2	2
合計				124	218

出典：『明清山西碑刻題名輯要』



地図　山西省と碑刻の立地

出典：譚其驤主編『中国歴史地図集８　清時期』中国地図出版社、1987年、20–21頁。

表4　碑刻1通あたりの寄付件数

	銀元	銀両	銅銭	折銭	現物
蘇州	63.3	48.4	80.9	81.8	
上海	85.9	33.0	33.1	18.0	
北京	2.0	165.9	68.8		
山西		64.2	94.0		8.1
泉州	102.7	31.5	26.4		
同安	139.8	12.7	6.4		
広州	311.3	237.6	25.0		

出典：拙稿「寄付する人と使う貨幣」・「「士大夫」から華人へ」附表

寄付とは別に「串文」と記載されているため、1,000文ではない可能性が高いが、便宜上、1串文を1,000文で計算した。

2　山西のデータの概要と位置づけ

データを得られた碑刻の建碑時期を表2から他の地域と比較すると、18世紀までの事例が比較的多いことが分かるが、これは山西が華南よりも開発が早かったこと以外に、蘇州・上海・北京は主として18世紀以降に成立した会館・公所の碑刻を取り上げていることも一因である。また、開港後については沿海部と比較すると全体に占める割合は低いが、これは開港による影響の違いを示しているのだろう。

表4は、1通あたりの寄付件数を示している。山西の事例は、銅銭建てに関しては、件数は最多である。ただし、銀元による寄付がないため、全体としては泉州や同安とほぼ同じような件数となり、広州より少ないので、末端の裾野の部分を把握できていないことを示す。現物の寄付は山西の顕著な特徴である。

表5は、碑刻1通あたりの寄付金額を示す。山西の事例に関しては、銀両建ての金額が低い。農村部の小規模な廟の事例が大半を占め、銀元の寄付が多いうえに末端に近い広州の事例と比較しても山西の金額が低いことは、広州付近と山西省の経済的な格差を示している。銅銭建てを銀両に換算しても、華南よりも金額は低くなる。蘇州・上海・北京の銅銭建てと比較しても低い金額となるが、これは碑刻の性格が異なるためである。取り上げた寄付の総件数は2万387件となり、そのうち、貨幣では銀両建て9,444件、銅銭建て9,682件、金が118件となる。そのほか、現物544件、労働力420件、食事140件がある。このうち、寄付が現物（穀物）のみの碑刻は【4】「重修湯王廟記（1594）」の1通のみである。

表5　碑刻1通あたりの寄付金額

	銀元（元・大元）	英洋（元）	銀両（両）	銅銭（文）	銅銭（吊）	折銭（両）
蘇州	908.9		3,004.8	1,052,202		374.9
上海	2,752.5	1,275.1	6,522.2	1,481,419		362.7
北京	80.0		1,453.0	780,192	1,271.3	
山西			171.4	205,905		
泉州	1,497.0		869.0	28,656		
同安	2,114.2		193.1	45,546		
広州	877.4		277.7	2,500		

出典：拙稿「寄付する人と使う貨幣」・「「士大夫」から華人へ」・附表

表6　寄付1件あたりの金額

	銀両	銀元（元/大元）	銅銭
蘇州	120.55	23.98	39,632
上海	144.55	54.17	69,345
北京	59.51	40.00	18,174
山西	6.94		4,191
泉州	11.93	27.01	3,850
同安	45.84	25.54	11,015
広州	5.33	3.00	100

出典：拙稿「寄付する人と使う貨幣」・「「士大夫」から華人へ」附表
付記：北京の銀元、広州の銅銭の事例は各1件のみ

3　貨幣

件数は、銀両建てと銅銭建てはほぼ同数である。総額についてみると、銀両建ては2万5,205.386両、銅銭建ては2,120万8,169文となる。後述するように19世紀前半には1両が1,000文を大きく上回る時期もあり、金額的にはやや銀両建ての方が多くなるが、それほど大きな差はない。

銀両建ては全碑刻のデータでは1件あたり2.67両、各碑刻の1件あたりの金額の平均は6.94両、銅銭建ては1件あたり2,190文、各碑刻の1件あたりの金額の平均は4,191文となる。こちらも銀両建ての方がやや多い。これを他地域の碑刻と比較してみると、表6のようになる。銀両建てでみると、数値は広州の事例に近く、珠江デルタの末端に近い水準ということが分かる。銅銭建ては泉州府の事例に近い。

銀両建てについては、山西でも様々な重量の両が使用されていたが[53]、他地域の事例

表7　時期による寄付の変化（碑刻数以外は件数）

	碑刻数	銀両建て	銅銭建て	金	現物	労働力	食事
16 ～ 17世紀	28	1,941	5	116	378	0	0
1701 ～ 1770	43	2,801	128	2	38	0	0
1771 ～ 1820	127	2,585	2,918	0	67	270	0
1821 ～ 1860	41	577	2,900	0	28	149	139
1861 ～ 1911	46	1,524	3,770	0	33	1	0

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

と同様、細かい種類については記載されていない。20世紀初頭に至るまで銀元建ての記載はないが、これは山西省に外国銀貨がほとんど流入しなかったうえ、19世紀末以降も山西省当局がほとんど銀元を鋳造しなかったことが影響しているのだろう(54)。

銅銭表記のうち、2通に「大銭」表記がみられる。【163】「補修真澤宮碑記（1850）」に「壺邑北荘村捐大銭一千文」という表記が1件(55)、【172】「重修三嵕廟彩画殿宇碑記（1858）」には十数年にわたって集められた寄附金が記されているが、そこでは大銭建て表記が4箇所にみられる。合計額は大銭建てで表記されているが、全てが大銭建てではない(56)。大銭が流通したのは19世紀半ばに限定されるから(57)、それ以外の時期に大銭がみられないのは自然である。

折銭についてみると、【104】「重修静養洞碑記（1801）」は銅銭建て112件のうち、450文が8件、900文が46件、1,350文が2件、1,800文が54件、2,700文が1件など、ほぼ全てが900文を単位としているが、当時の市場での1両のレートは1,000文を超えていた可能性が高いので、これは1両を900文で換算した折銭建てである可能性はある(58)。

全体的な推移を山西省の動向に合わせた年代でみると、表7のようになる。16 ～ 17世紀には銀両建てが圧倒的で、現物・金がそれを補う形となる。なお、明代の碑刻17通をみると、9通が現物、5通が金を使用していた(59)。本論の事例でも17世紀までは銅銭建てほとんどみられないから、やはり足立が述べるように、明代の山西においては銅銭の使用慣習そのものが存在せず、16世紀前半以前の銅銭使用を強調する靳学顔の上奏文は、山西省における銅銭流通が限定的であったという実態を反映していないと思われる。

18世紀になっても1760年代までは銀両建てが圧倒的で、銅銭建てがやや増加する。1771 ～ 1820年になると銅銭建てが激増し、銀両建て・銅銭建てが併用されることになる。労働力については2通のみの数字である。1821 ～ 1860年は銀両建てが激減して、銅銭建てが圧倒的となる。労働力・食事の提供は4通のみから得たデータである。1861 ～ 1911

年は銀両建てがやや回復しているが、銅銭建てが主流である。

このようにみると、1770年代以降の銅銭建ての増加が顕著で、1820年代以降に銅銭建ての優位が確立し、その後も変わらないことが分かる。先述のように、山西省の銅銭鋳造量は1750年前後から増大し、1770年代から減少している。山西省の場合は他省への移出商品が限られ(60)、他省からの大量の貨幣供給は想定できないから、山西省の銅銭鋳造量はそのまま山西省への供給量とみなしてよいだろう。したがって、銅銭供給の増大から一定の期間を経て銅銭建てが増加しており、一方で銅銭供給の減少は、ひとたび確立した銅銭建て優位の傾向に影響を与えていないことがうかがえる。

もっとも、【46】「重修岱岳廟碑記（1740）」には銅銭による事例126件が記録されている。また、晋中市洪洞県にある1763年に建てられた水利関係の碑刻では、村落が水路を借りる際に銅銭建てで支払っており(61)、より多くの事例を集めれば、山西省では地域によっては銅銭建てが1760年代以前から広まっていたことが分かる可能性がある。

1820年代以降の銅銭建ての優位の定着は、アヘン貿易を一因とする銀不足も影響しているだろう。山西省の銀銭比価をみると、乾隆6年（1741）は810～890文と銭貴であったのが、乾隆38年（1773）は995文、乾隆60年（1795）1,000文と、公定比価に近づいている。その後は、道光2年（1822）に1,110～1,230文、道光11年（1831）に1,320～1,330文、道光21年（1841）に1,360～1,370文、道光26年（1846）に1,700～2,100文と、銀貴はピークに達する。咸豊11年（1861）に1,457文に下がるが、光緒元年（1875）には2,063文となる。大飢饉の時期には一時的に銭貴となるが、その後は再び銀貴となり、光緒18年（1992）に1,536文と銀貴の状況は続いている(62)。これは全国的な銀銭比価の趨勢とほぼ同様といってよいだろう(63)。

道光期の銀建ての小麦価格は安定していたが、これは銅銭建ての小麦価格は上昇したことを意味している(64)。末端での銅銭建ての優位からみて、銀不足は末端の食糧事情にも影響を与えていたと考えられる。

このような銅銭建ての末端への普及によって、銭票が広く受容されるようになっていたといえるだろう。そして碑刻では銅銭建ての表記は増大しているが、先述したように銅銭は不足しており、高額な寄付は銭票などで支払われた可能性がある。

4　現物

山西の事例で顕著なのは現物であり、現物544件のうち、穀物が309件と大半を占めている。「谷六斗」といったように、具体的な穀物の種類が記されていないものが大半である。地域的に栽培されているのは麦類が最大となるが、判別しているものは「米」(27件、

30.1石)、小麦・大麦(17件、12.1石)、豆(13件、2.45石)、粟(11件、93.5石)、ソバ(2件、0.15石)、黍(1件、0.1石)である。「米」は1件を除き16～17世紀の事例であり、山西省の米生産は極めて少量であったから[65]、「小米(粟)」の可能性が高い。全体としては粟・麦という小麦–ミレット地帯で生産される主要作物がそのまま寄付されたと考えられる。家畜としては羊が1件みられるのみであり[66]、塩の寄付も1件のみである[67]。

土地は29件みられ、合計83.01畝が寄贈されている。金額的には比較的大きな寄付もあったと考えられる。このほか目立つのが樹木で48件あり、楊樹・大楊樹・楊木が12件、柏樹6件、柳樹4件、椿樹3件、槐樹2件などで、いずれも廟の敷地に植えるためである。また、清代における山林の減少の中で樹木の価値が上昇していたことも予想される[68]。

廟の再建に充当するための建材も多い。建物で屋根の垂木を支える横木･桁を指す「檁」は「木檁」･「松檁」などを含めて15件みられ、また垂木を指す「椽」も「松椽」を含めて6件みられる。木材以外では瓦が6件、磚は4件、石柱が2件みられる。また、廟の施設の提供としては、トイレの穴といったものもみられる[69]。そのほか、窖水(飲用水)や[70]水60担の提供[71]、飲用水を貯めておく穴蔵である窖用の土地[72]といったものがあり、水資源が貴重であることが背景にあると考えられる。

現物以外に、労働力の寄付が6件みられるが、その建碑時期は1775年【78】、1819年【131】、1824年【135】、1833年【148】、1836年【151】、1853年【169】である。「飯」の寄付もみられるが、建碑時期は1824年【135】、1833年【148】。1836年【151】、1853年【173】で、全て労働力の寄付と同じ碑刻である。事例数が少ないが、当該期において銀だけではなく銅銭も不足していた可能性を示している。

以上をみれば、寄付がほとんど銀両・洋銀・銅銭建てで行われていた華中・華南より多様であることが分かる。穀物・木材の重要性もあるだろうが、貨幣不足そのものを示しているともいえる。逆にいえば、これまで取り上げてきた華中・華南は貨幣の潤沢な地域であり、現物を必要としなかった可能性も高い。今後は他地域の碑刻について現物の分析の必要性がある。また、碑刻に記録されていないものの広く流通していた現物貨幣もあるだろう。特に布は民国期に至っても徴税対象になっていたから、その可能性が高い[73]。

Ⅲ　寄付者の分布

1　時期的な変化

1通あたりの金銭・現物をあわせた寄付件数の平均をみると、16世紀は58.4件、17世紀は93.5件、18世紀前半は84.1件、18世紀後半は74.4件、19世紀の開港前は74.5件、開港

表8　1通あたりの寄付金額の推移

	16世紀	17世紀	18世紀前半	18世紀後半	19世紀 開港前	開港後 （1843～1911）
銀両（両）	5.54	41.88	68.25	143.72	226.28	361.05
銅銭（文）	6,700	858	111,620	56,270	211,580	378,849

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

後は124.5件となる。開港前については、件数は停滞しているが、開港後、大量の寄付事例がみられる碑刻の影響もあり、顕著に件数が増えている。

1通あたりの寄付金額の推移をみると、表8のようになる。銅銭建ての18世紀後半を除けば、銀両建て、銅銭建てともにほぼ一貫して増大している(74)。銅銭建てが増えてくる18世紀後半以降をみると、銅銭建ての金額の伸びが著しい。これは銀両建てであったものが銅銭建てに移行している可能性があり、これもある意味で山西省の銀不足を示していると思われる。

2　寄付者の分布

全体的な寄付の分布は表9のようになる。基本的に金額が判明しているものがおおむね100件をうわまわる碑刻を取り上げたが、金額が不明な事例の比率が高い碑刻や、集団による寄付が多い碑刻の事例は取り上げていない(75)。また、集団で寄付している事例などは除外した(76)。

ジニ係数の平均をみると、銅銭建て（0.44）の方が銀両建て（0.487）よりもややジニ係数が低い。また、上位5％の占める割合も、銀両建て（28.4％）の方が銅銭建て（22.94％）よりも高い。同一碑刻で比較した場合も顕著（【102】）。労働力についてみても、工数も同様に銀両建てよりも低い（【131】）。従って、銀両建ての方が、格差が幾分顕著にみられることになる。もっとも他地域と比較した場合、広州よりはジニ係数が高く出るものの、泉州・同安と比較すればほぼ同じような数値となっている(77)。末端に近くなるほどジニ係数は低くなる傾向はこれまで検討してきた地域の事例と一致している。

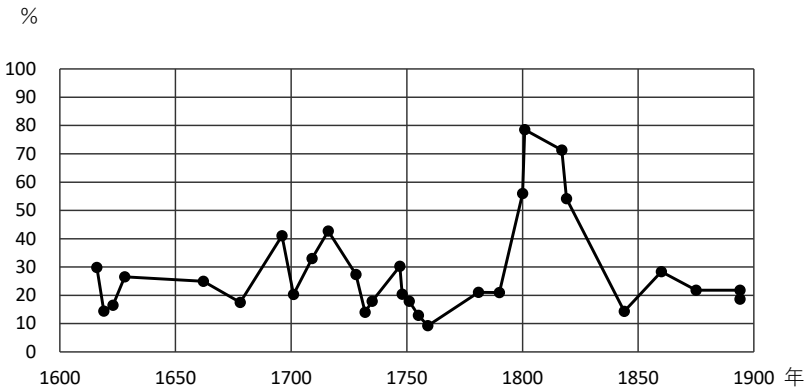
時期的な変化を見ると、図1～4のようになる。銅銭建ても銀両建てもジニ係数・上位5％の両方からみて、18世紀後半から19世紀初頭にかけて格差が拡大している可能性があるが、その後、格差は拡大せず、落ち着いているように見える。少なくとも、19世紀後半の開港以降における経済的な格差の拡大はみられない。

個々の事例をみると、銀両建てで最もジニ係数が低い数値を示したのは【61】「（媧皇

表9　寄付件数の分布

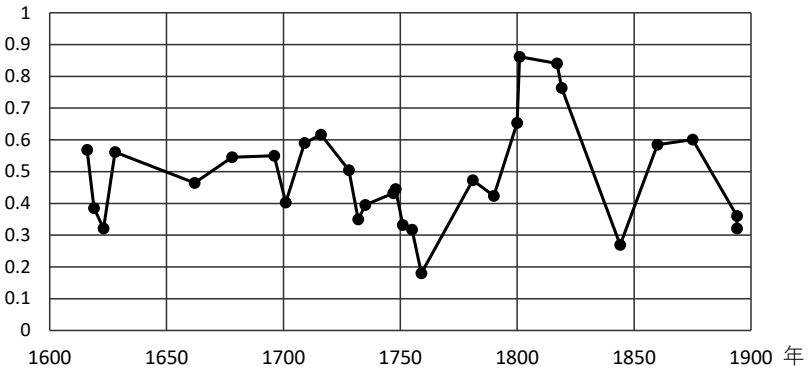
番号	碑刻名	建碑時期	ジニ係数	対象件数	上位5%件数	銀両/銅銭	対象寄付額（両/文）	上位5%寄付額（両/文）	上位5%割合（%）	平均（両/文）
9	重修仏堂碑記	万暦44（1616）年	0.568	170	9	銀両	41.82	12.49	29.9%	0.25
10	重修晋祠廟記	万暦47（1619）年	0.385	209	10	銀両	55.44	8	14.4%	0.27
13	陽邑寺建膳亭楽亭並磚天王殿墻記	天啓3（1623）年	0.321	99	5	銀両	23.70	3.9	16.5%	0.24
15	妝塑菩薩聖像記	天啓7（1628）年	0.561	193	10	銀両	41.40	11.00	26.6%	0.21
21	隰州蹲石永蒲太施財郷神檀越碑	順治18（1662）年	0.465	318	16	銀両	284.20	71.00	25.0%	0.89
22	小斯村重修東岳廟碑記	康熙17（1678）年	0.545	154	8	銀両	136.38	23.89	17.5%	0.89
27	創修楽棚碑記	康熙35（1696）年	0.550	134	7	銀両	59.90	24.60	41.1%	0.45
29	建立戯台碑記	康熙40（1701）年	0.402	138	7	銀両	45.58	9.27	20.3%	0.33
32	新建戯楼碑記	康熙48（1709）年	0.590	158	8	銀両	145.54	48.00	33.0%	0.92
34	中兵村重修碑序	康熙55（1716）年	0.616	164	8	銀両	27.73	11.84	42.7%	0.17
37	補修聖母廟碑記	雍正6（1728）年	0.504	100	5	銀両	79.92	21.88	27.4%	0.80
39	重修高禖殿金妝聖像碑記	雍正10（1732）年	0.350	113	6	銀両	27.54	3.85	14.0%	0.24
41	重金妝南殿三大士諸仏神像碑記	雍正13（1735）年	0.395	137	7	銀両	34.12	6.10	17.9%	0.25
50	弘道庵記	乾隆12（1747）年	0.432	118	6	銀両	45.62	13.80	30%	0.39
51	重修廟宇碑序	乾隆13（1748）年	0.445	257	13	銀両	320.15	65.30	20.40%	1.25
52	補修三教堂碑記	乾隆16（1751）年	0.332	128	6	銀両	22.57	4.05	17.94%	0.18
56	重修三大士堂碑記	乾隆19年（1755）年	0.318	125	6	銀両	106.20	13.75	12.9%	0.85
61	（媧皇廟）碑記	乾隆24（1759）年	0.180	189	9	銀両	325.00	30.04	9%	1.72
84	重修聖祖廟平頭社鄭家荘路家河教場平韓家溝碑記	乾隆46（1781）年	0.473	280	14	銀両	207.92	43.83	21%	0.74
89	重修楽楼西廊玉帝廟南街施財碑記	乾隆54（1790）年	0.423	110	6	銀両	83.86	17.59	21.0%	0.76
102	創建福田院諸神殿碑記	嘉慶五（1800）年	0.653	116	6	銀両	214.40	120.00	55.97%	1.85
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	嘉慶六（1801）年	0.862	273	14	銀両	216.24	169.85	78.5%	0.79
126	真武廟重修碑記	嘉慶二二（1817）年	0.840	444	22	銀両	813.79	580.70	71.36%	1.83
131	重修大廟創修舞楼碑序	嘉慶二十四（1819）年	0.763	207	10	銀両	792.60	429.00	54.1%	3.83
156	補修済瀆廟碑記	道光二十四（1844）年	0.269	110	6	銀両	181.00	26.00	14.36%	1.65
174	重修行宮碑記	咸豊十（1860）年	0.584	125	6	銀両	218.43	62.00	28.38%	1.76
187	重修二仙宮碑志	光緒元（1875）年	0.600	127	6	銀両	842.34	183.70	21.81%	6.63
207	重修館廟募化碑記	光緒二十（1894）年	0.360	323	16	銀両	162.30	35.40	21.81%	0.51
209	重修二仙館廟碑記	光緒二十（1894）年	0.321	294	15	銀両	1,291.70	240.60	18.63%	4.39
平均			0.487						28.4%	
46	重修岱岳廟碑記	乾隆5（1740）年	0.131	126	6	銅銭	111,620.00	7,270.00	6.5%	885.87
83	重修成湯大帝廟碑記	乾隆45（1780）年	0.424	130	7	銅銭	30,050.00	7,500.00	24.96%	231.15
88	二仙廟重修記	乾隆53（1788）年	0.354	311	16	銅銭	140,140.00	23,060.00	16.45%	450.61
96	創建出廈補修殿宇禅室戯楼碑記	嘉慶元（1796）年	0.396	135	7	銅銭	108,730.00	19,900.00	18.30%	805.41
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	嘉慶4（1799）年	0.526	275	14	銅銭	172,800.00	53,300.00	30.84%	664.62
102	創建福田院諸神殿碑記	嘉慶五（1800）年	0.653	98	5	銅銭	23,100.00	3,500.00	15.15%	235.71
104	重修静養洞碑記	嘉慶六（1801）年	0.201	112	6	銅銭	148,100.00	11,700.00	7.9%	1,322.32
107	増修白雲寺碑記	嘉慶八（1803）年	0.334	124	6	銅銭	60,800.00	9,150.00	15.05%	490.32
112	重修三官神廟碑記	嘉慶十四（1809/1810）年	0.611	186	9	銅銭	73,511.00	25,489.00	34.7%	395.22
118	重修真澤宮後殿碑記	嘉慶十八（1813）年	0.306	163	8	銅銭	137,000.00	18,000.00	13.14%	840.49
124	東石甕村創修舞楼碑記	嘉慶二十（1815）年	0.374	299	15	銅銭	554,300.00	88,100.00	15.89%	1,853.85
125	重修成湯殿碑記	嘉慶二十二（1817）年	0.732	100	5	銅銭	192,500.00	110,400.00	57.35%	1,925.00
167	重修二仙館碑記	咸豊元（1851）年	0.414	352	18	銅銭	482,100.00	94,600.00	19.62%	1,377.43
168	重修（関帝廟）碑記	咸豊二（1852）年	0.382	127	6	銅銭	191,000.00	32,500.00	17.02%	1,528.00
183	補修昭懿聖母廟碑記	同治八（1869）年	0.616	109	5	銅銭	61,317.00	25,657.00	41.84%	562.54
185	重修天池寺禅院並石橋碑	同治十二（1873）年	0.461	145	7	銅銭	107,300.00	18,500.00	17.24%	740.00
186	重修玉皇廟碑文	同治十三（1874）年	0.636	157	8	銅銭	514,530.00	216,400.00	42.06%	3,319.55
192	重修楽楼碑記序	光緒六（1880）年	0.370	124	6	銅銭	61,600.00	11,700.00	18.99%	496.77
平均			0.440						22.94%	
131	重修大廟創修舞楼碑序	嘉慶二十四（1819）年	0.441	247	12	工数	13,860.00	3,432.00	24.76%	56.11

出典：『明清山西碑刻題名輯要』



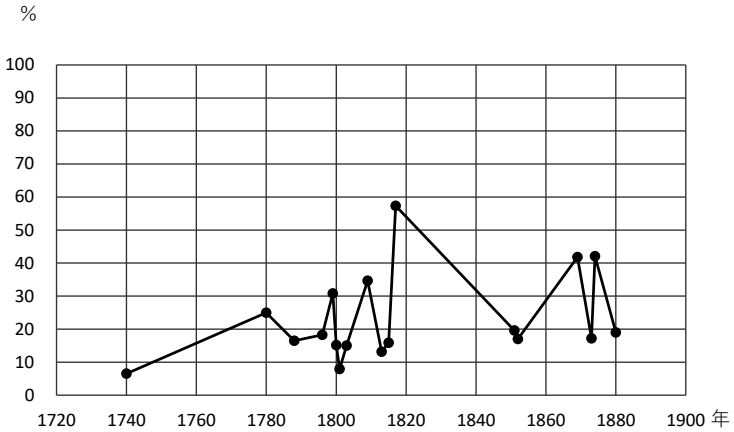
出典：表9

図1　銀両建ての上位5%の推移



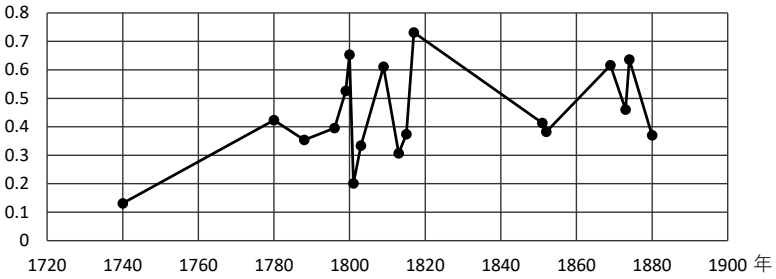
出典：表9

図2　銀両建てのジニ係数の推移



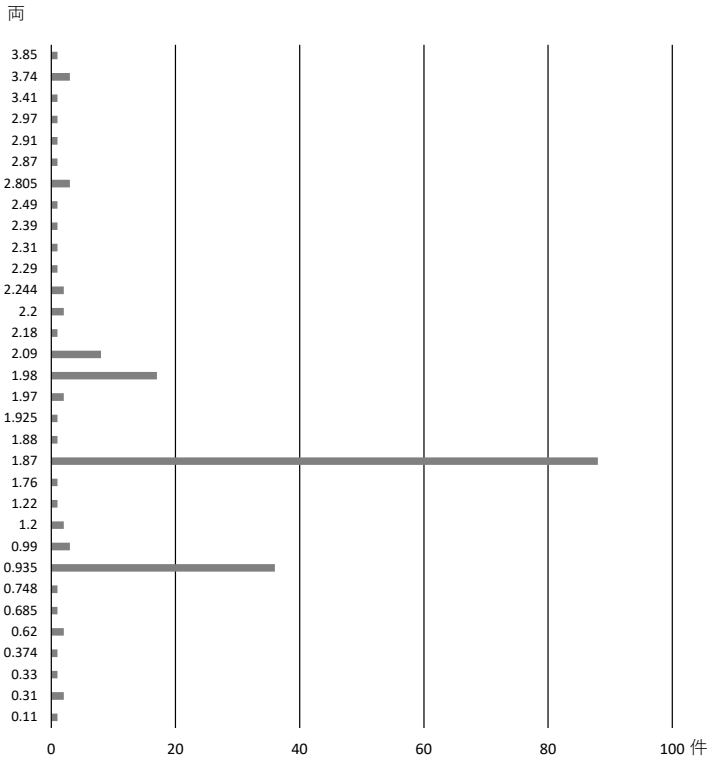
出典：表9

図3　銅銭建ての上位5%の推移



出典：表9

図4　銅銭建てのジニ係数の推移

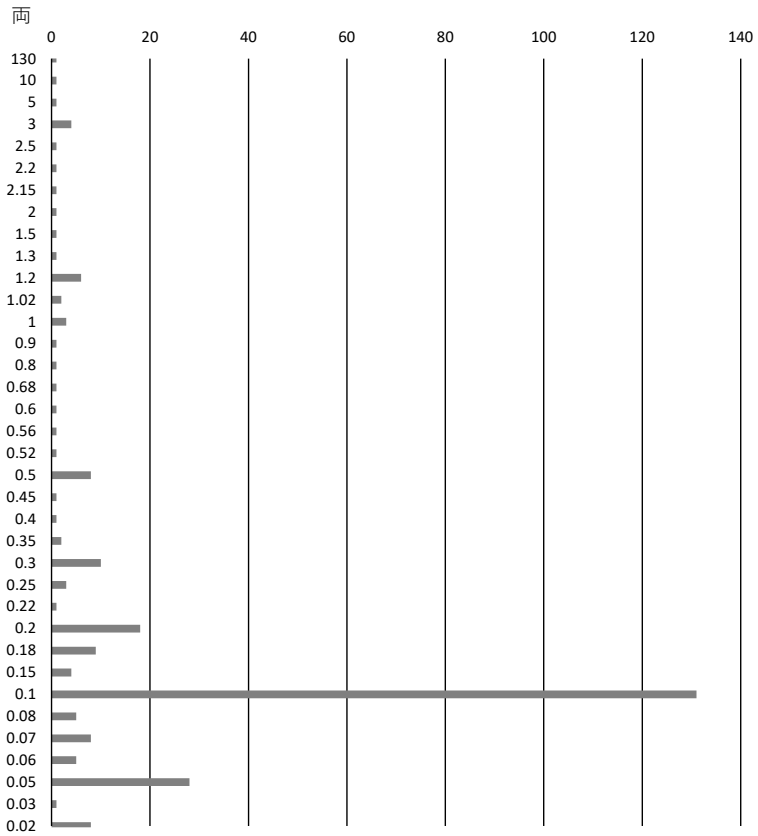


出典：『明清山西碑刻題名輯要』282-285頁

図5　【61】（媧皇廟）碑記（1759）

廟）碑記（1759）」である。こちらは寄付額のみを記した碑刻が残り、廟についての情報はない。図5に示すように1両8銭7分と9銭3分5厘の寄付者だけで全体の半数以上を占めているうえ、最高額の寄付も3両8銭5分と、最多件数の寄付額の2倍にすぎないために、数値が低くなっている。

一方、銀両建てで最もジニ係数が高い数値が出たのは【103】「創建三清殿磨針亭静楽宮

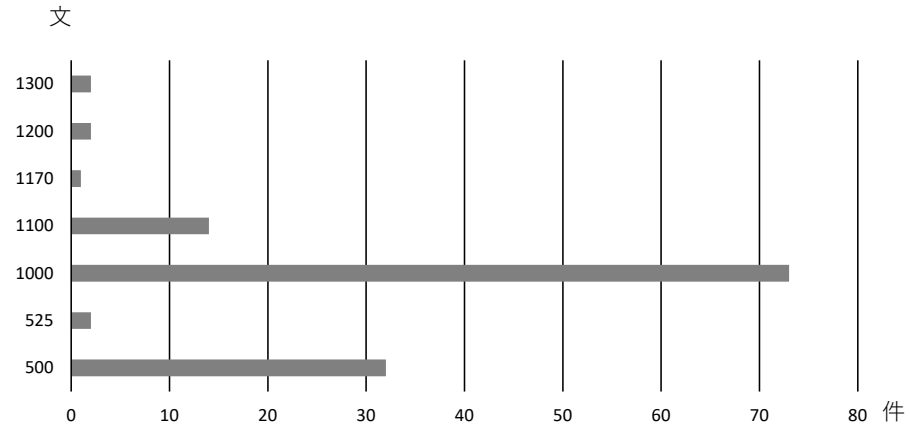


出典：『明清山西碑刻題名輯要』282-285頁

図6　【103】創建三清殿磨針亭静楽宮碑記（1801）

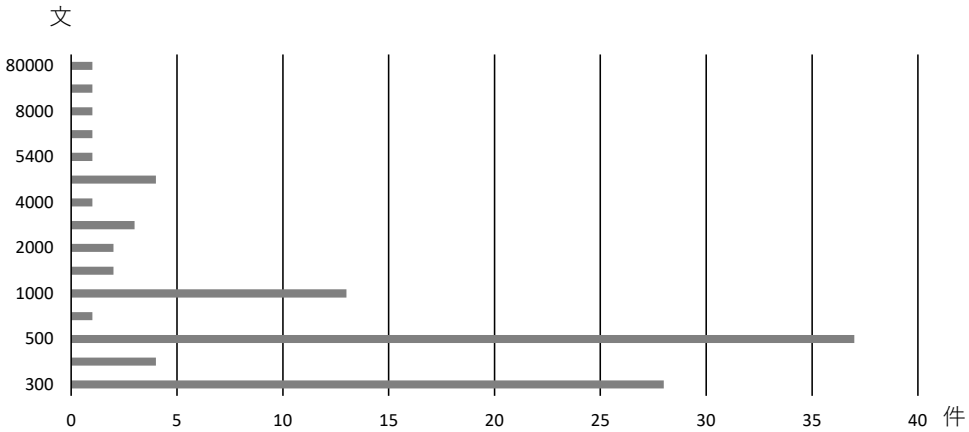
碑記（1801）」であるが、こちらは嘉慶元年に張家荘の天爵張公の妻鄭氏が100両を寄付し、その後、寄付が集められ、嘉慶6年11月の工事開始を期して建碑されたものである[(78)]。その最大の寄付者である鄭氏が130両を寄付しているために、高い数値が出ているが、図6が示すように、大半の寄付者は1銭ないし5分程度である。この碑刻は、小数の大規模土地所有者と多数の小規模土地所有者という当該地域の典型的な土地所有状況を反映しているとみられる[(79)]。

銅銭建てを見ると、ジニ係数が低いのは図7が示す【46】「重修岱岳廟碑記（1740）」である。これは乾隆元年（1736）6月の暴風雨で破損した岱岳廟の一部を修復するために、百福盛会が寄付をつのったものである[(80)]。こちらは1,000文の寄付者が圧倒的多数を占めているが、岱岳廟が再建された際にほぼ同額を寄付したのにならい[(81)]、百福盛会のメンバーが同額を寄付している可能性が高い。また最大の寄付額が1,300文とおさえられるた



出典：『明清山西碑刻題名輯要』229-231頁

図7　【46】重修岱岳廟碑記（1740）



出典：『明清山西碑刻題名輯要』526-529頁

図8　【125】重修成湯殿碑記（1817）

めにジニ係数の数値が低いのであろう。

ジニ係数が高いのは図8が示す【125】「重修成湯殿碑記（1817）」である。成湯殿は嘉慶14年（1809）に修理が呼びかけられ、嘉慶21年に修築が完成した後に建碑された。張祥瑞が8万文寄付しているために、ジニ係数が高く出ているが、多くは500文や300文といった金額であり、やはり同じような小規模経営の農民の存在がうかがえる。なお、銀両建ては、金額は銅銭建てよりも大きいものの、件数が少ないためにジニ係数は計算していないが、こちらも馮玉麟による570両という大口の寄付があり、この数値をいれると、格差が大きく見えてしまう可能性が高い。

以上のそれぞれの碑刻の特色からみて、本論で扱った事例のみで、格差問題の時期的な変化をより細かくとらえるのが困難であることが分かる。以下では、寄付者の集団から時期的な変化をみることとする。

Ⅳ　寄付する人々

1　支配層

(1) 文武官

まず、官僚、士大夫たちをみていきたい。現職の官僚のうち文官について整理したのが表10であり、20通、55件となる。なお、「募銀」・「募銭」・「化銭」といった形で記載され、官僚・士大夫などが首唱して募集した寄附金については対象外とした。文官の初出は17世紀初頭であり、全体の寄付の分布（表6参照）から見ると、時期的には18世紀が少なく、19世紀に集中している。2件を除き全て銀両建てである。金額は多様だが、銀両建てのなかでの占有率は比較的高い。ただし、18世紀後半以降は銅銭建てによる寄付が増大し、銀両建ての比率が低下しているために、寄付全体のなかでの占有率を示しているわけではないことに注意が必要である[(82)]。寄付者は地方官としては知県・直隷州知州レベルが最も高位であるケースが多い。京官は翰林院検討が1件みられるのみである。碑刻の所在地の地方官が大半であるが、一部、碑刻所在地出身者が他地域の地方官に赴任した際の寄付事例もある。

武官あるいは武官と推定される寄付者を見ると表11のようになる。件数は少ないが、文官と同様にほとんどが19世紀、特に19世紀中葉以降である。8通中6通が文官の寄付と同じ碑刻に寄付を行っている。ただし、武官の場合はほとんどが集団ではなく個人の寄付である。位階は総兵官が最も高い。寄付額も文官と比較すると小額で占有率も低い。なお、同安は文武官あわせて寄付事例は5通のみであり[(83)]、寄付額の平均は1,116元となり、山西よりも高いが、これは赴任地の経済力の違いであろう。同安の占有率の平均は35.7%となり、山西の文官の数値（36.43%）とほぼ同じである。

(2) 候補官

候補官をみると、表12のようになる。件数は少ないが、いずれも18世紀後半以降になる。単独での寄付はなく、いずれも複数人で特定の碑刻に寄付している。碑刻5通のうち、3通（【101】・【182】・【184】）は文官の寄付対象と重なっていて、文官と並ぶ形で記されている。すべて銀両建てであるが、1件当たりの金額は文官の額を上回っており、候補官の大半が捐納出身者であると考えられることから[(84)]、官僚に匹敵する財力を有していた

表10　文官の寄付額

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
9	重修仏堂碑記	1616	平□知県崔時芳	銀両（両）	41.82	1	1.00	1.00	2.39%
21	隰州曁石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	直隷大安知県劉余澤、直隷河間府阜城県知県劉清秀・山東長清県知県牛龍月	銀両（両）	284.20	3	8.00	2.67	2.81%
32	新建戯楼碑記	1709	広東寧郷知県麦天徳など3名	銀両（両）	145.54	3	18.00	6.00	12.37%
78	重修麻衣仙姑廟碑記	1775	文水知県黎高宮	銀両（両）	36.00	1	24.00	24.00	66.67%
92	重修真澤宮碑記	1792	壺関知県李元鏢など3名	銀両（両）	82.90	3	55.00	18.33	66.34%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	郷寧県知県陳樹華など2名	銀両（両）	36.00	5	12.00	2.40	33.33%
118	重修真澤宮後殿碑記	1813	壺関知県程安	銀両（両）	170.00	1	30.00	30.00	17.65%
132	重修府君廟碑序	1821	署太原県知県儒学教諭蘇子実	銅銭（文）	51,750	1	1,000	1,000.00	1.93%
140	重修簪花楼臨河石梯碑記	1827	壺関県知県汪勲など2名	銀両（両）	14.00	2	14.00	7.00	100.00%
163	補修真澤宮碑記	1850	壺関知県車など4名	銀両（両）	75.00	4	71.00	17.75	94.67%
165	重修天池寺碑記	1851	和順知県彭以璧・特授江西盧陵県知県楊暁昀など4名	銀両（両）	11.00	4	9.00	2.25	81.82%
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	同知薛邦灼	銀両（両）	103.66	1	2.00	2.00	1.93%
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	翰林院検討郝耀南	銀両（両）	972.60	1	52.00	52.00	5.35%
184	重修馬王廟碑序	1870	山西吉州知州華年など6名	銀両（両）	769.22	6	34.00	5.67	4.42%
189	重修東廡碑記	1876	訓導楊汝霖	銀両（両）	13.20	1	2.00	2.00	15.15%
193	重修骷髏廟碑記	1884	高平知県陳学富・高平知県慶銓など4名	銀両（両）	71.00	6	65.00	10.83	91.55%
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	稷山知県蔣斯鬱など4名	銀両（両）	414.05	4	88.00	22.00	21.25%
202	補修真澤宮碑記	1892	壺関知県胡など3名	銀両（両）	110.00	3	110.00	36.67	100.00%
202	補修真澤宮碑記	1892	陵川知県崔鋳善	銅銭（文）	985,000	1	1,000	1,000.00	0.10%
203	創立培文会碑記	1899	河津知県揭傳淇など4名	銀両（両）	461.20	4	40.60	10.15	8.80%
合計				銀両（両）	3,811.39	53	635.60		
				銅銭（文）	1,036,750	2	2,000		
平均				銀両（両）	211.74	2.75	35.31	14.04	36.43%
				銅銭（文）	518,375		1,000	1,000	

出典：『明清山西碑刻題名輯要』、道光『壺関県志』、光緒『続高平県志』

表11　「武官」の寄付額

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て	寄付総額	件数	寄付額	占有率
21	隰州曁石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	欽派山西盤道梁守備劉振邦・信生宋啓盛	銀両(両)	284.2	1	0.5	0.18%
71	九江大王廟重修碑記	1769	撫標左営司庁□閏・大同得勝路守府軍功一等加三級佟良臣	銀両(両)	56.2	2	0.55	0.98%
128	重修楽楼供器記	1818	千総郭維助	銀両(両)	25.10	1	1.2	4.78%
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	千総李掄魁	銅銭(文)	168,000	1	3,500	2.08%
163	補修真澤宮碑記	1850	城守司劉	銀両(両)	75.00	1	4	5.33%
165	重修天池寺碑記	1851	和順営城守司庁李文通	銀両(両)	11.00	1	2	18.18%
184	重修馬王廟碑序	1870	記名総兵統帯観益等営敢勇巴図魯闇文忠	銀両(両)	769.22	1	50	6.50%
193	重修骷髏廟碑記	1884	高平県城守司王	銀両(両)	71.00	1	4	5.63%
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	軍功六品銜稷山県城守部庁武占鰲	銀両(両)	414.05	1	11	2.66%
平均（金額は銅銭建てを除く）					213.22	1.11	9.16	5.15%

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

表12　候補官の寄付額

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
71	九江大王廟重修碑記	1769	誥授奉大夫即用府同知田高など10名	銀両(両)	56.20	10	10.21	1.02	18.17%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	侯銓州同李俊生など4名	銀両(両)	36.00	4	12	3.00	33.33%
105	重修関帝廟碑記	1801	侯銓巡司崔霑など5名	銀両(両)	788.00	4	160	40.00	20.30%
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	中謚大夫候補訓導柴維栄など2名	銀両(両)	972.60	2	80	40.00	8.23%
184	重修馬王廟碑序	1870	奉委督工花翎尽先撥補都司武英など3名	銀両(両)	769.22	3	71	23.67	9.23%
平均					524.40	4.60	66.64	21.54	17.85%

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

表13　胥吏および胥吏経験者など

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/金/現物	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
15	妝塑菩薩聖像記	1628	聴撰省祭崇卿・東進省察祀李世山・省祭王世興	銀両（両）	41.40	3	2.15	0.72	5.19%
21	隰州曁石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	直隷鳳鴻府□淮県典史李毓桂	銀両（両）	284.20	1	3	3.00	1.06%
32	新建戯楼碑記	1709	典史王席珍	銀両（両）	145.54	1	6	6.00	4.12%
78	重修麻衣仙姑廟碑記	1775	試用吏目借補文水県典史会稽董程	銀両（両）	36.00	1	12	12.00	33.33%
87	重建薬王神廟記	1785	吏員李鍾博	銀両（両）	39.00	1	3.5	3.50	8.97%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	郷寧県典史虞顧学	銀両（両）	36.00	1	2	2.00	5.56%
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	吏員喬培深・張奇士	銅銭（文）	168,000	2	5,250	2,625	3.13%
184	重修馬王廟碑序	1870	道憲内委監印尽先府経歴王佶	銀両（両）	769.22	1	2	2.00	0.26%
186	重修玉皇廟碑文	1874	蒋澤戸房、糧房	銅銭（文）	520,530	2	40,000	20,000	7.68%
193	重修骷髏廟碑記	1884	高平県右堂呉	銀両（両）	71.00	1	2	2.00	2.82%
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	軍功藍翎六品銜稷山県典史王以肅	銀両（両）	414.05	1	8	8.00	1.93%
合計				銀両（両）		11	40.65		
				銅銭（文）		4	45,250		
平均				銀両（両）	204	1.36	5	4	6.73%
				銅銭（文）	344,265		22,625	11,313	

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

可能性を示す。これは同じように捐納による候補官が1通あたりの平均で363元と多額の寄付を行っている同安の事例と共通する。なお、占有率の平均をみると同安は16.8％で、こちらも山西の事例（17.85％）と近い数字になっている[(85)]。

（3）胥吏など

官僚ではないが、官僚に代わり実務を担った胥吏についてみると、表13のようになる。明代の胥吏経験者である省祭や、胥吏が採用された典史についてもここで取り上げた。銅銭建ては件数が少ないためにあまり参考にならないが、官僚よりは寄付額、占有率も低く、寄付者集団としては目立った存在ではない。同安の事例では「吏員」は2件みられるが、その他は典史も含めて胥吏に該当するような寄付例はみられないし、同様の性格をもつ泉州の碑刻についても胥吏と分かる事例はみられない[(86)]。この違いの原因が地域差によるのかについては、より多くの地域を検討する必要がある。

表14　進士・挙人の寄付額

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
7	増修邑哭村高禖祠記	1612	挙人張国仁	銀両（両）	11.59	1	0.5	0.50	4.31%
15	妝塑菩薩聖像記	1628	郷進士崔時芳	銀両（両）	41.40	1	1	1.00	2.42%
18	重整殿寧補建献亭戲楼碑記	1652	己丑進士宋奇傑	銀両（両）	39.17	1	5	5.00	12.76%
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	挙人柴臨瑞・柴澍棠	銀両（両）	103.66	2	10	5.00	9.65%
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	忻州訓導丁卯挙人郝大中・乙卯挙人周右烈	銀両（両）	972.60	4	14	3.50	1.44%
192	重修楽楼碑記序	1880	葭州挙人張岱明ほか廩生など8名	銅銭（文）	61,600	1	3,000	3,000	4.87%
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	大挑二等己卯挙人思文書院主講解昌言	銀両（両）	414.05	1	8	8.00	1.93%
合計				銀両（両）		10	38.5		
				銅銭（文）		1	3,000		
平均（金額は銀両建てのみ）					263.74	1.57	6.42	3.83	5.34%

出典：『明清山西碑刻題名輯要』、光緒『河津県志』

（4）科挙の有資格者

進士・挙人の寄付額をみると表14のようになり[87]、全体で7通、11件にすぎない。進士は山西介休県人で順治6年（1649）の進士である宋奇傑のみである。【18】・【179】・【182】・【201】などは文官の寄付がみられた。1件あたりの金額は文官や候補官よりも低く、占有率も低い。これは同安の事例とも傾向が共通している。なお、同安の金額の平均は19.2元で、銀両建てで6.42両の山西より多いが、占有率の平均は6.24％でこちらも山西の事例（5.34％）と近い数字になる[88]。

貢生を示したものが、表15になる。こちらも現物を含めて12通、15件と件数は限定的である。進士・挙人とは異なり、銀両建て7件、銅銭建て5件と、銅銭建ての占める割合が高くなり、現物も一部見られる。寄付時期は18世紀末以降が多く、報捐者が多いと思われる。また、文官・進士・挙人と共通する碑刻がほとんどみられない。挙人と大半が報捐者であった貢生（生員）の間に存在する大きな格差を示しているといえるだろう。1件あたりの金額は官僚よりも低く、占有率も一部を除き低いが、進士・挙人よりもいずれも高い。同安は1通あたりの寄付額の平均が107.2元で山西とは大きな差があるが、占有率は7.7％となり、山西の事例（7.38％）と非常に近い数値となっている[89]。

監生を示したのが表16である。件数は現物を入れて97件と大幅に増大する。うち三分

表15　貢生

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/現物	寄付総額	件数	寄付額	占有率	備考
24	重修黒潭之玉帝廟記	1683	恩貢生文登	現物		1			穀物
53	創建玄天殿碑記	1750	貢生劉良賓　妻王氏 男庠生士進　庠生士達	銀両（両）	7.56	1	1.2	15.87%	
66	重修高禖祠碑誌	1764	窯則上貢生趙正□	銀両（両）	63.06	1	1.2	1.90%	
98	大清国山西澤州府陵川県普安郷下川都廖池村重修碑記	1798	窯則上貢生趙正□	銅銭（文）	82,150	1	1,500	1.83%	
119	神命整理祀事志	1813	貢生申増業	現物		3			椅子
132	重修府君廟碑序	1821	貢生郭景儀	銅銭（文）	51,750	1	1,000	1.93%	
177	合村公議禁賭立約演戯碑銘	1862	貢生賈琳基	銅銭（文）	18,600	1	5,000	26.88%	
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	歳貢生許経魁・恩貢生楊俊徳・歳貢生龐廷献	銀両（両）	972.60	3	4.0	0.41%	
189	重修東廡碑記	1876	貢生高炳雲	銀両（両）	13.20	1	1.0	7.58%	
210	創立培文会碑記	1899	貢生師成徳	銀両（両）	461.20	1	40.0	8.67%	
217	重修五聖宮碑記	1906	貢生李泰来	銅銭（文）	113,900	1	1,500	1.32%	
218	補修真武廟碑記	1908	貢生□□光	銅銭（文）	90,315	1	n		
合計				銀両（両）		7	47		
				銅銭（文）		5	9,000		
平均				銀両（両）	304	1.33	9	7.38%	
				銅銭（文）	71,343		2,250		

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

の二が銀両建てとなり、こちらも現物は一部見られる。複数人による寄付も多く、1件あたりの寄付額は銀両建て・銅銭建てともに貢生を上回る。18世紀後半以降の事例が多く、こちらも捐納監生の割合が高いと思われる(90)。寄付件数が多く、貢生よりも占有率は高い。同安では1通当たりの寄付額平均が132.7元、占有率が14.9％となり、貢生を上回っており(91)、占有率は山西の事例（12％）と近い数値となっている。

貢生を除く生員は表17になる。件数は現物を入れて84件と、監生よりもやや少ない。こちらは17世紀の事例が多くみられ、現物や土地の寄付もみられる。複数人による寄付も多いが、1件当たりの寄付額は監生を下回る。占有率もやや監生よりも低い。これも1通当たりの寄付額平均が41.4元、占有率が4.4％となる同安の傾向と一致している。ただし、占有率の数値は山西の事例（11％）と異なっている。

複数の有資格者の寄付を総合すると表18のようになる。銀両建ては47通、銅銭建ては23通となる。複数の種類の有資格者の寄付のみられる碑刻は、銀両建ては17通、銅銭建

表16　監生の寄付

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/現物	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率	備考
9	重修仏堂碑記	1616	監生王兆星	銀両（両）	41.82	1	0.80	0.80	1.91%	
21	隰州豎石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	監生牛居月・牛聯月	銀両（両）	284.20	2	1.50	0.75	0.53%	
25	重修浄信寺碑記	1687	国子監監生杜毓秀	銀両（両）	7.00	1	7.00	7.00	100.00%	
32	新建戲楼碑記	1709	監生陳才	銀両（両）	145.54	1	6.00	6.00	4.12%	
53	創建玄天殿碑記	1750	監生劉良弼・劉五成	銀両（両）	7.56	2	2.40	1.20	31.75%	
54	聖母廟置地碑記	1751	監生王愫	銀両（両）	47.59	1	0.50	0.50	1.05%	
59	□修黒龍廟碑記	1756	臨県太学生白瑞嶺	銀両（両）	296.90	1	12.00	12.00	4.04%	
62	重修媧煌聖母廟碑記	1761	監生王道成	土地		1				
65	重修石磬村諸神廟碑記	1763	監生王愫	銀両（両）	160.20	1	2.00	2.00	1.25%	
69	王何村補修三峻廟碑記	1767	監生任欽、任能定･同男監生鋒、任豊厚・同男監生従善	銀両（両）	133.60	3	80.00	26.67	59.88%	監生以外を含む
71	九江大王廟重修碑記	1769	監生張忠・趙忍・趙璩・華濬・□賜功	銀両（両）	56.20	5	4.30	0.86	7.65%	
84	重修聖祖廟平頭社鄭家庄路家河教場平韓家溝碑記	1781	総理銭糧糾首監生邢常吉	銀両（両）	207.92	1	4.00	4.00	1.92%	
87	重建薬王神廟記	1785	監生楊思先・原道・楊思役・張建芳	銀両（両）	39.00	4	17.50	4.38	44.87%	
90	補修佛殿碑記	1790	監生李璨	銅銭（文）	8,910	1	700	700.00	7.86%	
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	監生李杰生・李青・李青・陳丙鑒・陳永世	銅銭（文）	174,086	5	9,250	1,850.00	5.31%	
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	1801	監生焦炎昇・程友士	銀両（両）	346.92	2	0.15	0.08	0.04%	
104	重修静養洞碑記	1801	監生趙芝	銅銭（文）	148,100	1	1,800	1,800.00	1.22%	
105	重修関帝廟碑記	1801	監生崔発中	銀両（両）	788.00	1	7.00	7.00	0.89%	
109	仙堂寺重修碑記	1804	監生王効曹	銅銭（文）	125,400	1	1,500	1,500.00	1.20%	
126	真武廟重修碑記	1817	監生楊補清	銀両（両）	813.79	1	0.20	0.20	0.02%	
128	重修楽楼供器記	1818	監生王嘉謀・郭建馨・郭大柱・陶国文・宋珖	銀両（両）	25.10	5	7.50	1.50	29.88%	
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	国学馮文明・呉永仁	銀両（両）	792.60	2	105.00	52.50	13.25%	
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	国学馮文明・呉永仁	労働力		2				
132	重修府君廟碑序	1821	例封文林郎国学生王進科、監生盧栄慶・尚郁文・陳嘉言・敦致祥・李泌	銅銭（文）	51,750	6	6,400	1,066.67	12.37%	
134	重修舞楼碑記	1823	監生王殿元	銀両（両）	20.73	1	2.00	2.00	9.65%	
149	玉帝廟重修碑記	1835	監生曹夢□	銀両（両）	322.70	1	49.50	49.50	15.34%	
150	重修雲棲潤民侯廟碑記序	1837	監生蒙清・游璋	銀両（両）	344.70	2	3.00	1.50	0.87%	
150	重修雲棲潤民侯廟碑記序	1837	監生蒙清	現物		1				樹木
156	補修済瀆廟碑記	1844	監生申爐・方天爵・張盤銘	銀両（両）	181.00	3	7.00	2.33	3.87%	
159	重修神廟舞楼並創建鐘楼鼓楼及各工碑記	1845	監生郭久泰・張珂	銀両（両）	822.72	3	126.38	42.13	15.36%	
166	重修黒龍廟碑記	1851	監生王廷瑛	銅銭（文）	42,400	1	2,500	2,500.00	5.90%	
171	真武廟創建香亭碑記	1858	監生趙福昌	銀両（両）	264.50	1	12.70	12.70	4.80%	
174	重修行宮碑記	1860	監生薛可讓・李永春・張建元・韓国鳳	銀両（両）	221.43	4	7.00	1.75	3.16%	
177	合村公議禁賭立約演戯碑銘	1862	監生賀乃武	銅銭（文）	18,600	1	2,000	2,000.00	10.75%	
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	監生樊居正・岳如峰・李世昌・王義融・喬復州・樊映濱・任鴻昇	銀両（両）	103.66	7	6.04	0.86	5.83%	
180	重修舞楼窯亭記	1866	監生牛毓洳在蔭城捐	銅銭（文）	69,300	1	35,000	35,000.00	50.51%	
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	太学生王振庭・王照離	銀両（両）	972.60	2	16.00	8.00	1.65%	
183	補修昭懿聖母廟碑記	1869	総理監生宋国昌・監生宋国聖	銅銭（文）	61,329	2	10,300	5,150.00	16.79%	
186	重修玉皇廟碑文	1874	監生昇書瑞	銅銭（文）	520,530	1	38,000	38,000.00	7.30%	
189	重修東廡碑記	1876	監生衛克昌	銀両（両）	13.20	1	2.00	2.00	15.15%	
190	補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記	1877	例貢侯錫桓･侯璁、監生侯錫纓･衛中魁・逸秉純・衛瑞鳳、書碑監生衛瑞鸞	銅銭（文）	1,077,400	8	67,100	8,387.50	6.23%	
209	重修二仙館廟碑記	1894	監生毌国倹	銀両（両）	1,291.70	1	33.00	33.00	2.55%	
210	創立培文会碑記	1899	監生王振墀	銀両（両）	461.20	1	6.00	6.00	1.30%	
215	補修金妝碑序	1905/1906	管賬監生王文選	銅銭（文）	284,000	3	7,000	2,333.33	2.46%	
217	重修五聖宮碑記	1906	監生豊祥	銅銭（文）	113,900	1	1,500	1,500.00	1.32%	
合計				銀両（両）		61	528.47			
				銅銭（文）		32	183,050			
平均				銀両（両）	350.19	2.26	18.72	10.74	12%	件数の平均は同一碑刻は合算した
				銅銭（文）	207,362		14,081	7,830		

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

表17　生員の寄付者

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/金/現物	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率	備考
7	増修邑哭村高禖祠記	1612	稟生□国□	銀両（両）	11.59	4	0.7	0.18	6.04%	他に金額不明1件
9	重修仏堂碑記	1616	生員陳燧	銀両（両）	41.82	1	2	2.00	4.78%	
10	重修晋祠廟記	1619	生員張鳳翼・田応登・張燦然	銀両（両）	55.44	3	1.7	0.57	3.07%	
15	妝塑菩薩聖像記	1628	生員陳鴻仁・陳鴻化	現物		4	1			厠坑
15	妝塑菩薩聖像記	1628	生員王祚明	銀両（両）	41.40	1	0.5	0.50	1.21%	
16	重修潤民侯龍王廟碑記	1628	九管社上下均庄糾首生員任自恭・任継禹ほか7名など	現物 / 金		2				粟
19	増建角殿西房碑記	1654	生員崔鼎鉉	現物		2				楊樹・楝
21	隰州暨石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	廩生劉清毓	銀両（両）	284.20	1	1	1.00	0.35%	
23	重修将軍神廟碑記	1680	生員張□□・生員劉肇興とそれぞれの妻子	銀両（両）	37.10	2	6	3.00	16.17%	
23	重修将軍神廟碑記	1680	生員張□□・生員劉肇興とそれぞれの妻子	現物		2				米
24	重修黒潭之玉帝廟記	1683	生員文濂	現物		1				穀物
27	創修楽棚碑記	1696	生員原相経・原貞蒙・原摶九・原成・原覲光、生員原正蒙・原景楊・原有綴ほか6名	銀両（両）	59.90	6	21.4	3.57	35.73%	
32	新建戯楼碑記	1709	総理糾首廩生王徽元・督工糾首生員王憲元・施銭糾首増生郭際熙・太原生員高模・施銭生員武翔	銀両（両）	145.54	5	9.8	1.96	6.73%	
34	中兵村重修碑序	1716	廩生義楊	銀両（両）	27.88	1	0.4	0.40	1.43%	
35	澤城西南隅五里許□南社重修廟宇□塑金妝碑記	1718	庠生李世泰	現物		1				穀物
36	重修西渓二仙真澤宮碑記	1723	生員都□	銀両（両）	203.10	1	n			
39	重修高禖殿金妝聖像碑記	1732	生員璩秉乾	銀両（両）	27.54	1	0.2	0.20	0.73%	
41	重修妝南殿三大士諸仏神像碑記	1735	生員璩秉乾・衛溶	銀両（両）	34.12	2	0.8	0.40	2.34%	
53	創建玄天殿碑記	1750	劉宅安氏男庠生劉良公	銀両（両）	7.56	1	1.2	1.20	15.87%	
73	捐資置地花名碑	1772	山主生員許岳系	土地		1				
73	捐資置地花名碑	1772	山主生員許岳系	銀両（両）	40.21	1	1	1.00	2.49%	
87	重建薬王神廟記	1785	生員楊思敬	銀両（両）	39.00	1	6	6.00	15.38%	
93	重修昭慰聖母祠碑記	1794	経賑庠廩生王如璠	銅銭（文）	118,120	1	3,000	3,000.00	2.54%	
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	生員鄭明	銀両（両）	36.00	1	1	1.00	2.78%	
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	増生田実穎・文士晋、庠生田実栗・李彬	銅銭（文）	174,086	4	4,100	1,025.00	2.36%	
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	1801	生員王錫九・張国花・樊茂義・賈林河	銀両（両）	346.92	4	0.7	0.18	0.20%	
105	重修関帝廟碑記	1801	庠生崔生錦	銀両（両）	788.00	1	9	9.00	1.14%	
109	仙堂寺重修碑記	1804	生員趙振河	銅銭（文）	125,400	1	1,000	1,000.00	0.80%	
110	重修関帝廟記	1804	忻郡儒学生員張闇然薫沐	銀両（両）	130.20	1	0.3	0.30	0.23%	
119	神命整理祀事志	1813	庠生申国英	現物		1				紗灯
121	移修聖母諸神廟記	1813	生員安永興‥	銅銭（文）	1,124,400	1	20,000	20,000.00	1.78%	
122	重修関帝廟碑記	1814	山主後学弟子貢生文光薫沐率男生員麟閣詳	銀両（両）	121.50	1	2	2.00	1.65%	
123	移建神廟楽亭叙	1814	功徳主邑廩膳生員薬修齢字鶴亭偕男慶春、総理事人糾首廩生李蓮灯　李蓮亭　庠生李蓮直、糾首邑儒学附生員薬昆齢・薬文鵬	銀両（両）	340.00	4	340	85.00	100.00%	
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	庠生馮文楷	銀両（両）	792.60	1	10	10.00	1.26%	
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	庠生馮文楷	労働力		1				
132	重修府君廟碑序	1821	生員任全志	銅銭（文）	51,750	1	1,000	1,000.00	1.93%	
150	重修雲棲潤民侯廟碑記序	1837	生員厳涂	銀両（両）	344.70	1	1.2	1.20	0.35%	
153	重修陂池碑記	1839	庠生趙景虞	銅銭（文）	24,000	1	1,000	1,000.00	4.17%	
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	増生高蘭芳	銅銭（文）	168,000	1	3,500	3,500.00	2.08%	
167	重修黒龍廟碑記	1851	庠生文応麟・文葶	銅銭（文）	482,100	2	13,000	6,500.00	2.70%	
174	重修行宮碑記	1860	高渠生員焦槐　生員焦模　監生焦楠　従九焦輯	銀両（両）	221.43	1	10	10.00	4.52%	
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	生員孫映離・馮□□	銀両（両）	103.66	2	2	1.00	1.93%	
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	増広生員□応龍	銀両（両）	972.60	2	5	2.50	0.51%	
183	補修昭懿聖母廟碑記	1869	理賑生員郝栄	銅銭（文）	61,329	1	6,000	6,000.00	9.78%	
184	重修馬王廟碑序	1870	漢中府人氏生員呼胡福元	銀両（両）	769.22	1	5.15	5.15	0.67%	
184	重修馬王廟碑序	1870	漢中府人氏生員呼胡福元	銅銭（文）	28,000	1	28,000	28,000.00	100.00%	
200	重修（土地嶐）碑記	1890	生員衛瑞熊	銅銭（文）	10,240	1	3,800	3,800.00	37.11%	
217	重修五聖宮碑記	1906	廩生崔霊瑞	銅銭（文）	113,900	2	4,000	2,000.00	3.51%	
218	補修真武廟碑記	1908	生員喬栄祥	銅銭（文）	598,424	1	1,000	1,000.00	0.17%	他に金額不明1
合計				銀両（両）		51	439.05			
				銅銭（文）		18	89,400			
平均				銀両（両）	223.08	1.91	16.89	5.74	11%	
				銅銭（文）	236,904		6,877	5,987		

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

表18　有資格者の寄付

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
銀両建て								
7	増修邑哭村高禖祠記	1612	挙人・廩生	11.59	5	1.2	0.24	10.35%
9	重修仏堂碑記	1616	監生・生員	41.82	2	2.80	1.40	6.70%
10	重修晋祠廟記	1619	生員	55.44	3	1.7	0.57	3.07%
15	妝塑菩薩聖像記	1628	郷進士・生員	41.40	2	1.5	0.75	3.62%
18	重整殿寧補建献亭戯楼碑記	1652	進士	39.17	1	5	5.00	12.76%
21	隰州曁石永蒲太施財郷神檀越碑	1662	監生・廩生	284.20	3	2.50	0.83	0.88%
23	重修将軍神廟碑記	1680	生員	37.10	2	6	3.00	16.17%
25	重修浄信寺碑記	1687	国子監監生	7.00	1	7.00	7.00	100.00%
27	創修楽棚碑記	1696	生員	59.90	6	21.4	3.57	35.73%
32	新建戯楼碑記	1709	監生・生員	145.54	6	15.80	2.63	10.86%
34	中兵村重修碑序	1716	廩生	27.88	1	0.4	0.40	1.43%
39	重修高禖殿金妝聖像碑記	1732	生員	27.54	1	0.2	0.20	0.73%
41	重修妝南殿三大士諸仏神像碑記	1735	生員	34.12	2	0.8	0.40	2.34%
53	創建玄天殿碑記	1750	貢生・庠生・監生	7.56	4	4.8	1.20	63.49%
54	聖母廟置地碑記	1751	監生	47.59	1	0.50	0.50	1.05%
59	□修黒龍廟碑記	1756	太学生	296.90	1	12.00	12.00	4.04%
65	重修石磐村諸神廟碑記	1763	監生	160.20	1	2.00	2.00	1.25%
66	重修高禖祠碑誌	1764	貢生	63.06	1	1.2	1.20	1.90%
69	王何村補修三嵕廟碑記	1767	監生	133.60	3	80.00	26.67	59.88%
71	九江大王廟重修碑記	1769	監生	56.20	5	4.30	0.86	7.65%
73	捐資置地花名碑	1772	生員	40.21	1	1	1.00	2.49%
84	重修聖祖廟平頭社鄭家庄路家河教場平韓家溝碑記	1781	監生	207.92	1	4.00	4.00	1.92%
87	重建薬王神廟記	1785	監生・生員	39.00	5	23.50	4.70	60.26%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	生員	36.00	1	1	1.00	2.78%
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	1801	監生・生員	346.92	6	0.85	0.14	0.25%
105	重修関帝廟碑記	1801	監生・庠生	788.00	2	16.00	8.00	2.03%
110	重修関帝廟記	1804	生員	130.20	1	0.3	0.30	0.23%
122	重修関帝廟碑記	1814	貢生・生員	121.50	1	2	2.00	1.65%
123	移建神廟楽亭叙	1814	生員・廩生・庠生	340.00	4	340	85.00	100.00%
127	真武廟重修碑記	1817	監生	813.79	1	0.20	0.20	0.02%
128	重修楽楼供器記	1818	監生	25.10	5	7.50	1.50	29.88%
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	庠生	792.60	1	10	10.00	1.26%
134	重修舞楼碑記	1823	監生	20.73	1	2.00	2.00	9.65%
149	玉帝廟重修碑記	1835	監生	322.70	1	49.50	49.50	15.34%
150	重修雲棲潤民侯廟碑記序	1837	監生・生員	344.70	3	4.20	1.40	1.22%
156	補修済瀆廟碑記	1844	監生	181.00	3	7.00	2.33	3.87%
159	重修神廟舞楼並創建鐘楼鼓楼及各工碑記	1845	監生	822.72	3	126.38	42.13	15.36%
171	真武廟創建香亭碑記	1858	監生	264.50	1	12.70	12.70	4.80%
174	重修行宮碑記	1860	監生・生員	221.43	5	17.00	3.40	7.68%
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	挙人・監生・生員	103.66	11	18.04	1.64	17.40%
182	純陽洞創建香亭碑記	1867	挙人・貢生・太学生・生員	972.60	11	39	3.55	4.01%
184	重修馬王廟碑序	1870	生員・廩生・庠生	769.22	1	5.15	5.15	0.67%
189	重修東廡碑記	1876	貢生	13.20	1	1.0	1.00	7.58%
189	重修東廡碑記	1876	監生	13.20	1	2.00	2.00	15.15%
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	挙人	414.05	1	8	8.00	1.93%
209	重修二仙館廟碑記	1894	監生	1,291.70	1	33.00	33.00	2.55%
210	創立培文会碑記	1899	貢生・監生	461.20	2	46.0	23.00	9.97%
合計				11,475.65	126	948.42		
平均				244.16	2.68	20.18	8.06	14.12%

表18 （続き）

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
銅銭建て								
90	補修佛殿碑記	1790	監生	8,910	1	700	700	7.86%
93	重修昭慰聖母祠碑記	1794	廩生	118,120	1	3,000	3,000	2.54%
98	大清国山西澤州府陵川県普安郷下川都廖池村重修碑記	1798	貢生	82,150	1	1,500	1,500	1.83%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	監生・増生・庠生	174,086	9	13,350	1,483	7.67%
104	重修静養洞碑記	1801	監生	148,100	1	1,800	1,800	1.22%
109	仙堂寺重修碑記	1804	監生・生員	125,400	2	2,500	1,250	1.99%
121	移修聖母諸神廟記	1813	生員	1,124,400	1	20,000	20,000	1.78%
132	重修府君廟碑序	1821	貢生・国学生・監生・生員	51,750	8	8,400	1,050	16.23%
153	重修陂池碑記	1839	庠生	24,000	1	1,000	1,000	4.17%
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	増生	168,000	1	3,500	3,500	2.08%
166	重修黒龍廟碑記	1851	監生	42,400	1	2,500	2,500	5.90%
167	重修黒龍廟碑記	1851	庠生	482,100	2	13,000	6,500	2.70%
177	合村公議禁賭立約演戯碑銘	1862	貢生・監生	18,600	2	7,000	3,500	37.63%
180	重修舞楼窯亭記	1866	監生	69,300	1	35,000	35,000	50.51%
183	補修昭懿聖母廟碑記	1869	監生・生員	61,329	3	16,300	5,433	26.58%
184	重修馬王廟碑序	1870	生員	28,000	1	28,000	28,000	100.00%
186	重修玉皇廟碑文	1874	監生	520,530	1	38,000	38,000	7.30%
190	補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記	1877	貢生・監生	1,077,400	8	67,100	8,388	6.23%
192	重修楽楼碑記序	1880	挙人・廩生	61,600	1	3,000	3,000	4.87%
200	重修（土地祠）碑記	1890	生員	10,240	1	3,800	3,800	37.11%
215	補修金妝碑序	1905/1906	監生	284,000	3	7,000	2,333	2.46%
217	重修五聖宮碑記	1906	貢生・監生・廩生	113,900	4	7,000	1,750	6.15%
218	補修真武廟碑記	1908	生員喬栄祥	598,424	1	1,000	1,000	0.17%
合計				5,392,739	55	284,450		
平均				234,467	2.39	12,367	7,586	14.56%

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

ては8通となる。銀両建ては17世紀からみられるが、銅銭建ては18世紀末以降になる。銀両建ても銅銭建ても占有率はほぼ同じである。同安の場合、複数の有資格者事例が12通、時期的には1860年代以前に限られていて、全体としても有資格者は開港前が大半を占める[(92)]。これに対して山西の場合は銀両建ては同安と同じように1860年代以前が多いが、銅銭建ての場合は1870年代以降が23件中8件と過半を占める。19世紀中葉の動乱期に山西票号や山西の塩商らは大量の捐納を行っており[(93)]、山西票号は捐納の代行を担った[(94)]。山西票号を中心とする大規模な捐納が、その後まで影響している可能性は高い。

（5）武生

当該地域では武生の存在も目立つ。武生の寄付を見ると表19のようになり、大半が18世紀末以降の事例になる。これも生員、監生と比較すると、1件あたりの金額は銀建て・銅銭建て共に生員を上回る。銅銭建てについては武生の親子とその孫らが5人で寄付している【121】「移修聖母諸神廟記（1813）」が影響しているが、当該の碑刻の中の占有率は

表19　武生の寄付

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/金/現物	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
32	新建戯楼碑記	1709	永寧武挙任万登	銀両（両）	145.54	1	0.6	0.60	0.41%
93	重修昭慰聖母祠碑記	1794	総理庠武生郭子玉	銅銭（文）	118,120	1	13,500	13,500.00	11.43%
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	1801	張家庄武生王永泰・武生張世謙	銀両（両）	346.92	2	12	6.00	3.46%
121	移修聖母諸神廟記	1813	武生呉進福、男武生士明・士聡・士智、孫連喜	銅銭（文）	1,124,400	1	29,000	29,000.00	2.58%
132	重修府君廟碑序	1821	武生陳自徳	銅銭（文）	51,750	1	600	600.00	1.16%
150	重修雲棲潤民侯廟碑記序	1837	武生募化游･段歩雲･郭登魁・卜夢然・張名立・張中魁	銀両（両）	344.70	6	9.9	1.65	2.87%
157	重修九江大王廟碑志	1844/1845	従九品武炳文　長男壬辰武挙候選衛千総従先　次男武庠生従政　□□品武蔚文長男□功議叙登仕郎従中	銀両（両）	180.90	1	30	30.00	16.58%
165	重修天池寺碑記	1851	武生白□漳･白種□･	銅銭（文）	308,700	2	12,000	6,000.00	3.89%
166	重修黒龍廟碑記	1851	武挙王廷琦	銅銭（文）	42,400	1	5,000	5,000.00	11.79%
177	合村公議禁賭立約演戯碑銘	1862	武生賈富基・賈朝佐	銅銭（文）	18,600	2	3,200	1,600.00	17.20%
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	武生任高昇・□□度	銀両（両）	103.66	2	2.7	1.35	2.60%
180	重修舞楼窯亭記	1866	武生牛毓源	銅銭（文）	69,300	1	5,000	5,000.00	7.22%
183	補修昭懿聖母廟碑記	1869	武生宋国楨･王昭著･宋法濂・郝継承	銅銭（文）	61,329	4	4,000	1,000.00	6.52%
184	重修馬王廟碑序	1870	観字営五哨聚勇丁	労働力		1			
189	重修東廡碑記	1876	武生武世昌	銀両（両）	13.20	1	1	1.00	7.58%
190	補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記	1877	武生賈安仁	銅銭（文）	1,077,400	1	3,000	3,000.00	0.28%
合計				銀両（両）		14	57.4		
				銅銭（文）		14	75,300		
平均				銀両（両）	189.15	1.71	9.37	6.77	6%
				銅銭（文）	319,111		8,367	7,189	

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

高くない。なお、これまで検討してきた碑刻において武生の寄付は極めて少なく、蘇州・上海・北京などの都市はもちろん、本論の碑刻よりも広範な階層を含んでいるはずの広州付近も皆無で、泉州・同安についても武生の可能性があるのが各1件程度である。清代中期に武科挙は社会的上昇ルートとして有効ではなくなっていたと思われるが、武科挙に対する評価は、華北は華南とは異なるのだろう。

表20　耆老・郷紳の寄付

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	銀両/銅銭建て/金/現物	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
14	添修玄帝閣碑記	1624	郷耆任自新など4名	銀両（両）	30.30	1	6.00	6.00	19.80%
16	重修潤民侯龍王廟碑記	1628	各里老劉尚礼	金		1			
32	新建戯楼碑記	1709	郷耆楊爾法・郷紳劉遵寛	銀両（両）	145.54	2	8.00	4.00	5.50%
32	新建戯楼碑記	1709	郷紳劉遵寛	銀両（両）	145.54	1	2.00	2.00	1.37%
39	重修高禖殿金妝聖像碑記	1732	董理里人姫鐸禄	銀両（両）	27.54	1	0.50	0.50	1.82%
96	創建出廈補修殿宇禅室戯楼碑記	1796	田縉紳	銅銭（文）	108,730	1	1,000	1,000	0.92%
105	重修関帝廟碑記	1801	耆老崔□・崔友鵬	銀両（両）	788	2	29.00	14.50	3.68%
111	重修龍泉山東岩寺募化郷村碑記	1809	郷耆李玘	銀両（両）	110.92	1	1.00	1.00	0.90%
116	補修神殿並舞楼碑序	1812	耆賓王	銀両（両）	2.15	1	0.30	0.30	13.95%
121	移修聖母諸神廟記	1813	郷耆呉清　男武生士	銅銭（文）	1,124,400	1	152,000	152,000	13.52%
126	真武廟重修碑記	1817	耆賓王翰彩・武彰	銀両（両）	813.79	2	0.34	0.17	0.04%
128	重修楽楼供器記	1818	耆賓陶	銀両（両）	25.10	1	0.30	0.30	1.20%
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	耆賓呉建泰	銀両（両）	792.60	1	80.00	80.00	10.09%
131	重修大廟創修舞楼碑序	1819	耆賓呉建泰	労働力		1			
159	重修神廟舞楼並創建鐘楼鼓楼及各工碑記	1845	耆賓張登科・張応辰・張平・李世澤など10名	銀両（両）	822.72	3	165.82	55.27	20.16%
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	耆民陳廷蘭・耆賓朱伝道	銅銭（文）	168,000	1	5,250	5,250	3.13%
171	真武廟創建香亭碑記	1858	耆賓楊建邦	銀両（両）	264.50	1	24.00	24.00	9.07%
174	重修行宮碑記	1860	馬跑泉耆賓韓国麟	銀両（両）	221.43	1	1.00	1.00	0.45%
175	重修天斉献殿戯楼暨二山門碑記	1862	耆老劉倹	銅銭（文）	68,510	6	300	50	0.44%
180	重修舞楼窯亭記	1866	耆賓王道安	銅銭（文）	69,300	1	35,000	35,000	50.51%
200	重修（土地嚴）碑記	1890	職員衛瑞兆	銅銭（文）	10,240	1	2,000	2,000	19.53%
210	創立培文会碑記	1899	郷耆張金榜	銀両（両）	461.20	1	6.00	6.00	1.30%
合計				銀両（両）		20	325.26		
				銅銭（文）		11	195,550		
平均				銀両（両）	332.24	1.50	23.16	13.93	9%
				銅銭（文）	258,197		32,592	32,550	

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

（6）耆老・郷紳

耆老・郷紳・職員など、在地有力者と考えられるものを記載されたものをまとめたのが表20である。こちらも1620年代の明末の事例に始まり、18世紀の事例もあるが、ほとん

どは19世紀である。寄付額は官僚には及ばないものの、科挙の有資格者と比較した場合は多い。同安の事例と比較すると、同安は耆賓・郷耆が各1件であったから、耆老は17通の碑刻で事例がみらえる山西が多い。一方で、職員については、同安は9件で山西は1件であるため、こちらは山西の方が少ない。地域による違いが生じている原因は不明である。

（7）その他

19世紀半ばの動乱期以降に、督撫は兵火で疲弊した地域の復興のために善後局などの「局」を整備するが[95]、山西でも山西巡撫の主導の下、悪化した財政を立て直すために税収確保を目指して局が設置された[96]。局そのものとしては【193】「重修骷髏廟碑記（1884）」において「善後局」が40万文、「安和豊官運局」が5万文を寄付したという事例がみられるのみである[97]。このほか、局の委員として、【184】「重修馬王廟碑序（1870）」において、「藍翎同知銜知県運防局委員経歴劉楷」と「運防局委員塩運司経歴高鳳輝」が各2両を寄付したという事例のみである[98]。ほかに、同じ碑刻にある「龍王辿抽釐委員前朔平府経歴李元恩」と「龍王辿緝私委員候補塩運司経歴曾継栄」が各10両寄付したとあるが、これらもそれぞれ「釐金局」・「緝私局」の委員であろう。その他、近代化事業などに関連した寄付はなく、清末まで山西の農村部には近代化事業はあまり影響を与えていなかったのだろう。

以上のように、官僚や士大夫および地域の有力者たちは全体的に20世紀初頭まで寄付集団のなかでかなり重要な層を占めている。占有率については、同安と類似した数値が出てきた1870年代以降在地の有力者たちの寄付が減り、東南アジア華人の占める割合が増えていく同安の事例と比較すると[99]、19世紀後半における変化が少ないといえる。

2　民

（1）商工業・サービス業・金融業

まず、農業従事者を除く最大の寄付主体である商工業者についてみていきたい。商工業者の組織である行についてみると、表21のようにその寄付事例は少なく、全てが19世紀以降であり、その占有率も高くない。例外の【201】「重建後稷廟鐘楼記（1892）」では銀銭と估衣（古着）・山貨（荒物）を扱う商人達の3団体の合計の寄付額が記されている。なお、同碑刻にはこれとは別に「三行捐資」として各商店の寄付額が列挙されており、その寄付額の合計額は198.95両となるが、三行以外の商店などを含んでいる可能性もあり、詳細は不明である[100]。会館については【203】「補修真澤宮募化四方布施碑記（1892）」に2件みられるが、こちらも大口の寄付ではない。これは対外貿易や内国貿易の管理・徴税

表21　行・会館の寄付額

番号	碑刻名	建碑年	行の名称	銀両/銅銭建て	寄付総額	行の寄付額	行の占有率	備考
118	重修真澤宮後殿碑記	1813	銅行	銀両（両）	170.00	10.00	5.88%	
118	重修真澤宮後殿碑記	1813	油行	銅銭（文）	159,000	5,000	3.14%	
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	銀銭・估衣・山貨三行	銀両（両）	974.45	104.05	10.68%	総額は個別の寄付額が不明なものを含む。
202	補修真澤宮碑記	1892	公合当行・附城鎮布行	銅銭（文）	985,000	4,000	0.41%	
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	1892	道口山西会館	銅銭（文）	2,232,300	10,000	0.45%	
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	1892	会館	銅銭（文）	2,232,300	3,000	0.13%	
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	1892	□郡錫貨行	銅銭（文）	2,232,300	3,000	0.13%	

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

を担っていた牙行の組織である洋行・商行が目立った寄付を行っていた同安とは異なるが[101]、本論の対象が廈門のような商業中心地の碑刻ではないことが原因だろう。

次に、商人による寄付を時期別に検討してみたい。商号と思われる「○○号」、旅館ないし店舗と思われる「○○店」、手工業者を含む「○○坊」、商人と思われる「○○行」、サービス業者などと考えられる「○○楼」を整理したのが表22である。

「○○号」と表記されている事例については402件あるが、そのうち寄付額が判明している394件を整理した[102]。このうち、銀両建ての初出は乾隆12年（1747）、銅銭建ては乾隆45年（1780）となる。銀両建ては18世紀後半、銅銭建ては開港後の期間が最も多く、1件あたりの金額は銀両建てが開港後に金額がやや減少するが、銅銭建ての寄付は開港後の増加が著しい。

「店」と表記されるものは191件になるがそのうち、寄付額が判明している182件を表22に示した。銀両建ての初出は乾隆12年（1747）、銅銭建ては乾隆36年（1771）となる。銀両建て、銅銭建てともに開港後が多く、特に銅銭建ての金額の増加が著しい。銀両建ては、開港前の時期は件数、金額ともに減少している。全体としては「商号」と傾向は一致しており、銀両建て・銅銭建てともに1件あたりの平均額はやや商号が多いものの、ほぼ同額である。

「坊」・「行」・「楼」は19世紀以降の初出が大半で、ほとんどが開港後の事例となる。事例が少ないものの、「号」・「店」と比較した場合、寄付額の平均額はやや低いものの、全体としての傾向性は類似している。ここから、19世紀以降の農村部に隣接した地域にお

表22　号・店・坊・行・楼の寄付額推移

	名称	時期	17世紀	18世紀前半	18世紀後半	19世紀開港前	開港後（1843～1911）	合計
銀両	号	件数		1	62	15	19	97
		金額（両）		0.32	132.68	26.00	29.98	188.98
		1件あたり平均額（両）		0.32	2.14	1.73	1.58	1.95
	店	件数		3	11	7	46	67
		金額（両）		0.36	22.00	14.50	83.36	120.22
		1件あたり平均額（両）		0.12	2.00	2.07	1.81	1.79
	坊	件数					3	3
		金額（両）					2.10	2.10
		1件あたり平均額（両）					0.70	0.70
	行	件数	1			1	12	14
		金額（両）	0.15			0.50	18.50	19.15
		1件あたり平均額（両）	0.15			0.50	1.54	1.37
	楼	件数					9.00	9.00
		金額（両）					10.60	10.60
		1件あたり平均額（両）					1.18	1.18
銅銭	号	件数	0		11	181	105	297
		金額（文）			7,170	165,000	523,643	695,813
		1件あたり平均（文）			652	912	4,987	2,343
	店	件数			12	50	55	117
		金額（文）			5,150	46,800	150,629	202,579
		1件あたり平均（文）			429	936	2,739	1,731
	坊	件数				2	14	16
		金額（文）				1,700	17,500	19,200
		1件あたり平均（文）				850	1,250	1,200
	行	件数					6	6
		金額（文）					12,000	12,000
		1件あたり平均（文）					2,000.00	2,000.00
	楼	件数				2	4	6
		金額（文）				1,300	5,000	6,300
		1件あたり平均（文）				650	1,250	1,050

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

表23　典當の寄付額推移

		18世紀前半	18世紀後半	19世紀 開港前	開港後 （1843～1911）	合計
銀両	件数	1	14	6	10	31
	金額（両）	0.32	39.10	4.60	49.00	93.02
	1件あたり平均額（両）	0.32	2.79	0.77	4.90	3.00
銅銭	件数		20	15	46	80
	金額（文）		8,100	15,250	344,786	368,136
	1件あたり平均（文）		405	1,017	7,495	4,602

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

ける商工業ないしサービス業の拡大を示している。

典當業と考えられるものについてみると表23のようになり、金額判明分も含めて件数は110件と非常に多く、山西省において典當業が農村部まで浸透していたことを示している[(103)]。銀両建ての初出は乾隆12年（1747）、銅銭建ては乾隆36年（1771）となり、全体的にその他の業種よりも古い。一方で、開港後の件数が多いことは「号」・「店」表記と共通している。1件当たりの平均額は銀両建て、銅銭建てもともに高い数字となっており、特に開港後の銅銭建ては顕著である。なお、同安の事例では明確に典當と思われる事例は少なく[(104)]、山西省における典當業単独での事例がめだっている。

このほか、業種がわかる実例を整理すると、表24のようになる。「窯業」は初出が雍正元年（1723）の「安陽北窯」で早く、同じ碑刻に「安陽村」の寄付も見られるので[(105)]、その付近の業者であろう。ただし、「〇〇窯」と記載されていても、山西では石炭業も盛んであり、炭鉱の可能性はある。もっとも明確に炭鉱と考えられるのは「義興煤窯」による1件（400文）のみである。寄付額をみると、【190】「補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記（1877）」に「石灰窯」による7万文の寄付があるが[(106)]、それ以外の寄付額は1,000文以下が大半である。清代山西の炭鉱業は農民の家族経営が多くて小規模であり、寄付額もそれを反映しているのだろう[(107)]。

時期的には18世紀後半の金店や塩店がそれに次ぐが、その他の業種は多くが19世紀以降である。1件あたりの金額をみると、やはり塩業関係の「鹽号」・「鹽店」がややめだつものの、その他はそれほど大差ない。製鉄業と関連していると思われる「〇〇爐」や「〇〇炒爐」は、【125】「重修成湯殿碑記（1817）」と【181】「炎帝廟重修花費碑記（1866）」に集中していて、寄付額は少なく、当時山西省南部で主流であった家族経営の小規模な事業と考えられる[(108)]。【201】「重建後稷廟鐘楼記（1892）」にみられる「興隆廠」・「永盛廠」

表24　業種別の寄付額

	銀両			銅銭			現物	
	件数	金額（両）	初出	件数	金額（文）	初出	件数	初出
窯業 / 石炭業	1	0.1	1723	16	85,100	1798		
石炭業				1	400	1798		
金店	1	2	1778					
鹽店 / 鹽号	4	9.3	1771	9	42,200	1771		
製鉄業	4	7.8	1800	9	15,000	1817		
花店	1	1	1908	2	1,900	1804		
飯店 / 飯鋪	3	0.6	1894	1	2,000	1817		
染房 / 染坊	1	0.5	1894	3	3,400	1817		
油店 / 油房 / 油行				8	6,043	1824		
衣店 / 布店	1	2	1844/1845	5	10,000	1845		
廠	2	3	1892				1	1844/1845
麺店				3	5,500	1849		
磨 / 碾	1	1.44	1870	3	4,000	1851		
麻店 / 麻鋪				3	4,200	1866	11	1906
銭局 / 銭店	1	6	1870	2	2,500	1874		
肉架	1	5	1870					
薬局	1	1.2	1870					
煙店				2	22,143	1874		
酒店				1	1,000	1874		
皮匠鋪	1	0.3	1894					

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

といった何らかの事業と考えられる「廠」の寄付額も合計3両と少なく、こちらも小規模な事業と考えられる。もちろん、この表に挙げられている業種は山西においても従来から存在したが、鎮やそれ以下のレベルにまで広く浸透してきたのが19世紀後半以降ということになるだろう。

遠隔地の商工業者についてみると、【203】「補修真澤宮募化四方布施碑記（1892）」のみにみられる。直隷省の天津、大名府、楽亭県、獲鹿県、河南省河内県清化鎮、清豊県、滑県、滑県道口鎮、内横県、内横県楚旺鎮、滑県、濬県、南楽県、山東省淄川県周村など、碑の位置する壺関県の東側で、天津、道口鎮、周村といった山西商人の拠点などからの寄付があるが[109]、その他の碑刻は遠隔地からの寄付はほとんどみられない。これは遠隔地

表25　全商店・事業者の寄付

		17世紀	18世紀前半	18世紀後半	19世紀開港前	開港後(1843～1911)	合計
銀両建て	件数	1	6	120	34	339	500
	金額（両）	0.15	1.10	381.88	61.30	1,050.44	1,494.87
	1件あたり平均額（両）	0.15	0.18	3.18	1.80	3.10	2.99
	寄付の総額（両）	963.32	1,638.12	5,604.99	5,964.83	9,996.62	24,184.49
	商店・事業者による寄付の割合	0.02%	0.07%	6.81%	1.03%	10.51%	6.18%
銅銭建て	件数			44	271	566	881
	金額（文）			20,820	252,450	1,716,680	1,989,950
	1件あたり平均（文）			473	932	3,033	2,259
	寄付の総額（両）	3,430	111,620	1,346,478	6,559,002	30,692,459	22,665,229
	商店・事業者による寄付の割合			1.55%	3.85%	5.59%	8.78%

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

商業の拠点となる県城内の碑刻がないからであろう。

以上、商業・サービス業・金融業の関係業者をまとめると表25のようになる。全体としては銀両建て・銅銭建てとも貨幣使用の変化と類似している。銀両建ては19世紀の開港前に減少しているのが顕著であり、銀両建て金額の総額に占める割合も減少している。一方で、開港後は激増しており、寄付額全体に占める割合も大幅に増えている。銅銭建て件数は開港前に伸びており、金額的にも開港後に最大となり、占める割合も大きくなっている。19世紀の開港前の時期における銀不足の影響などはみてとることができるものの、全体としては銅銭の普及と商工業の発展は並行しており、次第に商工業者の寄付の割合が大きくなってきているのがうかがえる。

このうち山西票号の可能性があるものは、【184】「重修馬王廟碑序（1870）」に集中しており、「運城志成信（太谷）」・「蔚泰厚（平遥）」・「百川通（平遥）」が各2両、「曲沃協同慶（平遥）」・「新泰厚（平遥）」が各1両の寄付を行っている(110)。このほか、【218】「補修真武廟碑記（1908）」に「曲沃蔚泰厚」が銀2両の寄付を行っている(111)。いずれも金額的にも寄付額は1～2両で目立たず、全体的には山西票号の主要な活動領域から離れた地域に立地する碑刻であることがうかがえる。

以上を碑刻別に整理すると附表2のようになる。銀両建て・銅銭建てともに18世紀後半以降が大半であり、特に銅銭建ては1770年代以降になる。占有率は一部100%のものがあるために高い数値が出ているが、これは1件しかデータを収集していないからである。19世紀後半については、寄付件数が増大するなかで占有率が高くなってきている。また、銀

表26　職人による寄付

	銀両			銅銭			現物	
	件数	金額	初出	件数	金額	初出	件数	初出
油匠	2	1.300	1701					
石匠 / 石工	8	3.335	1615	5	23,660	1799		
画工	1	1.000	1888	3	113,940	1794		
瓦匠 / 泥匠	7	2.300	1615	10	228,385	1794	1	1781
刊字匠	4	0.960	1730					
木匠 / 木工	9	3.495	1615	11	316,040	1794		
玉工	2	0.300	1723	2	111,640	1853		
鉄匠	5	0.700	1615				1	1870
磨匠	1	0.300	1730					
塑匠				2	225,900	1813		
鉄筆				1	500	1794	1	1888
不明				1	5,000	1878		
合計	39	13.690		35	1,025,065		3	
総額		24,184.486			22,665,229			
比率		0.06%			4.52%			

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

両建てについてみると、1820 ～ 1850年代の事例は皆無であり、銅銭建ても1820 ～ 1840年代の事例はない。19世紀前半に、下層市場近くでも寄付が減少するような経済的変動があったことが想定される。また、官僚や科挙有資格者の寄付が比較的多い碑刻とは異なる碑刻の占有率が高く、これは碑刻の性格と士大夫と民の棲み分けを示しているといえよう。

（2）職人

職人について整理すると、表26のようになる[112]。石匠（石工）や刊字匠（石碑に字を刻む職人）など碑刻そのものに関わる職人のほか、寺廟の建築・再建に関連していることから、瓦匠（泥匠）・木匠などの建築業、さらには画工・玉匠・塑匠（塑像製作職人）などの寺廟と関連する職人などに職種が広がっている。銀両建ての場合は石匠・木匠・鉄匠の初出が1615年であるように、17世紀からみられるが、これは碑刻・建築に関係しているからだろう。一方で銅銭建ての場合は全て1790年代以降となり、銅銭の普及とリンクしている。

銅銭建ての場合は、全寄付額の中で4.52％という比率を占めているが、これは、【120】

表27　女性の寄付

		16世紀	17世紀	18世紀	19世紀 開港前	19世紀 開港後	合計
銀両建て	件数	16	85	74	101	5	281
	金額（両）	3.00	10.05	48.01	186.25	25.90	273.21
	1件あたり平均額（両）	0.19	0.12	0.65	1.84	5.18	0.97
	総額（両）	16.61	963.32	7,243.11	5,964.83	9,996.62	24,184.49
	女性による寄付の割合	0.31%	0.14%	0.66%	3.12%	0.26%	1.13%
銅銭建て	件数	1	0	17	21	14	53
	金額（文）	1,000	0	2,891	42,050	15,790	61,731
	1件あたり平均（文）	1,000	n	170	2,002	1,128	1,165
	総額（文）	6,700	3,430	1,458,098	6,559,002	30,692,459	22,665,229
	女性による寄付の割合	14.93%	0.00%	0.20%	0.64%	0.05%	0.27%
金･現物･労働力	件数	5	8	3	4	2	22

出典：『明清山西碑刻題名輯要』

「重修化悲岩水静寺碑記（1813）」において、石匠・塑匠・木匠・泥匠らが工銭（労賃）分、44万6,265文を寄付し【190】「補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記（1877）」において木匠楊玉山・楊俊文、玉匠潞邑李徳花、泥匠鄧成明、画匠李更秋らが共同で55万3,200文寄付しているのが大きく影響している。

このうち【120】の碑刻の工銭については、「匠人工価布施開後」の後に列挙され、例えば「塑匠王増慧・子永万工銭二百一十五千九百文、施銭一万整」とあるように、「施銭」とは明確に区別されており[113]、これは無償で修築工事を行った際の労賃を銅銭建てに換算したのであって、実際には銅銭は支払われていないのだろう。銅銭不足の際に、このように労働力を銅銭建てにして計算することは広く行われていたと考えられる。

これまで取り上げてきた地域の碑刻データから職人についてみると、蘇州は全データ4,999件中0件、上海は5,054件中、「重修商船会館碑」に記された1891年の寄付者のなかに「林錫匠」・「陰溝匠（地下排水溝関係の職人）」・「各匠酒銭」が3件みられるのみである[114]。北京は7,369件中0件、泉州は6,157件中0件、同安は1万4,746件中0件、広州も3万1,974件中0件であり、こうした職人による寄付はほとんどみられなかった。泉州・同安・広州の碑刻は山西の碑刻と同様に寺廟の建造・修築などの建碑目的も共通しており、それにもかかわらず職人の寄付が全く記録に残っていないのは、職人と廟の関係のみならず、職人の社会的な地位の違いも影響しているのかもしれない。

(3) 女性

女性については、表27で全体的な動向を示した。女性単独が359件、連名で女性筆頭が3件、連名で男性が筆頭の場合が57件あったが、このうち女性単独の事例だけを取り上げ、銀建て・銅銭建てについては金額判明分のみ示した。寄付した女性の多くは寡婦と思われる。なお、女性の場合は【126】「真武廟重修碑記（1817）」の「女善人施銀一両四銭、新村女善人施銀一両三銭□分」[115] といった形で匿名の形式も存在する。

銀両建てでみると、17世紀に大幅に増大し、開港前まで比較的件数は多い。18世紀は【40】「重修観音閣碑記（1732）」のように19件中12件が女性であり、そのうち11件は単独の寄付という、女性が大半を占める事例もある。19世紀開港前の金額が大きくなっているのは、【111】「創建三清殿磨針亭静楽宮碑記」（1801）において最大の寄付者「稷邑張家荘天爵張公妻鄭氏」が130両を寄付しており、また【118】「重修真澤宮後殿碑記（1813）」において壺関県知県程が30両寄付したのに続いて「程老太太」が10両寄付しているのが影響している[116]。これを除くと寄付額はそれまでの時期とは変わらない。また、開港後は全体の比重は大幅に減少している。

銅銭建ては銀両建てと比較して件数は少ないものの、銀両建てと同じような傾向がみられ、19世紀の開港後に大幅に減少する。こうした19世紀後半の女性の寄付における役割の低下は、同安の事例でも見られており[117]、女性の周縁化が各地で見られた可能性を示す。商業活動が活性化するなかで、寡婦をはじめとする女性の財産のあり方や社会的規範に変化があったのかどうかも、また検討の余地があるだろう。

以上のように、寄付者から見ると、官僚・士大夫層の占有率は同安と山西に大きな違いはないが、1870年代以降に在地の士大夫層の寄付が減少していく同安とは異なり、山西においては清末まで寄付者集団のなかで重要な役割を果たしていたこととが分かる。また、商工業者らについては、銅銭の普及と合わせて寄付者集団内での割合が増大し、19世紀後半にはいっそう重要な役割を果たしていている。

お　わ　り　に

本論の内容を貨幣の面から見ていくと、1770年代に銀両建てから銀両建て・銅銭建ての併用へと大きな転換がみられる[118]。いったん銅銭建てが成立した後、19世紀初頭には銭票も受容されて機能してくるため、銅銭建ての普及と山西における銅銭鋳造量・供給量はあまり関係がなくなったといえる。また、19世紀前半における銀両建ての減少は顕著であり、全国的動向と一致する。

表28　寄付事例にみる貨幣の使用状況

	蘇州	上海	北京	山西	泉州	同安	広州
16世紀				銀両・現物	銀両・銅銭		
17世紀				銀両・現物	銀両・銅銭	銀両・洋銀	銀両
18世紀前半				銀両	洋銀	銀両・洋銀	銀両
18世紀後半	銀両・折銭	銀両	銀両	銀両・銅銭	洋銀	銀両・洋銀	洋銀・銀両
19世紀開港前	洋銀・銀両・銅銭	銅銭・洋銀・折銭	銀両・銅銭	銅銭・銀両	洋銀・銅銭	洋銀	洋銀・銀両
開港後～1870年代	洋銀・銅銭	洋銀・銀両・銅銭	銀両・銅銭	銅銭・銀両	洋銀	洋銀	洋銀・銀両
1880年代～20世紀初頭	洋銀・銅銭	洋銀・銀両	銀両	銅銭・銀両	洋銀	洋銀	洋銀・銀両

出典：「寄付する人と使う貨幣」42頁、「「士大夫」から華人へ」340頁。

本論で示した山西の貨幣の傾向を他地域の結果と統合すると表28のようになる。山西における顕著な銅銭建ての優位は、他地域よりも銀が不足していたことによるものかもしれない。銀不足については、銀の流入量・流出量に加えて、銀の流通のあり方とそれによる銀の遍在が問題となる。

開港前の中国において、銀は広東・福建といった東南沿海部のように外国銀貨が流通した地域を除けば、中国の大半では銀塊（銀錠）として流通していた[119]。もちろん都市から村落にいたるまで多様な両替業者がいて両替を行っていたが、実際には全ての銀塊を正確に鑑定するのは困難かつ煩雑であった。したがって各都市においては銀号・銭荘が兼営していた銀爐・銀匠といわれる改鋳業者がいて、主要な都市ではその改鋳業者の打刻のある銀塊が、その改鋳業者あるいは改鋳業者の集団の信用が得られる範囲内で流通していた[120]。

これを図に示すと図9のようになる。ここでは、例えば都市Aで銀匠Aが改鋳して使

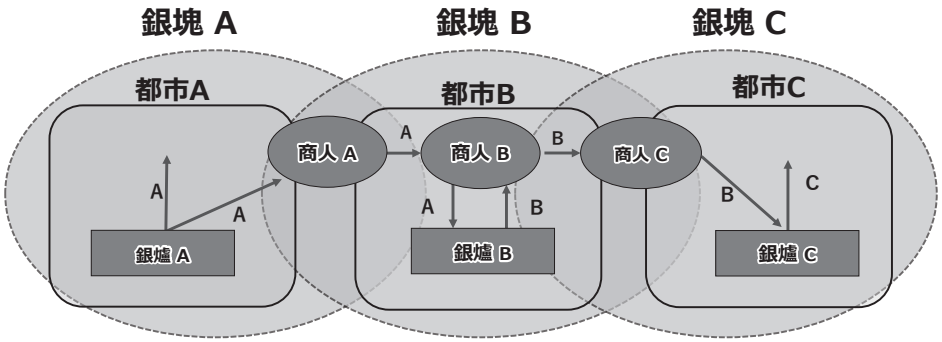


図9　銀の信用連鎖

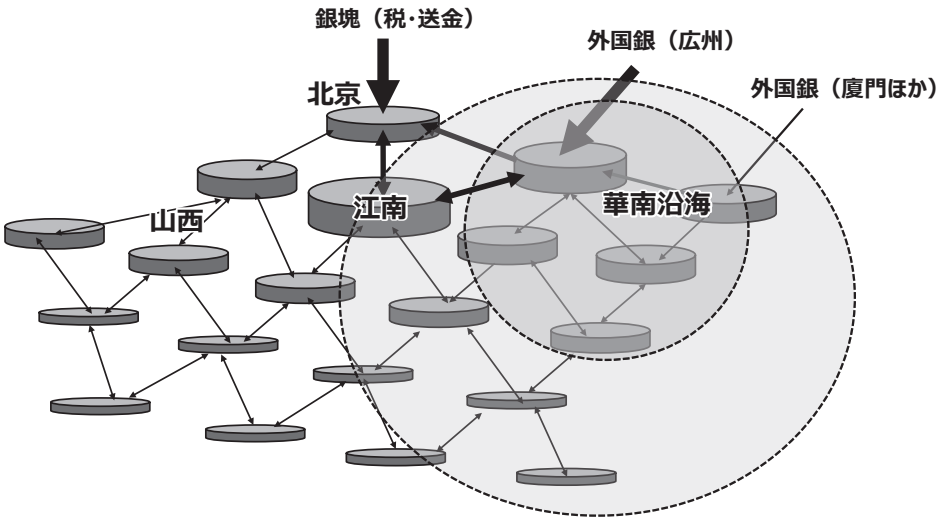


図10　銀の循環と偏在

用されていた銀塊Aは、都市Bに持ち込まれた場合、商人Bに受け取ってはもらえるが、都市B内では使用できない。そこで商人Bは都市B内の銀匠Bに改鋳を依頼する。この銀塊Bは都市B内で流通し、商人Cによって都市Cに持ち込まれ、同じような事が繰り返される。かかる状況下にあって、同一都市内における銀の循環も増大し、銀の流通速度は抑制されることになる。そして、銀の流入する地域から離れ、取引が盛んでない地域になればなるほど、銀が流入するのに時間を要し、流入量も減少しただろう。

全国的に考えた場合、岸本美緒の貯水池モデルを利用して銀の循環を考えると(121)、図10のような流れを想定することができる。銀の大きな流れとしては外国からの銀の流入が主に広州においてみられる(122)。また、政府により吸い上げられた税の一部は北京から流れ出していく。これに全国から北京に上京した官僚・士大夫やその家族宛に送金された銀も加わる。これらのうち、外国から入ってきた銀の多くは華南沿海部で循環していた可能性が高い。これは、華南沿海では銀が細かく砕かれた細銀として末端まで受容されていたためである(123)。さらに沿海部では船舶の寄港時などに大量の商品を短期間で集める必要があった。開港前のアヘン貿易はその典型である(124)。開港場に倉庫が整備される前は、港には十分な在庫がないから、短期の貨幣需要は高かっただろう。また、華南と深い貿易関係にあり、最も豊かな地域であった江南にも銀が流れ込み、江南を中心とする主要な貿易ルート沿いで取引が活発な地域においても銀が循環している。その他の地域については、図9に示したような信用連鎖の影響もあり、銀の供給は限られており、恒常的に銀が不足しがちになる。一方で銀流出の影響に関してみると、広州・泉州のような下層市場に

銀が浸透した地域では、19世紀中葉の銀流出の衝撃が大きい可能性がある。しかし、沿海部で銀が再び流入してきた場合の回復が早いのに対して、内陸地域は銀流出の影響が及ぶのは遅いかもしれないが、銀不足からの回復にも時間がかかると考えられる。

沿海貿易といった比較的大規模な取引において短期間に物資を引き出すためには、末端の取引は大口取引ばかりではないから、銅銭も重要な役割を果たす。それゆえ、沿海部や商業中心地には銅銭も集まっていく。しかも、銅銭の相当部分はこれらの地域で沈澱ないし環流してしまう可能性が高い。そうなった場合、沿海部との経済関係が希薄な山西などの内陸部においては銅銭もいっそう不足していく。明末においても沿海部に銀と銅銭が集中し、内陸部においてはその両方が不足する事態に至った。同様の事態が19世紀前半にも発生していたと考えられ、その場合下層市場にも影響を与えたであろう。

かかる貨幣状況の中で、いったん銅銭建てを受け入れた山西において、銭票が広く受容されたのは当然であろう。これによって地域的な流動性が維持された可能性は高い。19世紀における山西票号の発展もこの流れの中に位置づけることができるだろう。一方で、それぞれの銭票の流通範囲は限定されている。したがって、短期間に流通範囲外から人員や物資を調達するのは困難であったことが予想される。金融の発展していた山西省の中央部においても光緒年間の飢饉の被害が大きかったのは(125)、地理的に食糧の輸送が困難という山西省の状況を(126)、こうした貨幣状況がさらに悪化させていたからかもしれない。

それでは、こうした貨幣の変化は、社会・経済にどのような影響を与えていたのだろうか。本論で顕著に見られたのは、官僚・士大夫層といった支配層以外における寄付者層の著しい拡大であり、特に商工業者の拡大が段階的にみられたことである。18世紀後半は一つの画期であり、開港後はもう一つの画期となっているが、前者は銅銭の普及と連動している。銀流入による景気の拡大は、銅銭の普及によって内陸部に広がり、末端に広がる商業活動も本格化していく。江南や沿海部を除く地域での商業化は、このような銅銭供給が進んでいく1770年代以降と考えてもよい。表25などからみれば、19世紀後半の商工業者層の拡大はさらにそれを上回る大きな変動である。こうした商工業者を中心とした寄付者層の拡大はもちろん、平遥県・祁県・太谷県の碑刻の分析からも裏付けられる(127)。かかる状況をみると、19世紀後半の商業の拡大は沿海部だけではないことがうかがえる。

こうした18世紀後半からの2段階にわたる経済変動の格差への影響であるが、図1～4にみられるように、18世紀後半に格差の拡大が存在したかもしれないが、19世紀後半については、格差拡大には繋がっていない。官僚や士大夫については19世紀後半まで一定の寄付集団を形成しているが、その集団が拡大している訳ではないし、捐納の拡大によって報捐者の数も増えている。したがって19世紀後半については、金融業の発展とも連動

した商業の下層への拡大とそれによって受益する裾野の広がりといった、トリクルダウン的な効果によって科挙試験をベースにした既存の支配層と民の格差の解消が見られた可能性がある[(128)]。富の分散と末端への広がりは、黒田明伸の指摘する20世紀前半に至るまでの華北における定期市の拡大とつながる現象かもしれない[(129)]。一方で、そうした流れは、資本の集中、さらには工業化という点では不利に働いた可能性がある[(130)]。

こうした変化の中で既存の支配層の役割は相対的に減少しているといえる。また、支配層の占有率の数値は同安の事例と非常に近似していたが、碑刻によって占有率はバラバラなので、支配層が寄付する際の大体の目安があったためとは考えられない。経済が拡大していくなかで、地域における報捐者を多数含む支配層が有していた富の割合が全国的に同じような状況であったのか、こちらも今後の検討課題となる。

以上のように、貨幣の使用と格差・資本の集中および工業化・経済発展は相互に深い関係にあり、各地の貨幣使用状況や寄付者集団の分析を進める中で、より適切なモデルを形成していく必要がある。

註

(1) Man Houng, Lin, *China Upside Down: Currency, Society, and Ideologies, 1808–1856*, Cambridge, Mass.: Harvard University Asia Center, 2006.

(2) アレハンドラ・イリゴイン「道光年間の中国におけるトロイの木馬――そして太平天国反乱期の銀とアヘンの流れに関する解釈」豊岡康史・大橋厚子編『銀の流通と中国・東南アジア』山川出版社、2019年、63–96頁。

(3) リチャード・フォン・グラン「十九世紀中国における貨幣需要と銀供給」豊岡・大橋編前掲書、157–175頁。

(4) 岸本美緒「十九世紀前半における外国銀と中国国内経済」豊岡・大橋編前掲書。

(5) 黒田明伸『中華帝国の構造と世界経済』名古屋大学出版会、1994年、62–91頁。

(6) 山東省寧清県大柳鎮にあった統泰号の1830年の事例から、銀不足に対しては鎮内における帳簿振替決済で対応したとしている。Akinobu Kuroda, *A Global History of Money*, London and New York: Routledge, 2020, pp. 28–30.

(7) 黒田は上層市場から下層市場に銅銭などの手交貨幣を散布すると、それが上層市場に環流する程度は低くなるとする。黒田明伸『貨幣システムの世界史――〈非対称性〉をよむ』岩波書店、2003年、207–208頁。かかる黒田の議論に対して、岸本美緒は、下層市場が上層市場に対して独立的であるかどうかは、使用する貨幣の種類よりも取引関係の構造いかんによるとする。岸本前掲「十九世紀前半における外国銀と中国国内経済」148–149頁。

(8) 21世紀の山西省における聞き取りでも、4–5年前に建てられた村の廟で石碑には50元以上寄付した人の名前は記録されているが、自分は10元なので記録されていないという証言がある。田中比呂志・弁納才一・祁建民編『中国山西省高河店訪問調査の記録――2006・2007年』汲古書院、2023年、52頁。

(9) 計数能力に欠けることが多かった科挙官僚の残した断片的な記述資料を用いることの問

題点については以下で指摘した。拙稿「18世紀中国の数量的復元――「大分岐」と大豆・砂糖」石川禎浩編『20世紀中国の資料的復元』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2024年、270頁。

(10) 集めた募金の使途の明細について記載した碑刻も多い。

(11) 拙稿「寄付する人と使う貨幣――清代後期の貨幣使用と格差社会」村上衛編『転換期中国における社会経済制度』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2021年、同「「士大夫」から華人へ――清代後期同安県の寺廟に対する寄付事例より」『東方学報』96、2021年。

(12) この点は高島正憲氏（関西学院大学）から示唆を得た。

(13) 拙稿「寄付する人と使う貨幣」47–48頁。

(14) 山西省の碑刻のデータを利用した先行研究としては、史若民らによって明末から清代の平遥県・祁県・太谷県の碑刻から得られるデータが分析されてきた。史若民・牛白琳編著『平、祁、太経済社会史料与研究』山西古籍出版社、2002年、92–99、137–146頁、史若民『票商与近代中国』中国言実出版社、2014年、7–21頁。このほか都市レベルでは喬南が解州の関帝廟の18世紀後半以降の10通の碑刻を利用して、寄付者と寄付額を分析し、清代中期における商業の発展を強調している。喬南「清代山西解州城的商業――以関帝廟碑刻資料為中心的考察」『中国経済史研究』2017年3期、2017年。村落レベルとしては廖声豊・孟偉が高平市寺荘村の20通の碑刻を分析し、直隷などへの客商としての活動から18世紀後半以降の商業発展を示している。廖声豊・孟偉「明清以来山西村落的廟宇与商業発展――基於対高平市寺荘村原存廟宇碑刻的考察」『中国社会経済史研究』2015年2期、2015年。このほか、農村の廟の建設にあたる職人以外の労働力や建材などについても碑刻を利用した分析が進んでいる。劉振剛「清代山西農村廟宇営建的労力及材料図景――以碑刻為中心」『中国社会経済史研究』2021年4期。2021年。とはいえ、一部の都市や廟の限られたデータを用いた事例研究にとどまり、貨幣の使用と寄付者の属性など、山西省の全体的な傾向の把握を試みる本論とは目的が異なる。

(15) 張維邦主編『山西省経済地理』新華出版社1987年、5–6、25頁。

(16) 張維邦主編前掲書、8–14頁。

(17) バックは冬小麦–ミレット地帯において可能な地域は18％としている。John Lossing Buck, *Land Utilization in China: A Study of 16,786 Farms in 168 Localities, and 38,256 Farm Families in Twenty-two Provinces in China, 1929–1933*, Chicago, Illinois: The University of Chicago Press, 1937, pp. 55–60. 綿花は汾河流域で生産された。当該地域はアヘン原料としてのケシ栽培地であったが、禁煙政策によって綿花栽培地となった。東亜同文会編『支那省別全誌　第十七巻　山西省』東亜同文会、1920年、345頁。

(18) 趙文林・謝淑君『中国人口史』人民出版社、1988年、409–410頁、曹樹基『中国人口史　第五巻　清時期』復旦大学出版社、2001年、699–700頁、上田信『人口の中国史――先史時代から一九世紀まで』岩波書店、2020年、146頁。

(19) 当時の山西省は出生率・死亡率とも高く、平均寿命も33歳程度と短かったために人口増大が緩慢であったという推測もある（華士林主編『中国人口（山西分冊）』中国財政経済出版社、1989年、53頁）。しかし、同様の傾向は他地域でもみられた可能性がある。

(20) 張雪琴・王霊善責任編集『山西通史　第六巻　近代巻』山西人民出版社、2001年、24–34頁。

(21) 絳州・垣曲県といった太平軍と捻軍の両方に占領された県城を含め、太平軍・捻軍のい

ずれかに占領された7県は本論で扱う碑刻の立地する県である。

(22)「自同治六年冬月間、賊匪渡河、頗傾金神、焚毀廟宇（闕文）」『明清山西碑刻題名輯要』下、754頁。

(23) 曹樹基前掲書、652–678頁、山西省地図集編纂委員会編製『山西省近現代史地図集』西安地図出版社、2012年、137頁。

(24) 寺田隆信『山西商人の研究』東洋史研究会、1972年、80–119、221–296頁、佐伯富『中国塩政史の研究』法律文化社、1987年、430–476頁。黄鑒暉『明清山西商人研究』山西経済出版社、2002年、63–67頁、王尚義『晋商商貿活動的歴史地理研究』科学出版社、2004年、198–112頁。

(25) 山西省以外に山西商人らが設置した49箇所の会館のうち、北京の5箇所を除けば全て清代に設置された。黄鑒暉前掲『明清山西商人研究』109–147、297–304頁。王尚義前掲書、130–136、145–150頁。

(26) 劉建生・劉鵬生・梁四宝・燕紅忠・王瑞芬・樊江春『晋商研究』山西人民出版社、2005年、198–204頁、黄鑒暉前掲『明清山西商人研究』156–157頁。

(27) 劉建生等著前掲書、122–127頁。

(28) 黄鑒暉『山西票号史（修訂本）』山西経済出版社、2001年、46–170、195–293頁。

(29) 足立啓二「明清時代における銀経済の発展」中国史研究会編『中国専制国家と社会統合——中国史像の再構成Ⅱ』文理閣、2022年。

(30) 靳学顔の上奏文については以下に詳細が示されている。佐々木愛「山西巡撫・靳学顔の廃銀用銭論」小林准士『銀の流通と石見銀山周辺地域に関する歴史学的研究』科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書、2009年、18–29頁。ただし、全体して銅銭の鋳造と流通の促進を主張しており、その文脈で書かれた上奏という点は注意が必要である。

(31) 黒田前掲『中華帝国の構造と世界経済』、50–55頁。

(32) 上田裕之『清朝支配と貨幣政策——清代前期における制銭供給政策の展開』汲古書院、2009年、266–268頁。

(33) 上田裕之前掲書、300–302頁。このほか、李紅梅は清代を通じた制銭の推定鋳造量に基づいて制銭使用量を推計し、一人当たりの鋳造量を嘉慶16年（1810）までの数字として最大120文としている。これは直隷の最大1,438文はもちろん、陝西の368–548文と比較しても少なく、広東の80–121文に匹敵する。李紅梅「清代における銅銭鋳造量の推計——順治～嘉慶・道光期を中心として」『松山大学論集』21巻3号、2009年、253–258頁。

(34) 李紅梅「貨幣流通の視点からみた山西票号」『松山大学論集』24巻3号、2012年。

馬国英「1736–1911年間山西糧価変動趨勢研究——以貨幣為中心翟考察」『中国経済史研究』2015年3期、2015年、121–122頁。

(35) 張寧「従銭票流通看清中葉的金融変革——兼論金融史研究的本土視角」『中国社会経済史研究』2022年第3期、2022年、42–44頁。

(36) 王雪農・劉建民編著『中国山西民間票帖』中華書局、2001年、1、11–14頁、張寧前掲論文、42頁。中国の金融の重要な中心であった徽州でも、1791年以降に銭票の使用が広がった。Lin, *op. cit.*, p. 37.

(37) 山本進「清代の京銭と折銭納税」『名古屋大学東洋史研究報告』29号、2005年、49頁。

(38) 清代中期における山西の銭帖には、小切手、為替手形、約束手形といった種類が存在したが、そのうち約束手形の形式が流行するようになった。徐俊嵩・曹樹基『清代山西銭帖：分類、起源与信用』『社会科学』2021年7期、2021年、157–162頁。

(39) 韓祥「近代山西城郷貨幣体系変遷初探（1894–1927）——以小額通貨為中心」『史学月刊』2020年12期、2020年、55–56頁。

(40) 山西省の碑刻について最も網羅的な碑刻集は劉澤民ほか主編『三晋石刻大全』（三晋出版社、2010– 年）であるが、寄付者名・寄付額が省略された碑刻が多い。

(41) 韓祥前掲論文、60頁。

(42)【173】重修（黒龍廟）碑記（1860/1861）」も便宜上、1860年とみなしてカウントした。

(43) バックは年間の農閑期の割合について冬小麦 – ミレット地帯については3月～9月が3～4％、1月が33％、12月が20％、11月が10％、2月が8％、10月が6％とみなす。Buck, *op. cit.*, p. 296.

(44) 雍正9年（1731）に山西の商業税は全省で12万3,196両であったが、そのうち3,000両以上を納入したのは鳳台・高平・介休・汾陽・楡次・代州の各州県でありいずれも表3にみられる。黄鑒暉『明清山西商人研究』315–316頁。

(45) 山西票号の中心は平遥・太谷・祁県であり、1823年に票号22家中のそれぞれ16家・3家・2家、1863年に16家中の9家・4家・3家を占めた。黄鑒暉前掲『山西票号史（修訂本）』107、180頁。

(46) 解州の河東塩は山西省のほか、陝西省、河南省の一部を販売地域としていた。唐仁号主編『中国塩業史　地方編』人民出版社、1997年、100頁。

(47) このうち【115】「関帝廟創建碑志（1810）」は四聖宮、【176】「重修関帝郊禖二殿与表南房墁院心並補修閣廟殿（1862/1863）」は玉皇廟に現存する。14通のうち太原市陽曲県北塘郷大卜村関帝廟が2通（【76】・【110】）、運城市平陸県下坪郷下坪村関帝廟が2通（【127】・【168】）である。

(48) 三教堂が13通、三教廟が1通。【1】「重修三教廟碑記（1526）」は老君廟に現存する。14通のうち、晋城市澤州県柳樹口鎮北石甕村三教堂が4通（【17】・【20】・【30】・【52】）、晋城市澤州県柳樹村□鎮司家河村三教堂が3通（【117】・【135】・【148】）、晋城市澤州県柳樹村口鎮宋掌村三教堂が2通（【170】・【213】）である。

(49)【8】「重修東岳天齊廟舞楼三門記（1615）」は澤州県南村鎮冶底の岱廟に現存する。なお、この岱廟は泰山以外で現存する唯一の岱廟である。11通のうち晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟が5通（【18】・【22】・【38】・【64】・【128】）、晋城市陽城県潤城鎮屯城村東岳廟が2通（【86】・【130】）である。

(50)【74】「重修碑記（1772）」は姑射村仙洞溝に、【186】「重修玉皇廟碑文（1874）」は澤州県高都鎮横嶺村に原存。11通のうち晋城市城区西上荘社区龐圪塔村玉皇廟が5通（【35】・【63】・【81】・【97】・【212】）である。

(51) 6通の内、運城市垣曲県解峪郷楽堯村関黒龍廟が4通（【24】・【116】・【134】・【166】）である。

(52) 澤州地区の三教廟は宋代に出現し、明代に後半に広がり、清代が最多となる。清代の澤州府内において三教廟の総数は234箇所以上で、大半が村社の「社廟」であり、人口の少ない山村にも多く分布している。王群韜『殊途同帰——明清澤州地区三教廟研究』上海書店出版社、2022年、52–70頁。

(53) 民国期ではあるが、太原・運城・大同・太谷・祁県・平遥にはそれぞれ独自の秤（平）が存在した。宮下忠雄『近代中国銀両制度の研究——中国幣制の特殊研究』有明書房、1952年、200–203頁。

(54) 韓祥前掲論文、55頁。

(55)『明清山西碑刻題名輯要』下、658頁。
(56)『明清山西碑刻題名輯要』下、705頁。
(57) 清朝は太平天国鎮圧の軍事費調達を目的として銅大銭、鉄銭、銀票・銭票を発行したが、これは人々に受け入れられず失敗に終わった。湯象龍「咸豊期的貨幣」『中国近代経済史研究集刊』第2巻第1期、1933年、11–25頁。
(58) 岸本美緒は市場価格と乖離した固定レートの存在といった広い意味で「七折銭」刊行をとらえるとすれば、同慣行は案外広範な全国的広がりを持っていたのかもしれないとする。岸本美緒『清代中国の物価と経済変動』研文出版、1997年、337頁。七折銭慣行は江蘇・浙江・安幾・福建のほか、湖北・湖南・広東・広西・江西・四川の一部の地域に広がっていた。張景瑞「清代“七折銭”慣例新探」『浙江学刊』2022年1期、2022年。
(59) 金については単位が「匣」・「銭」・「個」など一定せず、単位が書かれていないものもあり、集計はできない。
(60) 山西省では清代において綿業も蚕糸業も衰退し、河南を経由して直隷方面に粟・麦や銀を移出して綿布を移入していた。山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。224、229–230頁。
(61)「北石明祖渠合同志」(乾隆二十八（1763）年九月二十九日）には、南石明新旧祖渠銭壹千五百零貳文・北石明新旧祖渠銭肆千零七柒拾肆文、外有酒席銭九百陸拾文。…北石明親付地主祖渠銭捌佰壹拾伍文、酒席一百文。…南石明親付地主渠銭肆百捌拾伍文。…師家荘親付地主祖渠銀両壹両玖銭肆分三厘壹毫」とあり、銅銭建てが3村、2,802文、銀両建てが1村、1.933両であり、銅銭建ての村が多いが、金額的には大差はない。前掲『三晋石刻大全』臨汾市洪洞県巻（上)、三晋出版社、2009年、385頁。
(62) 馬国英前掲論文121–123頁。大飢饉の光緒4（1878）年には、洪洞県で1両あたり700文など、1両あたり1,000文を下回る事例も存在した。韓祥「晩清災荒中的銀銭比価変動及其影響——以“丁戊奇荒”中的山西為例」『史学月刊』2014年5期、2014年、82–86頁。
(63) Lin, *op. cit.*, p. 3.
(64) 馬国英前掲論文122–123頁。
(65) 民国初期、山西省において米は汾河流域の一部で生産されるにすぎず、その消費量も少なかった。東亜同文会編前掲書、362–365頁。
(66)「成天識羊一隻」【129】「補修広淵廟宇碑記（1819)」『明清山西碑刻題名輯要』下、544頁。
(67)「河東王荘村王金龍布施鹽一石」【108】「重修碑記（1803)」『明清山西碑刻題名輯要』上、460頁。
(68) 明清期の山西における森林資源の減少については邱仲麟「明清山西的山地開発与森林砍伐——以晋中、晋南為中心的考察」行龍主編『山西水利社会史』北京大学出版社、2012年を参照。
(69)「生員陳鴻仁　陳鴻化西北厠坑一所」【15】「妝塑菩薩聖像記（1628)」『明清山西碑刻題名輯要』上、97頁、「常応重施致廟前厠坑地基一塊‥大社将李永功入社観前地基一塊、平房二間、厠坑一塊施与太平観為業」【125】「重修成湯殿碑記（1817)」『明清山西碑刻題名輯要』下、529頁。
(70)「王㝡施窰水使用」【178】「□□楽楼序（1864)」『明清山西碑刻題名輯要』下、729頁。
(71)「許万明・子法豊・法周・法武・法岐・法光・孫□義施銀二両三銭、水六十担、檁一条」【187】「重修二仙宮碑志（1875)」『明清山西碑刻題名輯要』下、764頁。

(72)【207】「重修館廟募化碑記（1894）」『明清山西碑刻題名輯要』下、848頁。
(73) 民国期の閻錫山統治期に山西省臨汾市高河店では徴税として公糧・布・銭を徴収した。田中比呂志・弁納才一・祁建民編前掲書、40頁。
(74) 18世紀前半の銅銭建ての金額が大きくなったのは、銅銭建てが1例のみで金額が大きかったことによる。
(75) 金額が不明な事例の比率が高い碑刻としては、以下の碑刻を対象外とした。【111】「重修龍泉山東岩寺募化郷村碑記」（279件中、判明166件）、【147】「整理郷神嶺社事碑記（1833）」（292件中、判明150件）。また、【163】「補修真澤宮碑記（1850）」・【181】「炎帝廟重修花費碑記（1866）」、【202】「補修真澤宮碑記（1892）」、【203】「補修真澤宮募化四方布施碑記（1892）」は寄付額の多い事例の大半が村などの集団による寄付であるために、【164】「重修白雲寺碑記（1851）」は集団による寄付を除外した場合100件を下回るために対象外とした。
(76) 具体的には以下の寄付を計算の際に対象外とした。【34】「中兵村重修碑序（1716）」では「□□頭糧社銀毎五糧一銭五分」とある1件。【101】「重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記（1799）」では「龍王廟村共一千二百五」とある1件。【103】「創建三清殿磨針亭静楽宮碑記（1801）」では「衆善男女三載六料捐栗変銀九十五両」、「又衆善人銀九両一銭三分」、「劉家荘程□代衆銀八両」など14件。【107】「増修白雲寺碑記（1803）」では「四大社」・「蔭城北社」・「郭家墓」・「南北社」などの26件。【118】「重修真澤宮後殿碑記（1813）」では「南凹盖保峰」・「府城村」・「油行」の3件。【125】「重修成湯殿碑記（1817）」は「北泉社」など18件。【174】「重修行宮碑記（1860）」の「白坡村」1件。【186】「重修玉皇廟碑文（1874）」では「玉寨村」・「大興村」の2件。【207】「重修館廟募化碑記（1894）」では「柳樹社」など25件。
(77) 拙稿「寄付する人と使う貨幣」44頁、同「「士大夫」から華人へ」337頁。
(78)『明清山西碑刻題名輯要』上、436頁。
(79) 足立啓二は、清代中期～後期の華北の社会構造は、雇用労働を多数駆使し大量の家畜を飼う大規模経営と、大規模経営の雇用労働者となる小規模経営者が大量に存在する形をとったとみなす。足立啓二『明清中国の経済構造』汲古書院、2012年。235頁。また、三品英憲は、そうした経営が陝西省や山西省などにおいて20世紀前半においても続いていたとみなしている。三品英憲『中国革命の方法――共産党はいかにして権力を樹立したか』名古屋大学出版会、2024年、77–85頁。
(80)『明清山西碑刻題名輯要』上、230頁。
(81)「村人等議□公挙劉漢相等五人以為首事管理、動請百福盛会、人有百位以上、毎位施銀両数有余、共撥百幾十両多銀。」『明清山西碑刻題名輯要』上、230頁。
(82) 例えば銀両建ての占有率が100％になっている事例のうち、【140】「重修簪花楼臨河石梯碑記（1827）」は銅銭建てが金額判明分だけで23件、23万3,300文になり、寄付総額が14両の銀両建てを遙かに上回る。また【202】「補修真澤宮碑記（1892）」の銅銭建ては、1,010件、98万5,000文であり、こちらも110両の銀両建てを大きく上回る。このほか、【78】「重修麻衣仙姑廟碑記（1775）」は寄付額が判明しているのが2件のみであり、全体像は不明である。
(83) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」330–329頁。
(84) 清代中期以降の「候補」は大半が捐納出身者で、任官したことがない者が多数含まれていた。伍躍『中国の捐納制度と社会』京都大学学術出版会、2011年、203頁。
(85) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」325–324頁。

(86) 鄭振満・丁荷生（Kenneth Dean）編『福建宗教碑銘彙編』泉州府分冊、全3冊、福建人民出版社、2003年。
(87) 高平県に立地する【7】「増修邑哭頭村高禖祠記（1612）」の碑刻では「張□仁」とあったが、万暦29（1601）年の挙人かつ高平人である張国仁と考えた。光緒『山西通志』巻十八、「貢舉譜六明嘉靖至崇禎」。
(88) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」329頁。
(89) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」329–328頁。
(90) 19世紀以降、平遥県・祁県・太谷県一帯の多くの商人が捐納によって監生の資格を得ていた。史若民・牛白琳編著前掲書、97–99頁。
(91) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」328–327頁。
(92) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」326–325頁。
(93) 1852～1853年に山西票号は267万両、山西の塩商は300万両以上の捐納を行った。張雪琴・王霊善責任編集前掲書、39頁。
(94) 報捐の代行は山西票号の業務でも重要な位置を占めた。伍躍前掲書、387–421。
(95) 岩井茂樹『中国近世財政史の研究』京都大学学術出版会、2004年、136頁。
(96) 山本一「清末山西省の財政改革と「局所」」『社会経済史学』79巻4号、2014年、40頁。
(97)『明清山西碑刻題名輯要』下、784頁。
(98)『明清山西碑刻題名輯要』下、754頁。
(99) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」322、311–310頁。
(100)『明清山西碑刻題名輯要』下、812頁。
(101) 同安の事例でも、商人集団である「郊」による寄付は目立たない。前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」333–330頁。
(102) このうち【203】「補修真澤宮募化四方布施碑記（1892）」は銀建てで26戸が49両、銅銭建てで28戸が6万文を寄付しているが、1戸あたりは1.88両、2,143文を寄付したとみなして計算した。以下も同様である。
(103) 農民の借金の来源をみると、山西において典當が占める割合は全国で最も高く18.9％に達した。劉建生等著前掲書、247–248頁。
(104)『福建宗教碑銘彙編』泉州府分冊下。
(105)『明清山西碑刻題名輯要』上、192頁。
(106)『明清山西碑刻題名輯要』下、774頁。
(107) 清末以前の山西の炭鉱労働者は農民で、農閑期に採掘していた。山西地方史編纂委員会編『山西通志　第12巻　煤炭工業志』駐華書局、1993年、397頁。山西では1910年頃においても、自家の所有地において、自家消費あるいは自家における鍛冶の燃料として用いる小規模な炭鉱が多かった。東亜同文会編前掲書、536頁。山西に限らず、清代中期までの炭鉱業は小資本で小規模であった。宮嵜洋一「清朝前期の炭鉱業――乾隆期の炭鉱政策と経営」『史学雑誌』100巻7号、1991年、54頁。
(108) 清代の山西省南部は主要な製鉄地帯で生活用品などを生産していたが、家族経営であった。喬志強『山西製鉄史』山西人民出版社、27–28頁。
(109) 天津以外に山東の周村は、済南・煙台とならんで山西票号の重要な拠点であった。また、河南の道口鎮も山西票号の拠点であった。黄鑒暉前掲『山西票号史（修訂本）』、339頁。
(110)『明清山西碑刻題名輯要』下、755頁。
(111)『明清山西碑刻題名輯要』下、886頁。

(112) 銀両建てのうち、【8】「重修東岳天齊廟舞楼三門記（1615）」にある「石匠還秀朝興・木匠白汝海」が0.25両寄付したとあり、それぞれの寄付額は不明であるが、便宜上、それぞれが0.125両ずつ寄付したとみなした。銅銭建てでは、【190】「補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記（1877）」で上述のように木匠楊玉山・楊俊文、玉匠潞邑李徳花、泥匠鄧成明、画匠李更秋が、55万3,200文寄付したことになっているが、便宜的に木匠に22万1,280文、玉匠・泥匠・画匠に11万640文寄付したとみなした。また現物の【197】「山西太原府陽曲県白馬掌敷花郷中兵村重修徘徊寺聖母廟碑序（1888）」では「鉄筆先生牛玉石・瓦匠白進財施将出頭一対」とあるが、これもそれぞれ1件とみなした。『明清山西碑刻題名輯要』上、506、同書、下、775、798頁。

(113)『明清山西碑刻題名輯要』上、506頁。

(114) 上海博物館図書資料室編『上海碑刻資料選輯』上海人民出版社、1980年、198–199頁。

(115)『明清山西碑刻題名輯要』下、537頁。

(116)『明清山西碑刻題名輯要』上、496頁。

(117) 前掲拙稿「「士大夫」から華人へ」323–322頁。

(118) 徽州でも1780年代に帳簿が銀建てから銅銭建てに転換した。Kuroda, *op. cit.*, p. 125.

(119) 岸本前掲「十九世紀前半における外国銀と中国国内経済」113–130頁。

(120) 宮下忠雄はこれを「改鋳制」と呼ぶ。もっとも改鋳業者のモラルが低く、銀錠の品位が額面より低下する問題が起こり、19世紀後半から20世紀初頭にかけて公估局という鑑定専門業者が出現した。ここで鑑定が証明されれば、改鋳する必要はなくなったが、各都市で手続きを必要とするという点では改鋳制と同じような影響が生じただろう。宮下前掲書、70–73頁。改鋳制の貨幣の流通速度に対する影響については岩井茂樹氏（京都大学名誉教授）のご教示を得た。

(121) 岸本前掲「十九世紀前半における外国銀と中国国内経済」146頁。

(122) 岸本前掲書、183–192頁。

(123) 前掲拙稿「寄付する人と使う貨幣」35頁。

(124) 華南沿海のアヘン貿易においては、アヘン貿易船到着時に多数の人々がそれに群がってアヘンを現銀で購入した。拙著『海の近代中国――福建人の活動とイギリス・清朝』名古屋大学出版会、2013年、40–51頁。

(125) 山西省の飢饉による人口損失は太原府でも53%、汾州府でも60%に達したと推計されている。曹樹基前掲書、677頁。

(126) 高橋幸助『飢饉と救済の社会史』青木書店、2006年、185–192頁。飢饉の際には楡次・平遥・太谷・祁県・介休などの豊かな県も、干魃によって疲弊し、隣県を支援する余裕がなかったとされる。同書、183頁。

(127) 史若民・牛白琳前掲編著、137–141頁。

(128) 1877年に飢饉が始まったときに山西巡撫鮑源信は、太平天国による山西商人のダメージと富の偏在化、両極化を指摘している。高橋前掲書、170–171頁。先述のように太平天国による山西商人は多額の捐納をしており、それは大きな打撃となっただろう（黄鑒暉前掲『明清山西商人研究』464頁）。しかし、当時の官僚が経済格差を的確に把握することは不可能であったから、鮑源信の文章が当時の状況を正確に記述しているかどうかは分からない。

(129) 定期市の増大は山西省よりも山東省と河北省で顕著であった。黒田前掲『貨幣システムの世界史』211–212頁。

(130) 同上、177頁。

附表1　碑刻リスト

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
1	重修三教廟碑記	臨份市隰県黄土郷諳正村老君廟	嘉靖5年9月	1526	50	50	2				10.55	10.55	0.21				25	43.6	3	1.5
2	計開施功徳主花名于后	運城市塩湖区三路里鎮三官廟	嘉靖18年3月	1539	9	8					0.31	0.31	0.04				96	12.09		
3	澤州周村鎮重修廟碑祀記	晋城市澤州県周村東岳廟	劉慶4年9月	1570							32.50									
4	重修湯王廟記	晋城市陽城県駕嶺郷西窪村湯王廟	万暦22年夏	1594													24	28.5	7	3.1
5	修建玄帝廟記	晋城市澤州県大陽鎮西山村玄武廟	万暦26年	1598	28	27				5	5.75	5.75	0.21	6,700	6,700	1,340				
6	増修護国将廟記	晋中市寿陽県平頭鎮窯子上村将軍廟	万暦29年4月（仲呂）	1601	1	1					2.00	2.00	2.00							
7	増修邑哭頭村高禖祠記	晋城市高平市唐荘郷谷口村済瀆廟	万暦40年3月	1612	76	72					11.59	11.59	0.16				3	3		
8	重修東岳天齊廟舞楼三門記	晋城市澤州県南村鎮冶底岱廟	万暦43年9月（重陽節）	1615	24	23					10.60	10.60	0.46							
9	重修仏堂碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村仏堂	万暦44年7月（孟秋）	1616	170	170		1	1	7	41.82	41.82	0.25	30	30	30	1	0.4		
10	重修晋祠廟記	晋中市霊石県馬和郷馬和村晋祠廟	万暦47年8月（望月）	1619	216	209					55.44	55.44	0.27							
11	商山廟新建磚窯碑記	臨份市洪洞県曲亭鎮師村商山廟	天啓元年4月	1621	67	67					36.20	36.20	0.54							
12	創建救苦十王碑記	臨份市隰県黄土郷諳正村老君廟	天啓3年8月（仲秋）	1623	24	21				18	14.09	14.09	0.67				5	3		
13	陽邑寺建勝亭楽亭並磚天王殿墻記	晋中市太谷区陽邑鎮陽邑村浄信寺	天啓3年7月（孟秋）	1623	99	99					23.70	23.70	0.24							
14	添修玄帝閣碑記	晋城市高平市北城街道王何村三嵕廟	天啓4年10月（応鐘）	1624	82	46					30.30	30.30	0.66							
15	妝塑菩薩聖像記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村仏堂	天啓7年12月（季冬）	1628	198	193		2	1	7	41.40	41.40	0.21	1,000	1,000	1,000				
16	重修潤民侯龍王廟碑記	臨份市隰県下李郷下李村龍王廟	崇禎元年7月（孟秋）	1628	1	1				79	0.30	0.30	0.30				3	11.5		
17	仏殿碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮北石甕村三教堂	崇禎2年11月28日	1630	59	59					23.51	23.51	0.40							
18	重整殿寧補建献亭戯楼碑記	晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟	順治9年	1652	86	86					39.17	39.17	0.46							
19	増建角殿西房碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村三官廟	順治11年10月	1654	55	55		1	1		45.97	45.97	0.84	200	200	200				
20	重修拝殿碑序	晋城市澤州県柳樹口鎮北石甕村三教堂	順治18年8月13日	1661	39	38					15.84	15.84	0.42							
21	隰州暨石永蒲太施財郷神檀越碑	臨份市隰県城関鎮小西天	順治18年12月8日	1662	320	318					284.20	284.20	0.89							
22	小斯村重修東岳廟碑記	晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟	康熙17年7月12日	1678	154	154					136.38	136.38	0.89							
23	重修将軍神廟碑記	晋中市寿陽県平頭鎮窯子上村将軍廟	康熙19年7月（申月）	1680	24	24					37.10	37.10	1.55							
24	重修黒潭之玉帝廟記	運城市垣曲県解峪郷楽堯村関黒龍廟	康熙22年9月	1683	4	4					0.50	0.50	0.13				69	46.8		
25	重修浄信寺碑記	晋中市太谷区陽邑鎮陽邑村浄信寺	康熙26年（暑月）	1687	1	1					7.00	7.00	7.00							
26	重修元天上帝廟記	晋城市澤州県大陽鎮西山村玄武廟	康熙28年9月	1689	28	27					35.90	35.90	1.33							
27	創修楽棚碑記	晋城市陽城県河北鎮下交村成湯廟	康熙35年5月	1696	237	134		2	2		59.90	59.90	0.45	2,200	2,200	1,100				
28	重金妝礦玉序	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	康熙38年（冬月）	1699	54	54					10.42	10.42	0.19							
29	建立戯台碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	康熙40年8月	1701	139	138					45.58	45.58	0.33				1	0.7		
30	大澤里北石甕村創建戯楼三間	晋城市澤州県柳樹口鎮北石甕村三教堂	康熙44年11月24日	1706	47	47					13.53	13.53	0.29							
31	重修聖母廟碑記	呂梁市文水県城関鎮南徐村則天聖母廟	康熙46年9月	1707	20	20					20.00	20.00	1.00							
32	新建戯楼碑記	呂梁市中陽県城関鎮柏窪山昭済聖母廟	康熙48年7月（桐月）	1709	158	158					145.54	145.54	0.92							
33	重建（喬澤）廟碑記	臨汾市翼城県武池郷武池村喬澤廟	康熙52年12月	1714							367.93	367.93								
34	中兵村重修碑序	太原市陽曲県泥屯郷中兵村徘徊寺	康熙55年仲秋	1716	166	165					27.88	27.88	0.17							
35	澤城西南隅五里許□南社重修廟宇□塑金妝碑記	晋城市城区西上荘社区廟圪塔村玉皇廟	康熙57年8月	1718	65	65				2	26.42	26.42	0.41				4	4.2		
36	重修西渓二仙真澤宮碑記	晋城市陵川県城関鎮嶺常村二仙廟	雍正元年8月27日	1723	211	173					203.10	203.10	1.17							
37	補修聖母廟碑記	太原市陽曲県泥屯郷中兵村徘徊寺	雍正6年孟夏	1728	100	100					79.92	79.92	0.80							

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
1	0.2							3	0.4			19		51	103						9		有	羊・牛・生糸・瓦・帽子・油など。銀のうち1件は銀帽
		2	0.15			1	0.1					7		106	114								有	瓦、柱、椽
															0									
3	0.5											9		43	43								有	その他は椽・榑など
															32						18		有	最終部分欠落。銀は1件重量不明
															1									このほか土地の購入有。
												5		8	80								有	榑、油、格扇、瓦
															23									鉄匠・瓦匠・石匠などの職人寄付
1	0.4											10		12	190						6			樹9件・石柱
													5	5	214								有	不明も銀両建ての可能性高
															67									
1	0.2			2	3.5			1	0.1			2	1	12	51						3		有	油・布
															99						0		有	寄付者名欠落多数
															46						0			1銭未満の寄付者36件の金額不明
												3		3	204						47			厠坑
				9	90					1	2.8			13	93						1			柴炭を栗に換算。
															59						1			
															86						3			
										1	7	19		20	76						1		有	労働日数。木材
7	1.15											2		9	47								有	
												3		3	321						1		有	木材
															154						27			
								20	28.6					20	44							43	有	米は1件量不明。
														69	73									穀物は4件量不明。
															1									
															27									
												1		1	137						2		有	欠落多数。錫獣2対
								2	0.2			1		3	57									樹木
														1	139						1		有	
															47						1			
															20						1			
															158									木匠・泥匠
															0									村ごとの寄附。個別の寄付額不明。
												2		2	167						1	1	有	鉄匠・木匠・泥匠。磚1,000
												2		6	73						3			磚300。 金・金面
															173								有	村単位の寄附が多い。
															100								有	

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
38	重修東岳廟碑記	晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟	雍正8年5月	1730		9					2.36	2.36	0.26							
39	重修高禖殿金妝聖像碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村大廟	雍正10年3月	1732	113	113					27.54	27.54	0.24							
40	重修観音閣碑記	臨汾市汾西県加楼郷李庵荘観音閣	雍正10年7月（桐月）	1732	18	18					31.40	31.40	1.74						1	0.3
41	重金妝南殿三大士諸仏神像碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村仏堂	雍正13年孟秋	1735	137	137					34.12	34.12	0.25							
42	西方聖境灯油碑記	臨份市隰県城関鎮小西天	雍正13年	1735							16.00	16.00								
43	創建戲楼碑記	運城市稷山県西社鎮沙溝村行祠	乾隆2年	1737	35	35					71.02	71.02	2.03							
44	創立獅子叙	臨汾市翼城県北撤郷北撤村小学	乾隆4年8月	1739	6	6					0.80	0.80	0.13							
45	創建仏廟碑記	臨汾市汾西県加楼郷李庵荘観音閣	乾隆4年7月（桐月）	1739	11	11					10.65	10.65	0.97							
46	重修岱岳廟碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	乾隆5年孟夏	1740				126	126					111,620	111,620	886				
47	創建行祠碑記	運城市稷山県西社鎮沙溝村行祠	乾隆7年8月15日	1742	41	41					69.14	69.14	1.69							
48	創建楽亭碑記	太原市陽曲県黄寨鎮黄寨村不二寺	乾隆9年孟冬	1744	2	2					0.45	0.45	0.23							
49	創建磚牌楼財神廟三星廟碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	乾隆11年孟冬	1746	38	36					48.85	48.85	1.36							
50	弘道庵記	呂梁市孝義市皮影木偶博物館	乾隆12年7月4日	1747	118	118					45.62	45.62	0.39							
51	重修廟宇碑序	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	乾隆13年7月27日	1748	259	257					320.15	320.15	1.25							
52	補修三教堂碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮北石甕村三教堂	乾隆15年9月25日	1750	128	128					22.57	22.57	0.18							
53	創建玄天殿碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	乾隆15年10月（陽月）	1750	11	11					7.56	7.56	0.69							
54	聖母廟置地碑記	呂梁市離石区交口鎮石盤村聖母廟	乾隆16年秋	1751	97	97					47.59	47.59	0.49							
55	創建関帝廟宇碑記	晋城市澤州県柳樹村□鎮王掌村関帝廟	乾隆17年8月	1752	41	41					26.61	26.61	0.65							
56	重修三大士堂碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村仏堂	乾隆19年12月（季冬）	1755	125	125					106.20	106.20	0.85							
57	重修関帝廟碑記	晋城市澤州県金村鎮府城関帝廟	乾隆20年5月	1755	56	56					277.40	277.40	4.95				5	10.2		
58	創建五龍宮正殿援閣鋳鉄桿並起建東楼序	臨汾市郷寧県関王廟郷大河村五龍宮	乾隆21年4月	1756		1						1.00	1.00							
59	□修黒龍廟碑記	呂梁市臨県磧口鎮黒龍廟	乾隆21年10月22日	1756	18	18					296.90	296.90	16.49							
60	重修三官廟東丹房碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村三官廟	乾隆23年孟冬	1758	7	7					2.25	2.25	0.32							
61	（媧皇廟）碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	乾隆24年4月	1759	189	189					325.00	325.00	1.72							
62	重修媧煌聖母廟碑記	長治市武郷県韓北郷下合村媧煌廟	乾隆26年4月	1761		147		2	2		109.30	109.30	0.74	1,500	1,500	750				
63	（玉皇廟）施地碑記	晋城市城区西上荘社区龐圪塔村玉皇廟	乾隆27年5月朔5日	1762																
64	重修楽楼碑記	晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟	乾隆27年6月（丁未月）	1762	73	73					73.50	73.50	1.01							
65	重修石磐村諸神廟碑記	呂梁市離石区交口鎮石磐村聖母廟	乾隆28年10月	1763	28	28					160.20	160.20	5.72							
66	重修高禖祠碑誌	晋城市陵川県冶頭郷廖池村高禖村高禖祠	乾隆29年4月8日	1764	61	60					148.06	63.06	1.05							
67	羅家荘西社新建楽亭並神堂碑記	晋中市榆次区什貼鎮羅家荘村関帝廟	乾隆31年	1766	74	44						201.23	4.57							
68	重修眼光聖殿碑記	長治市上党区王坊郷寺坊村洪福寺	乾隆32年10月（小春）	1767							480.20	480.20								
69	王何村補修三嵕廟碑記	晋城市高平区北城街道王何村三嵕廟	乾隆32年9月	1767	22	22					133.60	133.60	6.07							
70	重修（則天聖母廟）碑記	呂梁市文水県鳳城鎮南徐村則天聖母廟	乾隆34年11月（仲冬）	1769		14						107.00	7.64							
71	重修（九江大王廟）碑記	晋中市寿陽県南燕竹鎮清平村九江大王廟	乾隆34年7月（夷則）	1769	114	91						56.20	0.62							
72	増修西殿五瘟神客堂舞楼東南楼創修西南楼序	晋城市高平市原村郷馮村湯王宮	乾隆35年12月（孟冬）	1771	57	57		52	52			54.34	0.95	15,850	15,850	305				
73	捐資置地花名碑	臨份市隰県下李郷下李村龍王廟	乾隆37年2月	1772	16	14		1	1			40.21	2.87	500	500	500				
74	重修碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	乾隆37年9月8日	1772	21	21		20	20			94.09	4.48		19,296	965				

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
															9									職人の寄附のみ金額記載
															113									
														1	19						11	1		村の大口寄付あり。女性の寄附が多数記録
															137						42			
															0									衆信士施銀十五両は97人連名
										6	0.06			6	41									
															6									
															11						2	1		経費は127両。その他の寄附の内訳不明。
															126									
															41									土地の購入への貢献は不明
															2									
															36								有	
															118									
												2		2	259								有	
															128								有	
															11									寄付額の詳細が不明
															97									内、土地代が10両
															41								有	
															125									
														5	61						2		有	
															1									
															18									
															7									費用は35.6両
															189									
										1	15			1	150								有	主要な寄付者の寄付額不明、3銭以下寄附人数不明。
										2	6.9			2	2									
															73						2			
															28								有	
												3		3	63						1		有	史料上の総額は146.5両
										6	1.6	2		8	52								有	木材
															0									内訳不明
															22									
															14									
												1		1	92							4	有	木材
															109									1件が合同で31.14両の寄附有り。
										2	22			2	17									村単位の寄附。
															41						8		有	

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
75	創建大雄殿神龕碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	乾隆37年	1772	54	54		14	14		39.87	39.87	0.74	4,180	4,180	299				
76	重修関聖帝廟碑記	太原市陽曲県北塘郷大卜村関帝廟	乾隆38年5月21日	1773	45	44		7	7			103.50	2.35		25,000	3,571				
77	妝絵大雄殿神龕碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	乾隆39年11月1日（朔日）	1774	61	60		31	29			35.32	0.59		20,186	696				
78	重修麻衣仙姑廟碑記	呂梁市文水県城関鎮桑村麻衣仙姑廟	乾隆40年10月（陽月）	1775		2						36.00	18.00							
79	姑射山南仙洞碧岩寺創建楽亭碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	乾隆41年7月（瓜月）	1776	14	14		12	12		35.40	35.40	2.53	69,870	69,870	5,823				
80	創建日宮月府重修四聖殿碑記	晋城市澤州県東溝郷辛壁村玉皇廟	乾隆42年3月（暮春）	1777	2	1		12	12			0.50	0.50	14,640	14,640	1,220				
81	玉皇廟創建東西房碑記	晋城市城区西上荘社区龐圪塔村玉皇廟	乾隆42年冬月	1777	2	2		43	43		1.70	1.70	0.85	60,420	60,420	1,405				
82	三義廟重修献殿東楼記	運城市聞喜県東鎮倉底村三義廟	乾隆43年	1778	60	60					511.21	511.21	8.52							
83	重修成湯大帝廟碑記	長治市長子県色頭鎮王晃村成湯廟	乾隆45年4月	1780				130	130					30,050	30,050	231				
84	重修聖祖廟平頭社郷家荘路家河教場平韓家溝碑記	晋中市寿陽県平頭鎮董家荘村軒轅祠	乾隆46年8月（南呂）	1781	280	280					207.92	207.92	0.74							
85	重修聖祖廟南安多社溝北村界口荘碑記	晋中市寿陽県平頭鎮董家荘村軒轅祠	乾隆46年9月（季秋）	1781	52	52					103.48	103.48	1.99							
86	重修東岳廟碑記	晋城市陽城県潤城鎮屯城村東岳廟	乾隆47年11月15日	1782	31	31		1	1		216.64	216.64	6.99	4,800	4,800	4,800				
87	重建薬王神廟記	運城市河津市城関九龍山真武廟	乾隆5年9月9日	1785	12	12					39.00	39.00	3.25							
88	二仙廟重修記	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	乾隆53年4月	1788				311	311					140,140	140,140	451				
89	重修楽楼西廊玉帝廟南街施財碑記	運城市聞喜県東鎮倉底村三義廟	乾隆54年12月6日	1790	110	110					83.86	83.86	0.76							
90	補修佛殿碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村仏堂	乾隆55年6月	1790	1	1		30	30		0.10	0.10	0.10	8,910	8,910	297				
91	新建献殿碑記	晋中市介休市龍鳳郷張壁村古堡関帝廟	乾隆56年11月13日	1791							208.00									
92	重修真澤宮碑記	長治市壺関県樹掌鎮神郊村真澤宮	乾隆57年4月	1792	9	9		25	23		82.90	82.90	9.21		64,000	2,783				
93	重修昭慰聖母祠碑記	晋中市和順県義興鎮邢村昭慰聖母廟	乾隆59年7月（孟秋）	1794				26	26					118,120	118,120	4,543				
94	重修（華厳寺）碑記	太原市陽曲県北小店郷掃峪華厳寺	乾隆59年10月（陽月）	1794	33	33		93	93		16.20	16.20	0.49	66,400	66,400	714				
95	重修（喬澤）廟碑記	臨汾市翼城県武池郷武池村喬澤廟	乾隆60年10月12日	1795							137.31	137.31								
96	創建出廈補修殿宇禅室戲楼碑記	晋城市高平市野川鎮大野川村天齊廟	嘉慶元年7月8日	1796				135	135					108,730	108,730	805				
97	玉皇廟補修殿宇金妝神像碑記	晋城市城区西上荘社区龐圪塔村玉皇廟	嘉慶3年9月1日	1798				50	50					43,440	43,440	869				
98	大清国山西澤州府陵川県普安郷下川都廖池村重修碑記	晋城市陵川県冶頭郷廖池村高禄村高禄祠	嘉慶3年4月18日	1798				79	78						82,150	1,053				
99	創建山門東西両廊碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	嘉慶3年12月（季冬）	1799				89	89					251,110	251,110	2,821				
100	重修三教廟碑記	晋城市澤州県高都鎮泊南村三教堂	嘉慶4年7月（巧月）	1799	14	14					1,083.80	1,083.80	77.41							
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	臨汾市郷寧県管頭鎮樊家坪柏山祠	嘉慶4年4月	1799	14	14		275	275		36.00	36.00	2.57	174,086	174,086	633				
102	創建福田院諸神殿碑記	晋城市澤州県東溝郷辛壁村福田院	嘉慶5年6月	1800	116	116		98	98		214.40	214.40	1.85	23,100	23,100	236				
103	創建三清殿磨針亭静楽宮碑記	臨汾市郷寧県関王廟郷大河村五龍宮	嘉慶6年3月	1801	298	287						346.92	1.21							
104	重修静養洞碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	嘉慶6年3月（季春）	1801	44	44		112	112		14.90	14.90	0.34	148,100	148,100	1,322				
105	重修関帝廟碑記	晋中市楡次区烏金山郷小峪口村関帝廟	嘉慶6年（仲□）	1801	54	54					788.00	788.00	14.59							
106	増補廟宇神池改作歌舞台碑記	晋城市高平市唐荘郷谷口村済瀆廟	嘉慶7年8月（仲秋）	1802							490.62			208,990						
107	増修白雲寺碑記	長治市壺関県樹掌鎮柴団村白雲寺	嘉慶8年10月	1803	72	72		150	150		158.55	158.55	2.20		207,200	1,381				
108	重修碑記	臨汾市堯都区金殿鎮姑射村仙洞溝	嘉慶8年2月	1803	77	77		69	69		76.67	76.67	1.00	84,466	84,466	1,224	2	1.47	6	7.2
109	仙堂寺重修碑記	長治市襄垣県強計郷九龍山仙堂寺	嘉慶9年4月	1804				89	89					125,400	125,400	1,409				
110	重修関帝廟記	太原市陽曲県北塘郷大卜村関帝廟	嘉慶9年6月（荷月）	1804	5	5					130.30	130.30								

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
															68							1		村単位の寄附。土地の寄附。
															51								有	
															89								有	村合会が多数
															2	23	239							大口2件のみ
															26									
												1		1	14									
															45									
															60									6件は特定地域の募金取りまとめ。当鋪多数
															130									
												2		2	282								有	推計有り
															52								有	
															32									銀1件は合同。銅銭は募金を募集。
															12									
												1		1	312									樹木
															110									
															31						7			銅　元12個、梁
															0									寄付額の内訳不明
															32								有	
															26									木工、画工、鉄筆、泥水工
															126									
															0									3村で寄附取りまとめ。各45.771両
															135									
															50									
															78								有	村単位の寄附有り
															89									木匠郭永貴1,000文
												3		3	17									うち5村の寄附が大半、柏・椿・槐の寄附
															289									
															214						1			
													1	1	288						68	67		最大の寄付者は穆邑張家荘天爵張公妻鄭氏の130両。取りまとめた寄附有り。
															156								有	
												1		1	55									西門外挂正牌
															0									樹木売却益など含む
												1		1	223								有	李発財施馬房南梁
												1		9	155									鹽1石
															89						11			
															5									集団による寄附

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
111	重修龍泉山東岩寺募化郷村碑記	呂梁市文水県蒼児会郷程家荘村東岩寺	嘉慶14年10月22日	1809	279	166						110.92	0.67							
112	重修三官神廟碑記	晋城市陽城県鳳城鎮漢上村三官廟	嘉慶14年11月下旬	1809/1810				194	186						73,511	395				
113	重修龍泉山東岩寺碑記	呂梁市文水県蒼児会郷程家荘村東岩寺	嘉慶14年12月	1810		9						58.00	6.44							
114	東岳駕前制提爐鳳扇碑記	晋城市澤州県高都鎮東岳廟	嘉慶15年正月（端月）	1810	39	39		3	3		83.00	80.00	2.05	4,000	4,000	1,333				
115	関帝廟創建碑志	臨汾市翼城県西閆鎮曹公村四聖宮	嘉慶15年7月24日	1810	2	2					128.10	128.10	64.05							
116	補修神殿並舞楼碑序	運城市垣曲県解峪郷楽堯村関黒龍廟	嘉慶17年11月	1812	16	9						2.15	0.24							
117	合村公議打井之事	晋城市澤州県柳樹村□鎮司家河村三教堂	嘉慶17年11月27日	1812				19	19					18,200	18,200	958				
118	重修真澤宮後殿碑記	長治市壺関県樹掌鎮神郊村真澤宮	嘉慶18年3月	1813	6	6		166	166		170.00	170.00	28.33	159,000	159,000	958				
119	神命整理祀事志	晋城市高平市団池郷故関村炎帝行宮	嘉慶18年7月	1813	7	7					31.00	31.00	4.43							
120	重修化悲岩水静寺碑記	朔州市山陰県後所郷辛立荘化悲岩寺	嘉慶18年11月1日	1813					16					2,060,090	603,030	37,689				
121	移修聖母諸神廟記	呂梁市離石区後瓦村古坤廟	嘉慶18年11月	1813				25	25					1,124,400	1,124,400	44,976				
122	重修関帝廟碑記	運城市垣曲県解峪郷楽堯村関帝廟	嘉慶19年11月（仲冬）	1814	15	14						121.50	8.68							
123	移建神廟楽亭叙	臨汾市永和県坡頭郷土羅村龍神廟	嘉慶19年9月（菊月）	1814	4	4					340.00	340.00	85.00							
124	東石甕村創修舞楼碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮東石甕村招賢館	嘉慶20年11月（戊子月）	1815				299	299					554,300	554,300	1,854				
125	重修成湯殿碑記	晋城市澤州県東溝郷辛壁村成湯廟	嘉慶22年5月	1817	35	35		119	118		791.20	791.20	22.61		220,400	1,868				
126	真武廟重修碑記	呂梁市孝義市皮影木偶博物館	嘉慶22年10月（陽月）	1817	444	444					813.79	813.79	1.83							
127	重修（関帝廟）碑記	運城市平陸県下坪郷下坪村関帝廟	嘉慶22年11月（葭月）	1817/1818	18	18					60.00	60.00	3.33							
128	重修楽楼供器記	晋中市介休市大靳郷小靳村東岳廟	嘉慶23年5月（榴月）	1818	34	34					25.10	25.10	0.74							
129	補修広温廟宇碑記	晋城市陽城県横河郷析城山湯帝廟	嘉慶24年5月	1819	32	32		7	7		93.30	93.30	2.92	6,200	6,200	886				
130	補修正殿舞楼山門碑記	晋城市陽城県潤城鎮屯城村東岳廟	嘉慶24年	1819	35	34		91	91			70.00	2.06	129,032	132,032	1,451				
131	重修大廟創修舞楼碑序	晋城市澤州県大東溝鎮北村媧皇廟	嘉慶24年9月	1819	210	207						792.60	3.83							
132	重修府君廟碑序	晋中市和順県平松郷三泉村崔府君廟	道光元年8月	1821				78	78					51,750	51,750	663				
133	重修高禖祠碣	晋城市城区西上荘社区龍圪塔村玉皇廟	道光元年8月18日	1821				4	4					4,000	4,000	1,000				
134	重修舞楼碑記	運城市垣曲県解峪郷楽堯村関黒龍廟	道光3年	1823	18	18					20.73	20.73	1.15							
135	創修東西六間山門一間	晋城市澤州県柳樹村□鎮司家河村三教堂	道光3年12月15日	1824	20	20					50.50	50.50	2.53							
136	重修龍王廟碑記	臨汾市翼城県西閆鎮西閆村湯王廟	道光4年7月（孟秋）	1824				4	4					850	850	213				
137	重修石婆村碑記	呂梁市離石区交口鎮石盤村聖母廟	道光5年11月	1825/1826				45	45					256,740	256,740	5,705				
138	重修耳殿煖閣並創建正殿煖閣碑記	臨汾市翼城県西閆鎮西閆村湯王廟	道光6年7月（孟秋）	1826				14	14					7,900	7,900	564				
139	補修白雲寺碑記	長治市壺関県樹掌鎮柴団村白雲寺	道光7年9月18日	1827	1	1		55	51		2.00	2.00	2.00		127,400	2,498				
140	重修簪花楼臨河石梯碑記	長治市壺関県樹掌鎮柴団村白雲寺	道光7年10月	1827	2	2		29	23		14.00	14.00	7.00		233,300	10,143				
141	重修東岳廟記	長治市黎城県東陽関郷辛村東岳廟	道光7年6月20日	1827				9	9					9,300	9,300	1,033				
142	東大社修新鼓記	呂梁市汾陽市三泉鎮仁道村聖母廟	道光7年9月（季秋）	1827				51	51					27,520	27,520	540				
143	創修耳殿碑記	晋城市澤州県柳樹村□鎮窯頭村三教堂	道光7年正月9日	1827				49	42						46,620	1,110				
144	補修湯帝正殿五間碑記	晋城市高平市原村郷馮村湯王宮	道光8年7月	1828				37	37					342,846	132,600	3,584				
145	補修媧皇廟碑記	臨汾市霍州市辛置鎮北益昌村媧皇廟	道光10年12月（孟冬）	1831				81	80						363,160	4,540				

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
															166									□銭四分は0.24両、一銭□分は0.18両と見なす。
															186								有	
															9							8		集団で寄附
															42									銀両の計算合わず
										2	0.9	4		6	8									土地3件、樹木3件。
															9									
															19									
															172						1			知県の妻の寄附
												30		30	37									現物が大半。
															16									このほか石匠・塑匠・木匠・泥匠ら603030文
															25						1		有	2件の金額は推計
												2		2	16								有	柏樹など
															4									
												2		2	301						3		有	推測件数11件
													4	4	157								有	廟前厠坑地基など
															444						29			
															18									
															34									
												1		1	40									羊1隻。
															125									銅銭建ては計算と総額が一致せず
												1		1	208	247	13,860							その他労働力に関しての寄附。計算では315分、碑刻では314分、1分 做 工44日。現物は鉄火爐。
															78									
															4									
															18									
												6		6	26	20	869	20	19	213				木材、山門、頂石
															4									
												1		1	46									
															14									
															52								有	
															25								有	
												2		2	11						1			樑の寄付2件
															51									
															42								有	
															37									
															80								有	

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
146	重修三教堂碑記	晋城市澤州県李寨郷陟椒村三教堂	道光12年3月	1832										7,243,859						
147	整理郷神嶺社事碑記	晋城市陵川県附城鎮小会村二仙廟	道光13年3月	1833	292	150		1	1			114.50	0.76		1,000	1,000				
148	合社修廟碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮司家河村三教堂	道光33年正月25日	1833	21	21					23.00	23.00	1.10							
149	玉帝廟重修碑記	運城市塩湖区博物館	道光14年12月（季冬）	1835	18	18					322.70	322.70	17.93							
150	重修雲棲山潤民侯廟碑記序	臨份市隰県下李郷下李村龍王廟	道光16年12月3日	1837	60	60					344.40	344.70	5.75							
151	重修三教堂碑記	晋城市澤州県柳口鎮東石甕村三教堂	道光16年11月5日	1836				64	64					180,100	180,100	2,814				
152	重修西看楼上下碑記	晋城市陽城県桑林郷獅峰村玉皇廟	道光19年6月	1839				20	19						154,398	8,126				
153	重修陂池碑記	臨汾市古県古陽鎮熱留村関帝廟	道光19年8月（仲秋）	1839				37	37						24,000	649				
154	重修本廟東看楼屋坡並改修東官庁南間	晋城市陽城県北留鎮郭峪村湯帝廟	道光21年8月	1841					1					41,636	21,065	21,065				
155	創建官窯石橋碑記	陽泉市郊区桃林溝村観音庵	道光24年7月	1844	98	97						250.00	2.58							
156	補修済瀆廟碑記	晋城市高平市唐荘郷谷口村済瀆廟	道光24年10月（陽月）	1844	110	110		14	14		181.00	181.00	1.65	16,600	16,600	1,186				
157	重修九江大王廟碑志	晋中市寿陽県南燕竹鎮清平村九江大王廟	道光24年11月（黄鐘）	1844/1845	15	15					180.90	180.90	12.06							
158	三嵕廟重修碑文	長治市平順県北社郷北社村三嵕廟	道光25年8月	1845				67	65					585,481	258,500	3,977				
159	重修神廟舞楼並創建鐘楼鼓楼及各工碑記	臨汾市襄汾県汾城文廟	道光25年8月（仲秋）	1845	19	19					823.08	822.72	43.30							
160	重修土地祠序	臨汾市汾西県邢家腰郷土地嶝龍天土地廟	道光26年	1846				24	20						168,620	8,431				
161	重修観音閣碑記	忻州市代県新高郷陳家堡村観音閣	道光27年12月（季冬）	1848					4					4,500	4,500	1,125				
162	趙家荘合社公請揺会碑文	臨汾市霍州市開元街辦事処趙家荘観音廟	道光29年8月	1849				55	55					168,000	168,000	3,055				
163	補修真澤宮碑記	長治市壺関県樹掌鎮神郊村真澤宮	道光30年8月	1850	5	5		1378	1365		75.00	75.00	15.00		2,070,290	1,517				
164	重修白雲寺碑記	長治市壺関県樹掌鎮柴団村白雲寺	咸豊元年9月	1851				156	153						354,350	2,316				
165	重修天池寺碑記	晋中市和順県喂馬郷窯堤村天池寺	咸豊元年10月	1851	5	5		50	50		11.00	11.00	2.20	308,700	308,700	6,174				
166	重修黒龍廟碑記	運城市垣曲県解峪郷楽堯村関黒龍廟	咸豊元年7月	1851				22	22					42,400	42,400	1,927				
167	重修二仙館碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	咸豊元年4月26日	1851				350	350					482,100	482,100	1,377				
168	重修（関帝廟）碑記	運城市平陸県下坪郷下坪村関帝廟	咸豊2年11月上旬（仲冬）	1852				125	125					191,000	191,000	1,528				
169	創修九間碑序	晋城市澤州県柳樹口鎮許圪套村二仙廟	咸豊3年6月6日	1853				87	87					282,100	282,100	3,243				
170	重修三教堂碑記	晋城市澤州県柳樹村口鎮宋掌村三教堂	咸豊4年11月25日	1855				30	30						46,900	1,563				
171	真武廟創建香亭碑記	運城市河津市城関九龍山真武廟	咸豊8年仲春	1858	38	36					264.50	264.50	7.35							
172	重修三嵕廟彩画殿宇碑記	晋城市高平区北城街道王何村三嵕廟	咸豊8年10月上旬	1858										1,524,000						
173	重修（黒龍廟）碑記	呂梁市柳林県成家荘郷大井溝村黒龍廟	咸豊10年冬	1860/1861					9					4,640	4,640	516				
174	重修行宮碑記	運城市稷山県西社鎮汾溝村行祠	咸豊10年7月	1860	125	125		32	32			221.43	1.77	47,500	47,500	1,484				
175	重修天斉献殿戲楼暨二山門碑記	臨汾市襄汾県賈罕郷南賈村天斉廟	同治元年5月上旬	1862				74	72						68,510	952				
176	重修関帝郊禖二殿与表南房塊院心並補修閣廟殿宇碑記	晋城市陽城県台頭郷馬溝村玉皇廟	同治元年孟冬	1862/1863				80	79					261,850	211,695	2,680				
177	合村公議禁賭立約演戲碑銘	臨份市隰県黄土郷諮正村玄都観	同治元年8月25日	1862				20	19						18,600	979				
178	□□楽楼序	陽泉市郊区百泉郷林里村関王廟	同治3年仲夏	1864		42						107.70	2.56							
179	純陽帝君庚建小花亭記	運城市河津市城関九龍山真武廟	同治3年	1864	84	84					103.66	103.66	1.23							
180	重修舞楼窯亭記	張治市平順県北社郷東河村九天聖母廟	同治5年	1866				26	26					69,300	69,300	2,665				
181	炎帝廟重修花費碑記	長治市長子県色頭鎮色頭村炎帝廟	同治5年8月（桂月）	1866	1	1		195	194		1.30	1.30	1.30	859,750	623,450	3,214				
182	純陽洞創建香亭碑記	運城市河津市城関九龍山真武廟	同治6年10月（陽月）	1867	28	28					972.60	972.60	34.74							

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
															0		14,751							土地から6,320,259文、寄付は933,600文。労働力も土地所有に応じて。
															151						2		有	
															21	20	267	21	21	119				
															18								有	1件は推測
										1	11		2	3	63									樹木
												4		4	68	59	3,160	58	58	1,132	5			道路
												2		2	21								有	入社地からの収益
															37									
															1									入銭総額は41636
												1		1	98								有	地基90両
															124									
															15									廟や集団の寄付
										1	0.05			1	66									2年分の社の合計は判明した合計額に含めず
															19									利息なども寄付
															20								有	
															4									建設費は数十万文
															55									
															1370						0		有	花戸
															153								有	
															55									
															22									
															350						1			
															125									
												1		1	88	50	151	41	41	1,534				山門東背路外一半
												5		5	35								有	柏樹・椿樹・土地
													2	2	38								有	
															0									寄附金以外の収入大。
												2		2	11								有	現物は土地2件、税糧の記載。
															157						2			
															72								有	
															79						1		有	
															19								有	
												8		8	50									現物は榛や水の使用など
															84									
															26									ほとんどが村単位の集団寄付
															195									集団の寄付。金額最大のものも。
															28									このほか募銀841.3両

	碑刻名	建碑地	建碑時期		貨幣の件数						貨幣の金額						現物			
			陰暦	西暦	銀両		銀帽	銅銭		金	銀両（両）			銅銭（文）			穀物（谷・谷豆・谷麦）		麦・大麦	
					総件数	金額判明数		総件数	金額判明数		総額	総額（各件明細判明）	毎件	総額	総額（金額判明分）	毎件	件数	石	件数	石
183	補修昭懿聖母廟碑記	晋中市和順県義興鎮邢村昭慰聖母廟	同治8年9月下旬	1869				113	111						61,329	553				
184	重修馬王廟碑序	臨汾市吉県壺口鎮龍王辿馬王廟	同治9年陽月（10月）	1870	67	65		1	1			769.22	11.83		28,000	28,000				
185	重修天池寺禅院並石橋碑	晋中市和順県喂馬郷窯堤村天池寺	同治12年9月20日	1873				145	145					107,300	107,300	740				
186	重修玉皇廟碑文	晋城市澤州県高都鎮横嶺村	同治13年11月20日	1874	1	1		157	157		2.00	2.00	2.00	520,530	520,530	3,315				
187	重修二仙宮碑志	晋城市澤州県柳樹口鎮許圪套村二仙廟	光緒元年7月（巧月）	1875	127	127					842.34	842.34	6.63							
188	修（介神）廟碑記	長治市沁源県荘児上郷潤崖底村介神廟	光緒2年6月	1876				50	50					170,130	170,130	3,403				
189	重修東廡碑記	呂梁市中陽県柏洼山真武廟	光緒2年5月	1876	8	8		1	1		13.20	13.20	1.65	3,500	3,500	3,500				
190	補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記	晋中市左権県羊角郷盤塊村関帝廟	光緒3年秋月	1877				105	95						1,077,400	11,341				
191	重修石磐村諸神廟碑記	呂梁市離石区交口鎮石磐村聖母廟	光緒4年2月	1878				41	37						471,000	12,730				
192	重修楽楼碑記序	臨汾市吉県壺口鎮龍王辿馬王廟	光緒6年10月（陽月）	1880	7	0		134	124						61,600	497				
193	重修骷髏廟碑記	晋城市高平市唐荘郷谷口村骷髏廟	光緒10年3月	1884	8	8		24	24		71.00	71.00	8.88	1,366,000	1,366,000	56,917				
194	重修東堂閣碑記	晋中市左権県羊角郷禅房村龍王廟	光緒10年10月12日	1884				60	60					49,900	49,900	832				
195	整修佛堂碑記	晋城市陽城県白桑郷鈿荘村	光緒12年4月	1886										98,617						
196	重修関帝廟碑記	呂梁市汾陽市栗家荘郷鈿家堡村関帝廟	光緒13年7月（夷則之月）	1887	43	43		104	78		158.50	158.50	3.69		185,200	2,374				
197	山西太原府陽曲県白馬掌敷花郷中兵村重修徘徊寺聖母廟碑序	太原市陽曲県泥屯郷中兵村徘徊寺	光緒14年7月（夷則月）	1888	2	2			2		2.00	2.00	1.00	554,441	2,000	1,000				
198	重建五龍廟碑記	忻州市代県新高郷董家窰五龍廟	光緒15年7月（瓜月）	1889	99	99		7	7		185.40	185.40	1.87	20,500	20,500	2,929				
199	重修興龍山廟甃改建□楼碑記	陽泉市郊区陳荘村龍泉寺	光緒15年季冬	1889/1890	50	30						69.60	2.32							
200	重修（土地嚴）碑記	臨汾市汾西県邢家腰郷土地嚴龍天土地廟	光緒16年4月初6日（梅月）	1890				162	74						10,240	138				
201	重建後稷廟鐘楼記	運城市稷山県稷峰鎮後稷廟	光緒17年12月（徐月）	1892	119	119					974.50	414.05	3.48	371,780						
202	補修真澤宮碑記	長治市壺関県樹掌鎮神郊村真澤宮	光緒18年4月上旬	1892	3	3		1,010	1,010		110.00	110.00	36.67	985,000	985,000	975				
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	長治市壺関県樹掌鎮神郊村真澤宮	光緒18年4月下旬	1892				1,338	1,087		49.00				2,232,300	2,054				
204	補修三嵕廟碑記	長治市平順県北社郷北社村三嵕廟	光緒18年11月上旬	1892										60,100						
205	重修天齊廟並新建楽楼台碑記	陽泉市郊区葦泊村岳瀆廟	光緒18年11月（葭月）	1892/1893	31	31					808.80	808.80	26.09							
206	増修馬厩記	晋城市陽城県西河郷宋王荘村	光緒19年3月（姑洗）	1893										139,249						
207	重修館廟募化碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	光緒20年10月12日	1894	346	346					230.60	230.60	0.67							
208	施地廟碑	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	光緒20年冬月	1894/1895				1	1					100	100	100				
209	重修二仙館廟碑記	晋城市澤州県柳樹口鎮範山堂附近二仙館	光緒20年10月12日	1894	294	294					1,291.70	1,291.70	4.39							
210	創立培文会碑記	運城市河津市城関九龍山真武廟	光緒25年	1899	17	17					461.20	461.20	27.13							
211	重建楽楼碑記	太原市尖草坪区上蘭村寶大夫祠	光緒26年閏8月	1900				14	14					298,000	298,000	21,286				
212	重修玉皇廟碑記	晋城市城区西上荘社区龐圪塔村玉皇廟	光緒27年正月25日	1901				49	49					2,177,000	1,057,000	21,571				
213	補修三教堂碑記	晋城市澤州県柳樹村口鎮宋掌村三教堂	光緒28年11月15日	1902	11	11					42.70	42.70	3.88							
214	重修（虞帝廟）碑記	晋城市沁水県土沃郷交口村舜王廟	光緒31年12月（嘉平月）	1905/1906				1	1					5,000	5,000	5,000				
215	補修金妝碑序	臨汾市汾西県邢家腰郷土地嚴龍天土地廟	光緒31年12月（腊月）	1905/1906				62	58						284,000	4,897				
216	重修真澤宮碑記	晋城市陵川県城関鎮嶺常村二仙廟	光緒32年閏4月	1906	10	10					2,010.00	2,010.00	201.00							
217	重修五聖宮廟碑記	朔州市山陰県古城鎮快楽村真武廟	光緒32年10月下旬	1906				72	72					113,900	113,900	1,582				
218	補修真武廟碑記	呂梁市孝義市皮影木偶博物館	光緒34年3月27日	1908	32	31		227	81			177.10	5.71	598,424	90,315	1,115				
	合計				9,799	9,444	2	10,252	9,682	118		25,205.39			21,208,169		238	165.46	17	12.1
	平均					65.034			94			168.92	6.95		203,925	4,191				
	1件あたり												2.67			2,190		0.70		0.71
	通数					147			103											
	一通平均					64.2			94.0			171.47	2.67		205,905					

現物															貨幣・現物合計	労働力		食事（飯）			女性寄付者（単独）	女性寄付者（単独以外）	碑刻の欠落	備考
豆		蕎麦		粟		黍		米		土地		その他	不明	合計										
件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	石	件数	畝	件数	件数	件数	件数	件数	天	総件数	判明数	（回数？）	件数	件数		
															111								有	
															66	1							有	工1,600個
															145									
															158									串文を1,000文で計算
												2		2	129						1		有	現物は水と木材。二十八銭の記述
															50									
															9									
															95								有	木匠らの共捐が553,200文
															37								有	
															124								有	
															32									
															60									
										4	7.5			4	4								有	共同の寄付。
															121								有	
															4									
															106									
															30								有	
															74								有	
															119									
															1013						8			
															1087						6		有	
															0									門頭銭と地畝銭
												1		1	32									複数人の寄付。土地一段。
															0									地苗銭、売柏板　頭銭
												4		4	350						2			水窖地基など土地
										2	8.2			2	3									
															294						1			
															17									募銀あり
															14									塾あり
								1	0.8			4		5	54									総額は売却代金を含む。現物は土地、木材
												2		2	13									現物は芭条（竹製の建材）
												1		1	2									現物は椿樹。
															58								有	
												1		1	11									現物は碑石
												1		1	73									眼珠
															112									総額は寄付以外を含み、銅銭建て。
13	2.45	2	0.15	11	93.5	1	0.1	27	30.1	29	83.01	191	15	544		420	33,297	140	139	2,998	345	126	0	
	0.19		0.08		8.50		0.10		1.11		2.86						79			22				
														67										
														8.12										

附表2　商工業者・金融業者・サービス業者の寄付（碑刻別）

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
銀両建て								
27	創修楽棚碑記	1696	原景行	59.90	1	0.15	0.15	0.25%
36	重修西渓二仙真澤宮碑記	1723	安陽北窯	203.10	1	0.10	0.10	0.05%
50	弘道庵記	1747	万和号、興盛当など5軒	45.62	5	1.00	0.20	2.19%
57	重修関帝廟碑記	1755	万億号など3軒	277.40	3	11.00	3.67	3.97%
59	□修黒龍廟碑記	1756	広昌号王一、広裕号陳汝信	296.90	2	51.40	25.70	17.31%
61	（媧皇廟）碑記	1759	周泰号	325.00	1	2.31	2.31	0.71%
67	羅家庄西社新建楽亭並神堂碑記	1766	恒隆号など4軒	201.23	4	6.70	1.68	3.33%
68	重修眼光聖殿碑記	1767	南北省各舗戸	480.20	1	76.40	76.40	15.91%
71	九江大王廟重修碑記	1769	永盛全など3軒	56.20	3	1.50	0.50	2.67%
72	増修西殿五瘟神客堂舞楼東南楼創修西南楼序	1771	韓泰号など12軒	54.34	12	13.40	1.12	24.66%
75	創建大雄殿神龕碑記	1772	襄陵県元亨号など4軒	39.87	3	0.34	0.11	0.85%
82	三義廟重修献殿東楼記	1778	合盛順、天裕当など50軒	511.21	50	171.73	3.43	33.59%
89	重修楽楼西廊玉帝廟南街施財碑記	1790	万盛号など3軒	83.86	3	5.50	1.83	6.56%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	永亨、恒豊	36.00	2	4.00	2.00	11.11%
102	創建福田院諸神殿碑記	1800	協成号、大益炒爐など36軒	214.40	36	37.60	1.04	17.54%
107	増修白雲寺碑記	1803	照興義など11軒	158.55	1	17.40	17.40	10.97%
111	重修龍泉山東岩寺募化郷村碑記	1809	長盛泰記	110.92	1	0.60	0.60	0.54%
114	東岳駕前制提爐鳳扇碑記	1810	源興号など3軒	80.00	1	4.50	4.50	5.63%
118	重修真澤宮後殿碑記	1813	銅行	170.00	1	10.00	10.00	5.88%
125	重修成湯殿碑記	1817	輔興号、協成炒爐など5軒	791.20	5	6.80	1.36	0.86%
126	真武廟重修碑記	1817	常盛号	813.79	1	1.00	1.00	0.12%
129	補修広淵廟宇碑記	1819	天福鹽号、常源鹽号など3軒	93.30	3	9.00	3.00	9.65%
130	補修正殿舞楼山門碑記	1819	信成店など9軒	70.00	9	12.00	1.33	17.14%
156	補修済瀆廟碑記	1844	太平王恒泰など50軒	181.00	50	90.00	1.80	49.72%
157	重修九江大王廟碑志	1844/1845	徳盛布店	180.90	2	3.00	1.50	1.66%
174	重修行宮碑記	1860	馬凸嶺協和号、張家荘徳裕当	221.43	2	3.00	1.50	1.35%
179	純陽帝君庚建小花亭記	1864	億順和店	103.66	1	5.00	5.00	4.82%
181	炎帝廟重修花費碑記	1866	双興号	1.30	1	1.30	1.30	100.00%
184	重修馬王廟碑序	1870	悦盛誠、辿街源立塩店、龍王三合銭局、四盛合肉架、通順薬局など36軒	769.22	37	85.24	2.30	11.08%
186	重修玉皇廟碑文	1874	天佑店	2.00	1	2.00	2.00	100.00%
196	重修関帝廟碑記	1887	庫倫興茂永など37軒	158.50	37	60.00	1.62	37.85%
198	重建五龍廟碑記	1889	□和義、天順爐、大徳当など58軒	185.40	58	131.50	2.27	70.93%

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
201	重建後稷廟鐘楼記	1892	協太和、元化楼、興隆廠、思義当など97軒	414.05	99	246.65	2.49	59.57%
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	1892	天津通順号、楽亭県双發合、獲鹿県三合永、山東周村成興東、河南恒□□など26軒	49.00	1	49.00	49.00	100.00%
207	重修館廟募化碑記	1894	義興隆、双盛染坊、王鳳楼、銀太飯鋪、常鉄爐、皮匠鋪など26軒	230.60	26	11.90	0.46	5.16%
218	補修真武廟碑記	1908	宝和長、宝豊当など25軒	177.10	25	61.20	2.45	34.56%
合計				7,847.15	489	1,194.22		
平均				217.98	13.58	33.17	6.48	21.34%
銅銭建て								
72	増修西殿五瘟神客堂舞楼東南楼創修西南楼序	1771	三和店、公鹽店、瑞基典など25軒	15,850	25	10,100	404	63.72%
79	姑射山南仙洞碧岩寺創建楽亭碑記	1776	永興店	69,870	1	450	450	0.64%
83	重修成湯大帝廟碑記	1780	積玉号	30,050	2	600	300	2.00%
88	二仙廟重修記	1788	義順号	140,140	1	270	270	0.19%
92	重修真澤宮碑記	1792	□盛号、東剛三盛号	64,000	2	3,800	1,900	5.94%
98	大清国山西澤州府陵川県普安郷下川都廖池村重修碑記	1798	三同号、復興店、義興煤窯など9軒	82,150	9	3,600	400	4.38%
101	重修柏山聖母陀郎劉王諸神廟記	1799	王進号	174,086	1	400	400	0.23%
102	創建福田院諸神殿碑記	1800	泰成号など3軒	23,100	3	1,600	533	6.93%
104	重修静養洞碑記	1801	和暢号、永興号	148,100	2	2,700	1,350	1.82%
107	増修白雲寺碑記	1803	福興鋪、恒昌号、敬興当など17軒	207,200	17	12,400	729	5.98%
108	重修碑記	1803	首事各舗戸関など3名、義和号、永寧当	84,466	3	2,650	883	3.14%
109	仙堂寺重修碑記	1804	広聚号、太和花店、新明坊、以成当、亨通典など25軒	125,400	25	23,200	928	18.50%
118	重修真澤宮後殿碑記	1813	同益昌、鹽店、万興坊、金華楼、油行、吉亨当など153軒	159,000	153	139,300	910	87.61%
124	東石甕村創修舞楼碑記	1815	祥興号	554,300	1	2,000	2,000	0.36%
125	重修成湯殿碑記	1817	合順号、協成飯店、三合窯、協裕爐、義成染房など9軒	220,400	9	12,200	1,356	5.54%
129	補修広淵廟宇碑記	1819	公興号、大興号、増盛号	6,200	3	2,400	800	38.71%
130	補修正殿舞楼山門碑記	1819	西允興、蒙泉号、同義店など40軒	132,032	40	39,600	990	29.99%
132	重修府君廟碑序	1821	義興号、徳生当、猗氏万順義油店	51,750	3	2,700	900	5.22%
138	重修耳殿煖閣並創建正殿煖閣碑記	1826	万順油店、義盛油店、義興油店、文華楼	7,900	4	1,000	250	12.66%
139	補修白雲寺碑記	1827	宏盛号、三家店など9軒	127,400	9	6,800	756	5.34%
151	重修三教堂碑記	1836	全興号	180,100	1	4,000	4,000	2.22%
152	重修陂池碑記	1839	光興号	154,398	1	1,500	1,500	0.97%

番号	碑刻名	建碑年	寄付者	寄付総額	件数	寄付額	1件あたり金額	占有率
156	補修済瀆廟碑記	1844	□道生店、□寧恒興坊など4軒	16,600	4	8,100	2,025	48.80%
158	三嶐廟重修碑文	1845	德盛号、郭張塩店、双成衣店、福盛楼、德順当など27軒	258,500	27	157,500	5,833	60.93%
162	趙家庄合社公請揺会碑文	1849	永興長、協昌面店、豊盛当など5軒	168,000	5	17,500	3,500	10.42%
163	補修真澤宮碑記	1850	壺邑公義号、太興麺店、松盛坊、缸碗窯、太昌当など10軒	2,070,290	10	4,000	400	0.19%
164	重修白雲寺碑記	1851	東通順、懐府公興号、河文磨戸秦和永、三盛磨など19軒	354,350	19	8,800	463	2.48%
167	重修二仙館碑記	1851	金興号	482,100	1	4,000	4,000	0.83%
168	重修（関帝廟）碑記	1852	王太和、河曲天太号など5軒	191,000	5	13,000	2,600	6.81%
169	創修九間碑序	1853	全興号	282,100	1	1,000	1,000	0.35%
181	炎帝廟重修花費碑記	1866	興隆慶、仁合号、敬盛麺店、裕昌塩店、丘盛麻店、栄盛染坊、鳳邑大發楼、公盛窯、恒太炒爐、益栄典など96軒	623,450	96	263,100	2,741	42.20%
186	重修玉皇廟碑文	1874	周口泰順合、裕順泰、済裕塩店、同合煙店、協興衣店、広興酒店、太順銭店、永利布店、輝邑依成坊、敬合油房、北上碾、慶益銭局、吉隆典など94軒	520,530	94	254,400	2,706	48.87%
188	修（介神）廟碑記	1876	長泰当	170,130	1	20,000	20,000	11.76%
190	補修関帝媧皇広生殿並重建楽楼碑記	1877	石灰窯、石灰窯武懐富、圪蚋鋪など12軒	1,077,400	12	101,000	8,417	9.37%
192	重修楽楼碑記序	1880	五瑞祥、仁義店など59軒	61,600	59	33,900	575	55.03%
193	重修骷髏廟碑記	1884	城関聚字号、闔邑当商、義合成、泰順成	1,366,000	4	432,000	108,000	31.63%
196	重修関帝廟碑記	1887	福裕成、和成恒源号、高邑義和塩店、富盛当など33軒	185,200	1	61,000	61,000	32.94%
202	補修真澤宮碑記	1892	公合当行、附城鎮布行、永□坊楊德力など6（軒 / 行）	985,000	6	8,500	1,417	0.86%
203	補修真澤宮募化四方布施碑記	1892	永成泰、祥盛衣店、同茂永油行、保和塩店、滑県当行、德義染坊、□郡錫貨行、板安窯、高荘涌源油房など121（軒 / 行）	2,232,300	92	183,700	1,997	8.23%
212	重修玉皇廟碑記	1901	公和合、義合成	1,057,000	2	4,000	2,000	0.38%
217	重修五聖宮碑記	1906	三盛美、公和店、李寛麻鋪など28軒	113,900	28	46,300	1,654	40.65%
218	補修真武廟碑記	1908	解州慶余正、洪邑吉祥典など64軒	90,315	64	69,000	1,078	76.40%
合計				14,661,597	806	1,945,250		
平均				407,267	22.39	54,035	6,936	19.84%